

なんざんだいがく

南山大学

こうしきやきゅうぶ

硬式野球部

OB会 南友会 会報

2025 春・秋

【2025.2 -2025.11】

OB・OGの皆様へ

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、今シーズンもリーグ戦全日程を無事終了いたしました。つきましては、ここに部報を発行する運びとなりましたので、ご報告申し上げます。

OB・OGの皆様には、日頃より多大なるご支援ご声援を賜り、心より感謝申し上げます。お忙しい中、連日試合会場まで足をお運びくださり、誠にありがとうございました。

また、金銭的な面におきましても、多額のご芳志を賜り、厚く御礼申し上げます。頂戴いたしましたご支援は、連盟登録金や球場使用料など、チーム運営費として大切に使用させていただきました。皆様
の温かいご支援があつてこそ、我々は日々の活動に打ち込むことができいております。重ねて御礼申し上げます。

今季は、昨シーズン果たすことのできなかった「二部昇格」を最大の目標に掲げ、部員一同、日々練習に励んでまいりました。

春季リーグでは三部優勝を果たすも、残念ながら入れ替え戦で涙を飲みました。しかし、その悔しさを糧に挑んだ秋季リーグでは、再び三部で優勝。そして、迎えた入れ替え戦においても勝利を掴み、**24年ぶりとなる二部昇格を成し遂げることができました。**

この快挙は、ひとえにOB・OGの皆様の長きにわたるご支援、ご声援の賜物と、部員一同、深く感謝しております。

今リーグをもちまして、南山大学硬式野球部は新体制へと移行いたしました。

日頃よりご支援くださるOB・OGの皆様へ、より良い結果と感謝の報告ができるよう、新チーム一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

敬具

南山大学硬式野球部

主将 辻 葵斗 主務 小野 朗 マネージャー 奥村 青葉

南山大学硬式野球部OB会 南友会 会則

第1章 名称

第1条 本会は南山大学硬式野球部OB会南友会と称す

第2章 目的

第2条 本会はOB間の親睦を図り、現役に対し、指導援助を行う

第3章 会員

第3条 本会は南山大学硬式野球部卒業生および、それに準ずる者を会員とする

第4条 本会は下記の役員を選出する

- ① 会長 1名
- ② 副会長 若干名
- ③ 会計 1名
- ④ 監査 1名
- ⑤ 理事 若干名
- ⑥ 顧問 若干名
- ⑦ 幹事 若干名
女性担当幹事 若干名（4年に1名程度とし息のかかる状態が望ましい）
学年担当 卒業年度に各1名
- ⑧ その他必要と認められた役員を選任する
名誉会長 相談役
- ⑨ 役員の兼任を妨げない

第5条 会長は会務を総括し、副会長は会長を補佐し、会長に支障あるときはこれに代わる

第6条 役員の任期は4年とする 但し留任を妨げない

第4章 行事

第7条 第2条の目的を達成するために下記の行事を行う

- ① 総会は、4年に1回行う
- ② 臨時総会は必要に応じ行う
- ③ 役員幹事会は毎年1回以上行う
- ④ 年1回以上の現役対抗OB戦を行う

第5章 運営

第8条 総会及び役員幹事会の決定は、出席会員の過半数の賛成によって成立する

第9条 本会の事務局は会長指定のところに置く
尚、口座所在地は会計担当宅にすることを可とする

第10条 事務局は会員への連絡並びに庶務を行い会の実務を運営する

第11条 幹事、学年担当は、会の要請により会員への連絡を依頼された場合速やかに対応する

第12条 本会の会務は南山大学硬式野球部報/OB会南友会会報或いは報告書をもって会員に報告する

第6章 会費

第13条 会員は会費を納めなければならない

本会の会費は
卒業初年度 3,000円（1口以上）
卒業2年以降 5,000円（1口以上）
女性会員 3,000円（1口以上）

第14条 本会の会計年度は、4月1日から3月31日までとする

第15条 会計監査は年1回 毎年3月の定例役員幹事会で承認をうける

第7章 会則の変更

第16条 会則の変更は、役員幹事会において決定する

第8章 実施

第17条 本会則は平成14年4月1日より実施する

平成20年4月1日 第4条改正

平成23年3月26日 第4条・第6条・第7条改訂

令和1年9月14日 第9条改訂

青年は
 熱と意気
 而して
 顧みるときこの
 微笑である
 森 茂也



2003年12月7日 南山大学硬式野球部OB会南友会定期総会の席上、
 森 茂也歴代部長が、述べられた言葉 森 茂也先生書
 (この色紙は部室に掲示しております)

リーグ戦観戦記

藤栄 啓介(77期) 上村 修市(78期) 大橋 恵一(81期)

9月28日(土)

大同大学元浜グラウンドで行われた名工大戦に藤栄さんと上村さんが応援に駆けつけてくれました。

上村さん名古屋外国大学戦に続き2回目の応援で、藤栄さんは望遠レンズ付きのカメラを持参。選手の写真は、藤栄さんが撮影したものです。



右が藤栄啓介氏、左が上村修一氏



試合の様子

チームの特徴と現在の状況を尋ねられたので、「今年のチームは、4年生が多く残り中心選手として活躍しています。チーム状況ですが、春はほとんどの試合で圧倒的な力で大勝しましたが、この秋は春ほどの迫力はなく接戦の試合もあります…」と答えると、

藤栄さんは、「4年生の写真が撮りたいので打席が回ってきたら教えてくれ」と言われました。4年生の写真は、入替戦観戦記に掲載します。

試合は両チームがチャンスを作るも得点できず、9回の表に1点を入れて辛くも逃げ切りました。

胃の痛くなる試合だと感想を言うと、上村さんは、「こういう接戦を勝ち上がった方が入替戦で良い成績が残せるのでは」と言われました。

「入替戦も応援に来るので、また教えて欲しい」という言葉をいただき、解散しました。



安堵する選手たち



後日、10月11日(土)淑徳大戦で、宮城選手に4年生で残っている選手を確認したところ、「投手の棚瀬がいますよ」とのことだったので、慌ててブルペンで投げている写真を撮りました。

最後にマウンドに上がり見事0点に抑えましたが、写真が撮れませんでした。申し訳ない。

棚瀬 柊人投手(大橋撮影)

入替戦観戦記（第2試合）

10月26日(日)パロマ瑞穂野球場で行われた入替戦第2戦、この日応援に来たのは、77期藤原啓啓さん、78期上村修市さん、橋明彦さん、81期新谷福男さん、島田和典さん、大橋恵一、94期木村友浩さん(前監督)、佐藤啓アナウンサーです。この日も多分多くのOBの方が観戦してたでしょう。



7番右翼手西塚制覇

試合は前日と打って変わって重苦しい雰囲気。前半はランナーは出すもののタイムリーは出ず。5回表に3点を取られ0対4の劣勢。その後相手投手の暴投などで1点ずつ返していきます。ポイントは8回表から勝ちパターンの森上投手を登板させたこと。森上投手は0点に抑え8・9回に1点ずつ点を取り同点とし、延長タイブレーク10回裏齋藤奨太選手の犠飛でサヨナラ勝ちとなりました。

ここで入替戦に応援に来られた方からの激励のメッセージを送ります。

祝 2部昇格

知らなかった→24年ぶりの2部とは
知った→上級生が、昇格の為に引退を伸ばしてくれたことを
感謝する→入れ替え戦観戦を理由に、名古屋に来られて先輩・同輩後輩と語り
飲めたことにありがとう→現役生諸君 **!!** 感動を！ 橋明彦

橋さんは広島在住。春の入替戦2・3回戦を観戦し、秋の入替戦1・2回戦を観戦しました。



2番ショート小西裕一郎

二部昇格、本当におめでとうございます！ 厳しい練習と仲間を信じる気持ちが、この素晴らしい結果を

生みました。先輩として誇りに思います。これからも自分たちの野球を信じて、更なる高みへ挑んでください。堀井 剛



同点タイブレーク前のスコアボード

ニューボール進呈としての好成绩なら、次回も選層組で追加します。

栗木 久直

練習球が足りないということを聞き、進呈したものです。これからもよろしくお祈りします。

「祝 2部昇格」

南友会会長 大橋 恵一（昭和60年卒業）



晩秋の候、南友会会員の皆様におかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は南友会の運営にあたり、多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度の成績ですが、春季3部リーグ戦では、ほとんどの試合が圧倒的大差で勝ち、全勝優勝を果たしました。
パロマ瑞穂野球場で名古屋産業大学と行われた入替戦でも、5月31日(土)の1回戦は9対0の大差での完封勝ちで飾りました。これだけの実力があればこの春2部に上がるのではないかと思われましたが、失速し6月1日(日)の2回戦では0対5の完封負け、6月2日(月)の3回戦は1対5で負け2部昇格は夢と終わりました。

しかし何よりも残念だったのは、頑張ってきた4年生が2部で戦うことができなかったことでした。

秋季3部リーグ戦では、全勝優勝を果たしたものの春季リーグ戦と打って変わって苦戦する試合が多々ありました。

9月20日の大同大学戦では、5回で1対5と大差をつけられ、7対6と逆転したものの9回の裏にノーアウト満塁のピンチを招いたものの、あわやサヨナラ負けも脳裏をよぎりましたが、何とかピンチをしのぎ勝ちました。9月20日の名工大戦では、相手投手を打ち崩せず9回に1点を取り何とか守り勝ちました。

このまま優勝しても入替戦はどうかと思いましたが、その日観戦に来ていた昭和57年卒業のOBの方は、「こういう接戦を勝ち上がった方が入替戦で良い成績が残せるのでは」と述べていました。

さて、パロマ瑞穂野球場で春季と同じ名古屋産業大学と行われた入替戦では、10月25日(土)の1回戦では22対4で圧勝しました。何か春季入替戦と似ていると思いつつ、10月26日(日)の2回戦では前半リードされながら、粘りを見せ1点ずつ点数を重ね9回に追い付き、延長10回タイブレークの末サヨナラ勝ちしました。まさしく3部リーグ戦で接戦を経験したことが、糧になったようです。

これで悲願の2部昇格を果たしました。何と24年ぶりのこととのことだそうです。

今年の入替戦とリーグ戦では多くのOBの方が応援に来ていただきました。私が顔を知らない若いOBの方も多く来ていただけたと思います。この場をお借りして応援ありがとうございましたとお伝えいたします。

また、春季入替戦の残念会を実施し、その会費の残金56,000円を寄付してくれた76、77、78、80、81期のOBの方、秋季入替戦の1回戦に練習球1ダースを寄付してくれた77、78期のOBの方にもこの場をお借りしてお礼を言います。どうもありがとうございました。

来年2部に昇格することにより、様々な出費が増大します。微力ではありますが、我々もより多くのOB会費を現役部に提供したいと思っていますので、ご協力をよろしくお願い致します。

南友会事務局 Email: keichi.ohashi0316@gmail.com

野球部史を野球部 HP に掲載しています。内容をより濃いものにしたいと思います。皆様の情報をお寄せください。また、部報も一昨年よりHPに掲載しました。大学 HP(クラブ紹介)、同窓会 HPともリンクしています。

南山大学硬式野球部ホームページ: <https://www.nanzanbaseball0809.com/>

同窓会 HP: <http://www.nanzan.ac.jp/DOSOKAI/friendship/club.html>

愛知大学野球連盟 HP: <http://aubl.biz/>

2025年シーズンを振り返り

監督 横江光義

2025年のシーズンが終了いたしました。

秋期リーグ戦の結果、2部昇格という大きな目標にたどりつくことが出来ました。実力を確実に発揮続けてくれた選手の皆さん、およびそれを支えてくれたマネージャーの皆さんに深く御礼を申したく思います。

春期にあと一步での昇格を逃し、その反動があるかもしれないと内心心配をしていましたが、試合をしてみればどの試合も力強さを感じる戦いぶりで、感心することしきりでした。

私が試合前によく言っていた、

「緊張7分、余裕3分、緊張の中にもどこかで笑顔を」

本来ならば、試合で実力を出しやすくするためのアドバイスのつもりでした。

世界のホームラン王 王貞治氏に新聞記者が打席での心持ちについて質問した内容と、大相撲の名横綱、大鵬への取り組み前の心構えについて訊ねた回答が両者とも上記の心の配分で待ち構えている、と答えていたことをうけて、競技が違えども勝負に挑む際の心持ちとしてはこの配分が理想的と思い、述べてはいたのです。

しかしながら、こんな言葉が必要無いくらい、緊張感で潰れるという兆候をほとんど感じさせることない試合運びを、入れ替え戦に至るまで続けたのは見事でありました。

それも有り最後には上記の言葉はほとんどネタと化してしまいましたね。

来季はとうとう2部での戦いとなります。正直、勝利を得ることの難しさを感じながらの戦いとなることが予想されます。1部・2部との練習試合でも今までと違い主戦力が出てくるため善戦すら出来なくなるかもしれません。

これを覆すには、敗北から学び、いかに各個人が実力を伸ばせるかどうかにあるかと思えます。挑戦者として、貪欲な向上心を持った心構えで挑んでいただきたいですね

最後に、OBの皆様、これまで以上に緊迫した試合が行われることとなります。さらなる応援、支援をよろしくおねがいたします。



2025 年春

- | | |
|--------|---------|
| 2月10日～ | 春季練習開始 |
| 2月21日～ | 春季オープン戦 |
| 4月 6日～ | 春季リーグ戦 |
| 7月 5日 | 上南戦 |

春オープン戦成績

2024年10月26日 vs 岐阜大学 3-3
11月24日 vs 名古屋大学 10-7

2025年2月21日 vs 同朋大学 12-7
2月23日 vs 星城大学 4-9
2月28日 vs 愛知教育大学 0-4
3月9日 vs 日本福祉大学 1-2
3月18日 vs 愛知教育大学 1-5
3月21日 vs 皇學館大学 9-8
3月26日 vs 静岡大学 13-11

春リーグ戦成績

2025年4月12日 vs 名古屋大國語 19-0
4月19日 vs 名古屋工業大学 7-3
4月20日 vs 名古屋市立大学 20-0
4月26日 vs 愛知教育大学 20-5
5月3日 vs 豊橋技術化学大学 15-1
5月4日 vs 大同大学 10-3
5月11日 vs 愛知淑徳大学 10-0

入れ替え戦

5月31日 名古屋産業大学 9-0
6月1日 0-5
6月2日 1-5

」

背番号 22 花井慧汰(はないけいた)

京都府 京都外大西高校 4年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦、お疲れ様でした。そして、お忙しい中球場まで足を運んで頂いた OB、OG、父兄の皆様、応援ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。今年に入り、新チームが始動しました。最高学年の 4 年目で迎えた春季リーグでは 1 年越しにリーグ優勝を果たし入れ替え戦へ進むことができました。昨年の悔しさから少しでもチームの力になれたのではないかと考えています。しかし、入れ替え戦の 2 戦目から自分たちの本来の野球をすることができず、1 勝 2 敗と 2 部昇格の目標を達成することはできませんでした。入部当初から 2 部へチームを導き、2 部で勝てるチームを作る目標を達成することは果たせませんでした。しかし、2 部昇格への目標はまだ秋チャンスが残っているので、そこで必ず果たしたいと思います。そして、今年で最後の上南戦を迎えました。上智大学へ乗り込み、暑の中全員野球で挑みましたが後一歩のところで勝利を逃してしまいました。しかし、最後の上南戦悔いなくプレーすることができました。4 年間上智大学の野球部と年に 1 回交流しながら野球ができたことはいい思い出です。

最後の秋リーグ、自分にとって野球人生も残り半年。最後までチームの勝利を考え、チームのために尽くしていきたいと考えます。そして、この秋季リーグ戦秋季リーグ戦で必ず遠ざかっている 2 部昇格を果たし

て見せます。勝って笑っていい形でシーズンを締めくくられるようにこれからも全力でプレーしていきます。これからも応援よろしく願い致します。

背番号 1 西塚制覇(にしづかせいはい)

三重県 海星高校 4年



春季リーグお疲れ様でした。日頃よりリーグ戦開催、そして硬式野球部活動にご協力いただいている多くの方にこの場を借りて感謝申し上げます。

時の流れというもの是非常に早いもので、あっという間に最高学年となり、最後の学生野球の年を迎えております。今年のチームは昨年とスタメンや投手陣の顔ぶれがほとんど変わらないという非常に珍しいかつ戦力に恵まれた構成であると感じます。その中でもオープン戦や練習を通して、現状に満足せず高みを目指すことができる選手が多いと思います。

そのおかげもあり、リーグ戦では見事全勝優勝を果たし、入替戦にすすむことが出来ました。初戦名古屋産業大学に勝利したものの、2 戦目、3 戦目と敗戦し 3 部残留となりました。2 戦目、3 戦目ともに相手に劣勢の状況の中でチームとして跳ね返す力がなかったことが原因であると感じております。個人としても、リーグ戦で最も優秀な成績を収めた大学 2 年生のシーズンと比べると、打撃成績として見劣りするシーズンが続いていますが、あらゆる場面で自身の打撃スキル向上を感じることが多くあ

り、球速帯の不一致による成績低下であると分析しております。しかし、入替戦では毎試合ヒットを打ち 2 出塁ずつ取っております。より投手対打者としての対戦を楽しむことが出来る舞台は 2 部であると自覚しておりますが、その舞台でプレーすることができないということを踏まえるとなんとしてでも、今回昇格しておきたかったなと悔しさが残ります。リーグ戦では愛知教育大学戦で 2 本の本塁打を打ち、入替戦のパロマ瑞穂球場では、引っ張り方向のフェンス直撃や逆方向のフェンス手前の飛球、オープン戦での本塁打やフェンス直撃など長打力という面で磨きがかかっていると実感しております。

先輩方や横江さんがおっしゃっているように 20 歳越えると体力、身体の元気がガクッと落ちると脅されてきましたが、そのように感じることはなく、丈夫な身体に産んでくれた両親に感謝です。入学したばかりの大学 1 年生の春季リーグからリーグ戦に起用していただき、その後全シーズンレギュラーとして起用していただいたことにこの場を借りて感謝申し上げます。そのような立場のなか、チームを離れることに責任を感じますが、今後とも後輩たちのご活躍を期待していただきたいです。

背番号 44 棚瀬柊人(たなせしゅうと)

愛知県 名東高校 4 年



OB・OG の皆様、平素より温かいご声援とご支援を賜り、

誠にありがとうございます。

今季、私たちは春リーグにおいて部員一丸となって戦い抜き、見事優勝という結果を収めることができました。ここまで積み上げてきた日々の練習の成果が実を結んだことを、大変うれしく思っております。特に 2 年生を中心とした下級生の台頭もあり、チームとしての成長を実感できるシーズンとなりました。試合ごとに粘り強さが増し、苦しい局面でも声を掛け合って乗り越える団結力を育むことができました。

しかしながら、念願であった 2 部リーグ昇格をかけた入れ替え戦では、一勝するも、あと一步及ばず、悔しい敗戦を喫しました。応援して下さった OB の皆様には、良い報告ができなかったことを大変申し訳なく思っております。試合後、選手・スタッフ一同は自らの実力不足を真摯に受け止め、涙とともに反省し、すでに次なる秋リーグに向けた準備を開始しております。

今シーズンを通じて得た経験と課題は、私たちにとって何よりの財産です。あと一步届かなかったその差を埋めるべく、夏のトレーニング期間を最大限に活用し、基礎体力の向上はもちろん、組織としての戦術理解・実行力の強化に重点を置いて取り組んでまいります。

また、4 年生にとってはラストシーズンとなる秋リーグ。このチームの集大成を、悔いのないかたちで終えるために、部員一同、「昇格」という明確な目標に向かって全力を尽くす覚悟です。

私たちがこうして活動を続けられているのも、日頃から応援し支えてくださっている OB の皆様の存在があってこそです。試合会場でのご声援や、激励のお言葉の数々が、選手たちの背中を押し、困難な状況でも踏ん張る力になっております。心より感謝申し上げます。

どうか今後とも変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしく願い申し上げます。秋リーグでは、必ず結果で恩返しできるよう、ひとつひとつのプレーに魂を込めて戦ってまいります。

背番号 3 宮城翔生(みやきかい)

奈良県 天理高校 4年



まずは春リーグにおいて、弊部に対して格別のご声援を賜りましたこと、この場ではありますが感謝申し上げます。結果は三部優勝ということで、日々の練習の成果が遺憾なく発揮されたことだと思います。そして日頃からご支援・ご声援していただいている方に、吉報を伝えることができたことだと思っております。さて本題に入りたいのですが、筆者は春リーグに出場ないし関与しておりません。というのは、この時期私自身が医療機関の方から野球禁止を言い渡され、思うように野球に取り組むことができませんでした。残り少しの大学野球人生の半ばで、このような言葉は重くのしかかり、身体だけでなく、精神的に私は追い詰められました。そんな中で私の同期がリーグ戦で実力相当の結果を出し、喜びを感じながらも、同時に劣等感を感じずにはいられず、自分自身を見失うこともありました。とはいえ、そんな同期に必要以上2年に支えられながら、私はもう一度野球に向き合うことができました。今後もしつ野球禁止を言い渡されるかわかりかねますが、今はただ必死に練習に取り組むべきであると考えております。

本題で何を読者の皆様にお伝えするべきかと、日々試行錯誤しておりましたが、お世話になった同期についてコメントをしたいと思います。まずは昨年度主将を務めた花井君ですが、今年度もそのリーダーシップは健在で、チームをプレーそして熱い言葉で牽引してくれてい

ます。続きまして、西塚君について言及させていただくと、1試合2本塁打という驚異的な結果をこの春リーグで残してくれました。しかし彼の練習量とレベルから鑑みれば、ある意味驚くことでもないようです。三人目は小西君についてですが、昨春から始めた筋トレが功を奏し、打撃がさらに向上し、今春のリーグ戦において、最優秀選手賞を受賞いたしました。この場ではありますが、彼に賛辞を送りたいと思います。投手に移りますが、初めに小谷君。就職活動と野球を両立をし、長い間南山大学野球部の絶対的エースとして君臨してきました。昨年度から引き続き投手兼投手コーチを務めますが、彼の手腕に期待が高まっています。最後に棚瀬君。アグレッシブなプレーは時にチームを困惑させることもありますが、マウンドでの佇まい、ベンチワークには一目置くところがあります。秋リーグでは、ぜひ最優秀防御率と最多勝の二冠を達成してもらいたいところです。最後になりましたが、私は必ず復活を遂げてみせます。かつてないパワーと迫力を皆様感じてもらいたいところです。ただ迫力が時にはハラスメントに当たることもあるらしいので、チームのみんなには優しく接していただけたらなと検討しております。拙い文章ではありましたが、一読していただきありがとうございました。今後も南山大学硬式野球部をよろしく願います。

背番号5 齋藤奨太(さいとうしょうた)

三重県 三重海星高校 3年



春季リーグ戦や新人戦、入れ替え戦、上南戦とお疲れ様でした。

春季リーグ戦では、秋季リーグでの悔しさを糧として優勝を果たすことができました。しかし、その後の入れ替え戦では1勝2敗という結果で2部昇格という目標を果たすことはできませんでした。

今年のリーグ戦では、やはり得点力が特に目立ったリーグだと思いました。7試合で103得点という記録は過去の成績と見比べてみても上位に君臨する数字であると思います。その要因としては、打撃力が高かったことはもちろんだが、走塁への意識が強かったことが得点に繋がったのではないかと思います。記録でも盗塁が他よりも3倍以上多くあり、練習からの意識付けが身についた結果だと思います。また、守りの面でも1人1人の投手が最少失点で抑えきることができており、守備からリズムが打撃にも繋がってくると自分は考えているため、投手陣にはこの記録を目標として来シーズンも戦い抜いてほしいです。そして、今回果たせなかった2部昇格を果たせるように精進していきます。

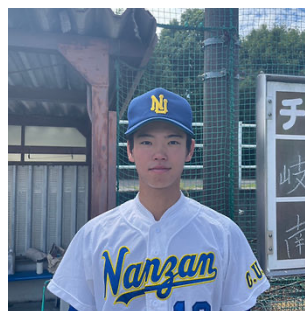
個人としては、主に三塁手のレギュラーとして出場する機会を多く与えてもらいました。チームの勝利のために最善を尽くし、他の選手よりも一歩前に出て行動することや常に上級生として自覚を持つこと意識していました。打撃面に関しては、下位打線を任せられることが中心となりました。そのため、自分の仕事は上位打線にチャンスで回すことを1番に考え、出塁率の底上げを求めて挑みました。その結果、出塁率は.565という数字を残すことができました。この結果に慢心せず、常に打席の中で考え、状況を判断し、最善の選択を意識できる選手を目指していきたいと思っています。

夏休みの期間においては練習する時間がいつもよりも倍以上に多くあるため、高い気温の中ではあるが、上級生が中心となってチームの士気を高めていき、1日1日の練習を内容の濃いものになるように取り組んでいきたいと思っています。また、練習試合では普段出場機会の少ない選手にも機会があると思う

ので、1人1人がチームの戦力であることを考え、この夏の練習に励んでほしいと思います。

背番号 13 深谷陸登(ふかやりくと)

三重県 三重海星高校 3年



春季リーグ戦、入れ替え戦お疲れ様でした。そして新人戦、上南戦も本当にお疲れ様でした。

今季は、これまで積み重ねてきた練習やチーム全体での努力が実を結び、春のリーグ戦では見事に1位という結果を残すことができました。この結果は、選手一人ひとりの成長、そしてそれを支えるマネージャーやスタッフのサポートがあってこそその成果だと思います。私自身、リーグ優勝という経験は初めてであり、何よりもこのチームでそれを達成できたことに大きな喜びと誇りを感じています。

しかしながら、2部昇格をかけた入れ替え戦では、1勝2敗という結果に終わり、惜しくも昇格を掴むことはできませんでした。あと一歩のところまで来ていただけに、その悔しさは計り知れず、試合後には言葉にならない思いが込み上げてきました。入れ替え戦では、これまでのリーグ戦とはまた違った緊張感と重圧の中で試合が行われ、自分たちの持っている力を出し切る難しさを改めて感じました。

私は今季、投手リーダーという立場として活動してきました。チームの投手陣をまとめるという責任の重さに最初は戸惑いもありましたが、試行錯誤を重ねながら、仲間と支え合い、乗り越えてきました。そ

れでも、結果としてチームを2部に導く投球ができなかったことに、強い責任と力不足を感じています。また、自分自身が結果を残せず足を引っ張ってしまったことを本当に申し訳なく思っています。他にもリーダーとして、もっとできることがあったのではないかと、もっとチームを勝利に近づける働きができたのではないかと。そう思うことも少なくありません。

とはいえ、厳しいシーズンの中で、投手陣それぞれの成長や、チーム全体としての戦う姿勢を見ることができたのは大きな収穫でもありました。課題も多く残った一方で、今後につながる手応えも確かに感じたシーズンでした。秋季は春リーグで出た課題を克服しチーム一丸となって入れ替え戦での悔しさを晴らして欲しいです。

背番号 14 森上駿太郎(もりかみしゅんたろう)

愛知県 名古屋高校 3年



春リーグお疲れ様でした。

この春リーグでは、秋の反省をもとに冬の練習に取り組み、自分なりに準備を重ねてきました。しかし、まだまだ実力不足を感じる場面が多く、特に印象に残っているのは、出塁を許す場面が多く、自分の投球でチームにいいリズムを作れなかったことです。

ツーストライクまでは追い込めても、そこから粘られて出塁を許すという展開が何度もありました。決めきることができず、球数が増えてしまい、リズムを崩す要因となってしまいました。また、先頭打者の出塁も多く、守備のリズムやベンチの雰囲気にも影響

を与えてしまったと強く反省しています。自分の投球がゲームの流れを大きく左右するということを改めて痛感しました。

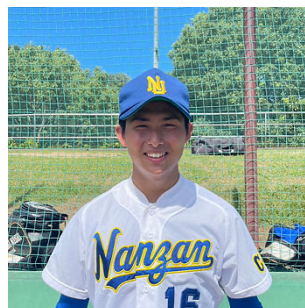
この課題に対しては、まずストレートのキレと精度をより高めていくこと、そして変化球、とくにスライダーの使い方や決め球としての完成度を上げていく必要があると感じました。変化球でカウントを整え、勝負どころでストレートを活かせるような配球を意識していきたいです。また、ツーストライクからの攻め方をもっと緻密に考え、粘られても慌てずに冷静に打者と向き合うメンタルの強さも必要だと思いました。

さらに、試合全体の流れを読む力や、自分がマウンドに立つ意味を考え直し、チームを引っ張るという意識を持って投げることの重要性も学びました。ピンチの場面でも気持ちを切らさず、打たれても顔に出さずに次の一球に集中する姿勢を身につけていきたいです。

この夏は、技術的な面だけでなく精神的にも一段階成長できるよう、基礎からしっかり見直して練習に取り組み、秋リーグではチームに流れをもたらす投球ができるよう全力を尽くします。

背番号 16 林侑真(はやしれいま)

愛知県 小牧南高校 3年



春季リーグお疲れ様でした。今回のリーグ戦では、3部で優勝し、入れ替え戦を勝ち2部に昇格すること

を目標としていましたが、3部優勝することは出来たが入れ替え戦では1勝2敗で3部残留という結果に終わってしまいました。なにかを変えないことには、秋季リーグに2部昇格ができません。個人的には、満足のいくリーグ戦にはなりました。バッティングフォームの変化やこれまでの筋力トレーニングの効果があって打率が過去最高の5割5分の残すことができました。自分の活躍がチームの勝ちに直結すると思っているので自分の成績の向上がチームに勝ちをもたらすことが出来て3部リーグ優勝にもつながったと思います。前回出塁率を上げることが目標と挙げていて打率が上がったことにより出塁率が上がって盗塁数を増加させることが出来ました。出塁率が高く盗塁を多くすることは相手チームにプレッシャーを与えることが出来ると考えているので続けていけるようにしていきたいです。しかし、この成績に満足することなくこれからも精進していきたいと考えています。入れ替え戦では初戦に安打を打ったものの2戦目、3戦目と安打を打つことが出来ませんでした。これが自分の欠点であると感じました。2部のピッチャーと対峙したときに成績が落ちてしまうのが練習試合からも感じられます。これを克服するために練習で速い球への対策をより一層していこうと考えています。今回チームとして攻撃力の良さや打線のつながりがよくなったと感じました。前回チームの弱点として挙げた失点の多さが克服されて3部リーグで一番失点が少なかったのがよかったです。しかし、失点は減っているが四死球が未だに多いことが弱点であると考えます。入れ替え戦でも四死球によりピンチになったり流れが悪くなることがあった。今春の練習では、実践の練習が少なくピッチャーがバッターと対戦する機会が少なかったためピッチャーの実践慣れが出来ていなかったのではないかと感じました。夏の練習や秋季リーグの前に実践を取り入れた練習をしていきたいです。最後に、秋季リーグでは3部優勝をして2部との入れ替え戦に勝てるよ

うにチームの一員として精一杯のプレーをしていきたいです。

背番号 25 今福優晴(いまふくゆうせい)

愛知県 名古屋経済大学市邨高校 3年



OB・OGの皆様、平素からの多大なるご支援ありがとうございました。並びに春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。今季は昨年達成できなかった3部リーグ優勝を果たしたものの、入れ替え戦では1勝2敗と勝ち切ることができず、2部昇格とはなりませんでした。リーグ戦では終始圧倒する試合展開が多く、7試合で100得点を超える攻撃力や機動力など自分たちが理想とする試合ができました。しかし入れ替え戦の3試合を経て、自分たちの力が通用する場面があった一方で、チームの総合力や、個人の力の向上が必要不可欠だと感じました。新人戦では惜しくも敗れたものの、1・2年生が中心となって2部の名古屋経済大学に対して堂々とした戦いができており、次に向けて明るい材料も見られました。秋季リーグでは「3部リーグ優勝・2部リーグ昇格」どういう目標に、より一層チーム一丸となって邁進していきたいと思っています。

主将となって初めてのリーグ戦で不安もありましたが、周りの支えもあってリーグ優勝を果たすことができました。しかし私自身は序盤に思うような結

果を残すことができず、これまでとは異なるプレッシャーや焦りからいつも通りのパフォーマンスが出せませんでした。その中で、積極性を忘れず思い切ったプレーを意識することでチャンスで打つことができ、最終的にこれまでと遜色ない結果を残すことができました。また無失策でリーグ戦を終え、守備面でもチームに貢献できたと感じています。入れ替え戦では3試合で1安打と打撃で振るわず、2部の投手に対してどう対応していくかが課題となりました。しかし今回の敗戦で自分の目指すべきレベルが明確になったため、秋にまた入れ替え戦の舞台に立ち、2部昇格に貢献できるよう努力を重ねていきます。今季は入れ替え戦への出場もあり、多くの方から応援や支援をいただきましたが、入れ替え戦や新人戦、上南戦と勝ちきれず悔しさが残るシーズンとなりました。この悔しさを忘れず、秋に必ずもう一度やり返すという気持ちを持ってこれからの期間を過ごしていきたいと思います。私たち選手一同、感謝の気持ちを忘れずにプレーや結果で報いれるよう懸命に戦ってまいりますので、OB・OGの皆様にはこれからも変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

背番号 55 永谷勇樹(ながたに ゆうき)

愛知県 国府高校 3年



春季リーグ戦、上南戦等シーズン前半戦お疲れ様でした。まず初めにここまで無事に活動を継続できたことをOBの皆様をはじめ、監督、マネージャー、保護者の皆さま、いつもご支援と応援をありがとうございます。今後も本部活動を継続的に行うために精進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。リーグ戦ではチームとして目標としていた優勝を果たすことができました。これもOBの皆様や横江監督ならびに保護者の方々の協力のおかげでできたものと思います。ありがとうございます。ですが入替戦では敗北を喫してしまい3部残留という結果になってしまいました。入替戦も僅差で負ける試合や、ホームランが出るなど良い面もたくさんありましたがエラーなど自分達からチャンスを作り出すことができないという課題も明白になった入替戦だったと思います。チームとしては昨年まで主力のメンバーが多く残りながら新しく1.2年生が試合に出る機会が増えるという一番いい状態でリーグ戦を迎えることができました。入替戦で出た課題としては相手からもらった四球やエラーのチャンスではなく自分達のヒットで点が取れないという現状があるので夏休みの練習で克服していきたいなと思います。個人としては大きな成長になった前半戦であったとおもいます。西塚さんや宮城さんが通っているバッティングのセッションに加え冬から健太と二人三脚でバッティングに取り組みました。正直なところ自分としても今までバッティングは何が自分があるのかわからずやってる部分があり、ですがセッションや健太に教えてもらったことにより自信や根拠を持ってバッティングに取り組むことができました。初めて大学野球においてホームランを打つこともでき春のオープン戦では何試合かスタメンで試合に出していただき高打率を保てたことは個人としてはとても自信になりましたしこれも日々支えてくれる人々のおかげだと思ひます。最後となりますが今リーグでは2部昇格は叶いません。

した。私はこのチームで一年生の頃からお世話になった先輩と大好きな同級生と後輩のこのチームで2部昇格を必ず成し遂げたいと思います。これからも応援のほどよろしくお願いします。

背番号 27 蛭川健太(ひるかわけんた)

愛知県西尾高校3年



春季リーグならびに上南戦お疲れ様でした。OB会や関係者の皆様、日頃からのご支援、ご声援ありがとうございました。上南戦では敗れたものの、春季リーグでは100得点オーバーで3部優勝を果たし、入れ替え戦でも初戦で勝利するなど、チームとして成長が見られたシーズンだったと思います。チームの目標である2部昇格が現実味を帯びてきたと感じています。しかし、私個人からするとこのシーズンはとにかく悔しさが残るものでした。オフシーズンにバッティングの試行錯誤を重ね、自信を持って挑んだオープン戦でしたが、全く結果が出ず、後半はベンチスタートが多くなりました。ここぞという場面で代打で出場しても結果を出すことはできず、リーグ戦でもチームの力になることは出来ませんでした。副キャプテンという立場であるにも関わらずプレーでチームに貢献できない自分が嫌になり、思い悩む日々が続きました。

次は自分の野球人生の節目となるリーグ戦です。就職活動やゼミなどが重なり、限られた時間をどのように過ごすかが大切だと思います。夏季練習の自分

のテーマは、"初球の外の真っ直ぐを逆方向に強く打ち返す"ということ。昨年の冬、変化球への対応というテーマで試行錯誤してきましたが、元々器用なタイプではない自分が欲を出して変化球を綺麗に打てるようにと意識しすぎた結果、真っ直ぐへの対応が鈍くなり、変化球にも手が出てしまうという悪循環に陥っていたのではないかと感じています。変化球はなんとかしてファールで逃げ、真っ直ぐを打ち損じないというスタンスで割り切った方が結果には繋がると思うので、そこを強く意識して行きます。また、チームとしてもまだまだ課題はあると思っています。昨リーグは打線好調でほとんどのゲームで相手に大差をつけて勝利していました。しかし2部のチームと互角、それ以上に戦うためには、一球への集中力がもっと必要だとも感じています。夏季練習では、テニスボールを使った練習など、速い真っ直ぐをきちんとアジャストする能力をチーム全体で上げていく必要があります。副キャプテンとして、今福を支えつつ、積極的にチーム運営に携わっていきたいと思います。

背番号2 海老壱喜(えひいつき)

愛知県 名城大学付属高校2年



春リーグお疲れ様でした。春リーグは3部優勝、入れ替え戦敗退という悔しい結果となりました。私自身、2部に行きたいという気持ちは強く、どの試合も全力で挑みました。しかし、個人としてあまり納得のしていない結果に終わりました。その原因は準

備不足にあると思います。冬や春休みは学問に力を入れていたため、部活との両立ができていなかった時がありました。特に、冬季のトレーニングにおいて自分の中で明確な目標を持たず、漫然と日々のメニューをこなしてしまったことが、春リーグでの結果につながったと感じています。また、技術面だけでなく、試合に向けたコンディショニングやメンタル面での準備も不十分であり、「もっとやれることはあった」と何度も自問するシーズンでした。副キャプテンとしての責任も痛感しています。チーム全体としても、日々の練習の質や意識の高さにムラがあったと感じており、そうした雰囲気にならされた自分がいたことも反省しています。そんな中で、入れ替え戦でホームランを打てたことには自信を持つことが出来ました。秋リーグでは、今回の悔しさを糧にして、準備の質を徹底的に見直していきます。まずは日々の練習において、自分自身が先頭に立って取り組む姿勢を示すこと、そして試合を想定した練習内容や課題の明確化を意識して、1日1日の積み重ねを大切にしたいと思います。また、チームとしても秋に向けて「2部昇格」という目標を再確認し、それぞれが自分の役割を果たせるよう声をかけ合い、まとまりのある集団を作っていきます。今回の春リーグを振り返り、自分に足りなかったものを一つずつ補い、秋には自信を持ってグラウンドに立てるよう、夏の期間を全力で過ごします。そして、チーム一丸となって2部昇格を成し遂げられるよう、全力を尽くします。

背番号 4 西出涼雅(にしで りょうか)

三重県 海星高校 2年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。自分自身が部活に入り、一年が経ち、二年生と学年が上がり、今年も野球部の一員として活動する中で、チームの一体感や野球の奥深さを改めて実感することができました。今年の上南戦では、上智大学に7-8で敗れ、悔しさの残る結果となりました。打線が粘り強く得点を重ね、最後まで諦めずに戦いましたが、あと一步届かず、1点の重みを改めて痛感させられる試合となりました。上智大学の走攻守にわたる高い完成度に刺激を受けると同時に、自分たちの課題も明確になりました。春季リーグ戦の結果を受け、2部の名古屋産業大学との入れ替え戦に臨みました。初戦では見事に勝利し、2部昇格に一步近づくことができましたが、続く2戦を惜しくも落とし、昇格とはなりませんでした。この3連戦を通して、チーム全体の成長と団結力は確かに感じられた一方で、昇格を逃した悔しさは非常に大きく、次のシーズンは必ず2部昇格を実現させたいです。新人戦では名古屋経済大学に対して、五回に一拳に6点差をつける猛攻を見せるも最終的に逆転されてしまい、あと一步届かず悔しい結果になりました。試合には負けてしまいましたが、普段、相対することのない格上のチームとの試合で、チームとして得られたものは大きいと思います。春リーグ、上南戦、新人戦を通して、攻撃でビハインドの場面や試合の後半で追加点を取ることができていないので、そういった点を改善することで、より格上の相手にも勝利することができると思っています。個人としては、

今季も出場機会には限りがありましたが、与えられた役割の中で、チームの力になれるよう努力を重ねてきました。プレー面での貢献は多くありませんでしたが、チームの一員として戦い抜いた経験は、自分にとって大事な経験となりました。次の秋季リーグ戦では、自分自身のスキルをさらに高め、チームにより貢献できる選手を目指したいと思います。また、こうして野球ができるのは、チームメイトやマネージャー、OB・OGの方々、応援して下さる皆様のおかげであることを忘れず、感謝の気持ちを持って日々の練習や試合に励んでいきたいです。

背番号 61年 高島壯汰(たかしま そうた)
愛知県 名古屋南高校 2年



南山大学野球部に入学してから1年が経ち、先輩方が引退され、後輩ができ、チームを支える立場となりました。そんな中で、自分に何ができるかを考え、チーム全体が野球に集中できる環境づくりに力を注いできました。特に、自分の強みである「声を出すこと」や、細やかな気配りを活かして、チームを明るく前向きに保つことを意識してきました。

昨季の悔しい経験をバネに、「次こそ2部昇格」という明確な目標のもと、練習にも一層気持ちを込めて取り組んできました。リーグ戦が近づくにつれ、チームの雰囲気も緊張感を帯び、互いに厳しい声を掛け合うようになっていきました。そして迎えた春のリーグ戦。あと一勝で優勝というところまで迫りましたが、惜しくも昇格への切符は手に入りませんでした。悔しさが残る結果でしたが、その分、秋への決意はより強くなりました。次のリーグ戦は、今の先輩方と一緒にプレーできる最後のチャンスです。一人ひとりが自分の強みを活かすことが、昇格への鍵だと感じています。大学野球にはDHやワンポイントリリーフなど多様な役割があります。9人だけで戦うのではなく、それぞれが自分の「出番」に備え、ベストを尽くすことが重要です。私は、チームが暗くならないように声を出し続け、明るい雰囲気を作ることが自分の役割だと考えています。

背番号 7 漆谷悠斗(うるしたにゆうと)
愛知県 愛知高校 2年



春季リーグ戦、入れ替え戦お疲れ様でした。そして新人戦、上南戦も本当にお疲れ様でした。

今季は、これまで積み重ねてきた練習やチーム全体での努力が実を結び、春のリーグ戦では見事に1位という結果を残すことができました。この結果は、選手一人ひとりの成長、そしてそれを支えるマネージャーやスタッフのサポートがあってこそその成果だと思います。私自身、リーグ優勝という経験は初めてであり、何よりもこのチームでそれを達成できたことに大きな喜びと誇りを感じています。しかしながら、2部昇格をかけた入れ替え戦では、1勝2敗という結果に終わり、惜しくも昇格を掴むことはできませんでした。あと一步のところまで来ていただけない、その悔しさは計り知れず、試合後には言葉にならない思いが込み上げてきました。入れ替え戦では、これまでのリーグ戦とはまた違った緊張感と重圧の中で試合が行われ、自分たちの持っている力を出し切る難しさを改めて感じました。私は今季、投手リーダーという立場として活動してきました。チームの投手陣をまとめるという責任の重さに最初は戸惑いもありましたが、試行錯誤を重ねながら、仲間と支え合い、乗り越えてきました。それでも、結果としてチームを2部に導く投球ができなかったことに、強い責任と力不足を感じています。また、自分自身が結果を残せず足を引っ張ってしまったことを本当に申し訳なく思っています。他にもリーダーとして、もっとできることがあったのではないかと、もっとチームを勝利に近づける働きができたのではないかと。そう思うことも少なくありません。とはいえ、厳しいシーズンの中で、投手陣それぞれの成長や、チーム全体としての戦う姿勢を見ることができたのは大きな収穫でもありました。課題も多く残った一方で、今後につながる手応えも確かに感じたシーズンでした。秋季は春リーグで出た課題を克服しチーム一丸となって入れ替え戦での悔しさを晴らして欲しいです。

背番号 8 繁澤和明(はんさわあき)

愛知県 昭和高校 2年



お疲れさまです。南山大学野球部2年生の繁澤和明です。あつという間に春のリーグ戦、新人戦、そして上南戦が終わり、猛暑の続く真夏となりました。今年の春季リーグでは、昨年の悔しさを胸に、一戦一戦に全力で挑みました。結果としては、リーグ戦で優勝することができました。入れ替え戦へ進み、初戦は勝利したもののそこから連敗してしまいあと一步のところまで2部リーグ昇格には届きませんでした。しかし2部リーグのチームに対しても互角に戦えており、チーム全体としての成長はしっかりと感じることができました。入れ替え戦は3戦目までつれたことで、テスト試験日と被ってしまいました。そのような中、みんなテストより試合を優先し、テストを欠席するようなメンバーもいました。これにはチームのリーグ戦に対する気持ちを感じることができました。また、新入生が早くも試合で活躍し始めており、今後のチームがさらに楽しみになってきています。今年の新入部員も20人近く入部してくれました。ポジションもバランスが良く、投手陣の後輩もたくさん入ってきてくれたおかげで僕自身にもいい刺激となっています。先輩としても負けていられない気持ちであり、練習により一層気合いが入っています。

現在は、秋のリーグ戦に向けて調整中です。連日の暑さで体力的にもきつい時期ですが、暑さに負けないように頑張っています。高校野球では夏の大会が始まり、試合の動画が流れてくるようになりました。そのような動画を見て高校時代の自分を思い出し練習にもより一層身が入ります。最後になりますが、いつも応援してくださっているOB・OGの皆さま、保護者の方々、関係者の皆さま、本当にありがとうございます。僕たちは支えてくださる皆さまへの感謝を忘れず、結果で恩返しできるようなこれからも努力していきます。部員一同、野球に真剣に向き合い、ひとつひとつ成長していきます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

背番号 12 天野陸翔(あまの りくと)

愛知県 大府高校 2年



春季リーグ戦お疲れ様でした。自分が大学受験を経て南山大学に入学し、南山大学硬式野球部に入部し、一年がたちました。新しく後輩も増えましたが、春先から貢献できずにいるのが現状です。春季リーグ戦は入れ替え戦まで行くものの惜しくも3部リーグ残留という形になりました。2部リーグに所属していた実力はやはり健在で、力の差を感じました。2部昇格に向けて個々、ポジション、チーム単位に必要なことを分析し、改善することで2部昇格を目指せる位置にいるので秋季のリーグ戦に向けて

練習していきます。個人的にはまずは怪我を治すこと。昨年から投球時に痛みがあり、少しずつ回復している状態です。まずは全力投球できるようにしたいと思います。全体練習の時間が多くないので、その中でやれることに取り組みもうと思います。怪我が感知したら新球種の取得と制球力をより高めていきたいと考えています。新球種は木製バットの相手にはタイミングを外すだけでなく、芯を外すことで抑えられるので、新球種を取得することで投球の幅が広がると考えたからです。球速に関しては投手として魅力的な数値だと思いますが、抜群の制球力があればどんな相手でもある程度戦えると思うからです。制球力を向上させるために下半身の強化、週2回と決して多くない練習の中で感覚を失わないようにすることを心がけ、大学生になった以上自己判断、自己責任で物事が進んでいくので有限である時間を学業やアルバイトとも両立しつつ野球に打ち込めるといいと思います。まだまだ自立をしきっていないので周りの方への協力のもと野球ができていることを忘れずプレーしていきたいと思います。今後もご声援よろしく願いいたします。

背番号 15 石川遥祐(いしかわ ようすけ)

愛知県 名古屋高校 2年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れさまでした。昨年の結果を受けてチーム全体で努力してきたものが少しずつ形になっていることを肌で感じる事ができ、とてもやりがいを感じる春になりました。しかし、個人の結果だけ見れば最悪の春でした。肩の痛みはいつまで経っても治らず、注射をして痛みに耐えながら投げる形となりました。普段の練習試合から田島や深谷さんなど同じピッチャーが毎試合長いイニングを投げていたのを見て少しでも負担を減らしたいと思ってはいたのですが全く体はついてこず、リーグ戦でも投げては打たれの繰り返しとなってしまったこととても申し訳なく思っています。夏から秋にかけては少しでもチームに貢献できるように努力していきます。個人的に1番楽しかった試合は新人戦の名古屋経済大学戦でした。2年生はとても活発な子が多く、今年入ってきてくれた1年生もとても元気な子が多くて、ベンチはとても大盛り上がりでの試合でした。結果は惜敗でしたが、あつという間に時間が過ぎてしまったように感じた試合でした。高校野球では監督という選手からはある程度恐れられなければならない存在がいて、騒げば高野連から高校生らしくないという意味の分からないクレームを入れられて中々あのような雰囲気での試合をすることはありませんでした。しかし、あの試合はまるで祭りのような大盛り上がりでの雰囲気での試合を行うことができ、中盤までは相手を飲みこむような形で試合を進めて大差をつける場面もありました。私はこのような試合の雰囲気もありなのではないかと感じています。相手チームや周りの人から見たらあまり見栄えが良くないと感じることもあるかもしれませんが、南山大学としては1番力を発揮できる状況が明るくうるさいくらいの雰囲気での試合を行うことなのだと思います。

秋リーグでは1年生から4年生まで束になって戦い、春果たせなかつた2部昇格を達成できるように日々努力していきます。

背番号 20 田島悠雅(たじま ゆうか)

岐阜県 大垣南高校 2年



春季リーグ、新人戦、上南戦お疲れ様でした。まず初めにここまで無事に活動を継続できたことをOBの皆様をはじめ、監督、マネージャー、保護者の皆さま、いつもご支援と応援をありがとうございます。今後も本部活動を継続的にを行うために精進してまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。今回の春季リーグ、チームとしては3部優勝をして入れ替え戦に進むことができましたが、入れ替え戦では惜しくも勝てずに2部昇格とはなりませんでした。悔しい結果でしたが自分が大学に入ってから初めての優勝をすることができて自分にとってはいい経験になったと思っています。ここからは、また一から練習し一つずつステップアップしていくしかありません。一人一人が自分の役割を認識し自分がやれることを確実に行うことができればチームとしてレベルアップできると思います。南山大学の特に投手陣は1人に頼るのではなく全員でイニングを回すことができていたのでそこも良かったところだと思います。

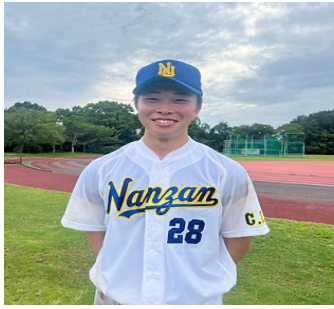
個人としては、多くの試合で投げさせてもらいました。結果としては自責点0と点を取られなかったことはとても良かったのかなと思います。しかし、コントロールが安定せずに球数が多くなることでイニングを稼ぐことができなかったことは反省するところだなと感じました。そして、入れ替え戦では自分の力不足により打たれてしまい失点をしてしまいました。失投も多くあり大事な試合でやってはいけないことをしてしまうところはまだまだ責任感や実力が足りていないのだなと感じました。やはり自分には全ての要素が足りていないと思います。スピード、コントロール、変化球、キレなどこを取ってもイマイチなところが多くあるので根本的にフォームの部分やトレーニングの部分から変えていって今回の春よりも成長できるようにしていきたいです。自分が野球をやれているのは当たり前なことでは無いです。試合のサポートをしている中で多くの人が関わってくださっている事を気づけました。支えてくれている両親やキャプテン、主務、マネージャー、チームメイト、OBの方々へ感謝の気持ち絶対に忘れず野球を続けていきたいです。

背番号 26 西田汰生(にしだ たいせい)

愛知県 尾北高校 2年



春のリーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。私はこれらの試合で先輩方の真剣に野球に取り組む姿を見て、自分も先輩方の力になりたいと感じ、自分に出来る仕事を全うすることが出来たと思います。ただ、チームとしては最終的に納得のいく結果を残すことが出来ず、課題も多く見つかることになりました。チーム全体の反省点をこれからの練習で改善していくと共に、私自身の能力も向上させ、チームに必要とされる選手になりたいです。この春季大会では、チームとしてリーグ戦優勝という素晴らしい結果を収めました。その後の入れ替え戦で悔しい敗北を喫しました。私自身も、この大会で貴重な経験をさせていただきました。私は昨年度、1年生の時はセカンドとしてプレーしていました。しかし、私自身の可能性を広げるため、今年から投手に挑戦することになりました。高校までは投手をやっていたものの、投球フォームやスタミナ、そしてマウンドでの立ち振る舞いなど、すべてが手探りの状態からのスタートでした。そしてこの大会で少しではありますが、マウンドに立つ機会をいただくことができました。初めての公式戦登板ということで、当初は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、野手の皆が背中を押してくれたおかげで落ち着いて自分の投球ができるようになりました。結果として、なんとかチームに貢献できる投球ができたことは、大きな自信になりました。ただ最終的にリーグ戦で優勝できたものの入れ替え戦で負け、2部リーグに行くことはできませんでした。この敗北は、私たちにとって非常に大きな悔しさとして心に残っています。勝利の喜びを分かち合ったからこそ、その後の敗北の悔しさは言葉にできません。しかし、この経験は「このままでは終われない」という強い気持ちをチーム全員に植え付けてくれました。この悔しさを忘れずに、来季こそは必ず昇格を掴み取ると強く感じました。今後の練習も頑張って取り組み、次の秋リーグは今よりも成長して臨みたいです。



背番号 28 辻葵斗(つじあおと)
岐阜県 帝京大学可児高校 2年

春季リーグ戦、新人戦、そして上南戦お疲れさまでした。春季リーグ戦では、チームとして目標に掲げていた「優勝」を達成することができ、とても嬉しく思っています。昨年度秋季リーグ戦3位という結果を受けて、シーズンを通してチーム全体が一丸となって練習に励み、試合に向けて細かな課題にも真剣に取り組んできた成果が表れたのではないかと思います。個人としても、5試合に出場させていただき、公式戦で初めてホームランを打つことができました。これまでの練習で取り組んできたスイングの修正やタイミングの取り方が、結果として形になったことが何より嬉しく、自分自身の成長を実感する瞬間でもありました。しかし、入れ替え戦は1勝2敗という結果に終わり、2部昇格を逃し反省点も多く残る試合でした。特にプレッシャーのかかる場面での冷静さや、守備での細かな判断など、今後さらに改善すべき課題が見えたことは、次に向けての貴重な収穫です。新人戦では、同学年の仲間とともに戦うという新鮮な経験ができました。また主将という立場をやらせてもらい先輩方が日頃どれだけチームを引っ張ってくださっていたかを改めて実感するとともに、自分たちも次の代を担っていく意識が芽生えました。

上南戦では昨年に続き、伝統ある一戦に出場できたこと自体が大きな経験であり、勝敗だけでなく、

先輩方の想いを背負って戦うことの重みを感じる機会となりました。試合には負けてしまいましたが、個人としてはホームランを2本打つことができ、大変うれしく思っています。秋季リーグ戦の目標は2部昇格しかありません。今回の入れ替え戦1戦目は快勝したものの2、3戦目になるにつれて疲れも見え、自分たちの力が出せずに終わってしまいました。そのため秋季リーグ戦に向けて質だけではなく、練習量にもこだわっていきたくと考えています。今回の春季シーズンを通して得た経験や課題を活かし、これからの夏、秋に向けてさらに成長できるよう努力していきたくと思います。

背番号 48 吉橋礼貴(よしはしあやき) 愛知県 安城高校 2年



南山大学野球部に入学してから1年が経ち、先輩方が引退され、後輩ができ、チームを支える立場となりました。そんな中で、自分に何ができるかを考え、チーム全体が野球に集中できる環境づくりに力を注ぎました。特に、自分の強みである「声を出すこと」や、細やかな気配りを活かして、チームを明るく前向きに保つことを意識してきました。

昨季の悔しい経験をバネに、「次こそ2部昇格」という明確な目標のもと、練習にも一層気持ちを込めて取り組んできました。リーグ戦が近づくにつれ、チームの雰囲気も緊張感を帯び、互いに厳しい声を掛け合うようになっていきました。そして迎えた春のリーグ戦。あと一勝で優勝というところまで迫りましたが、惜しくも昇格への切符は手に入りませんでした。悔しさが残る結果でしたが、その分、秋への決意はより強くなりました。次のリーグ戦は、今の先輩方と一緒にプレーできる最後のチャンスです。一人ひとりが自分の強みを活かすことが、昇格への鍵だと感じています。大学野球にはDHやワンポイントリリーフなど多様な役割があります。9人だけで戦うのではなく、それぞれが自分の「出番」に備え、ベストを尽くすことが重要です。私は、チームが暗くならないように声を出し続け、明るい雰囲気を作ることが自分の役割だと考えています。野球ができることは決して当たり前ではありません。試合や練習の裏側で支えてくださる多くの方々—両親、キャプテン、主務、マネージャー、チームメイト、そしてOBの方々への感謝を忘れず、残りの時間も全力で野球と向き合っていきたいです。

背番号 51 平原大地(ひらばら だいち)

三重県 海星高校 2年



春リーグ、上南戦を終えて改めて大学野球のレベルの高さを感じました。春リーグでは入れ替え戦まで進むことができ、念願の2部昇格という目標を叶えるため望んだ3日間でした。結果としては、一勝を先行することができたもののその後の2戦を落とし3部残留という結果になりました。2部のレベル、入れ替え戦の難しさ、特に3日連続のため体力やメンバーの層の厚さで大きく結果に影響してくるのかなと見ていて感じました。自分自身何も力になることはできずに悔しい結果でしたが、秋リーグでは少しでも力になれるように練習を続けていきたいと思いました。上南戦では、初めての上智大学さん側での試合で、東京遠征という形になった試合でしたが、上智大学さんのレベルの高さを身に染みて感じました。同点に追いついたり、食らいついていたものの最後はやはり、勝ち切るというこの強さがあったと思います。展開がどうであれ、最後に勝つということが本当の強さであり、目指すものであるなど良い経験になりました。この2つの経験(春リーグ・上南戦)を通してまだまだ自分の努力不足、練習不足などと改めて痛感しました。去年の経験を踏まえて成長したと自信を持って言えるところはまだないなど自分自身で感じ、思ったからです。どうしても、練習時間の確保であったり、環境の問題もありますが、その状態でもできることは探せばいくらかもあると思うので、今の状態で、今の環境で最低限でも何ができるか、そこを考えていけば少なくとも成長する部分、力にできるところはでてくるはずなので、そこを今年は重点的にやっていきたいです。今年の秋を終

えると4年生の先輩方が引退ということになるので、いなくなってしまう4年生の分もまずは、この秋の入れ替え戦に勝ち、2部昇格という目標を達成してからの有終の美を飾りたいなと個人的な気持ちもあります。そして、2部でプレーするという貴重な経験を積ませてくれるようにしてくれたときには、その恩返しを、するつもりで全力プレーで、2部でも結果を残し続けていきたい、その気持ちは常に持ってこれからの練習の励みにしていきたいです。

背番号 60 松谷将太郎(まつたに しょうたろう)

大阪府 寝屋川 2年



春のリーグ戦、入れ替え戦、新人戦、そして上南戦、お疲れ様でした。春のリーグ戦ではチームが一丸となって戦い、見事優勝を果たすことができました。これまで積み上げてきた練習の成果が結果に結びつき、非常に充実したリーグ戦だったと思います。しかし、その後の入れ替え戦では惜しくも敗れてしまい、目標であった2部昇格にはあと一步届きませんでした。また、新人戦や上南戦も接戦ではありましたが、悔しい結果に終わりました。試合内容としては、好守や長打など光るプレーも多く見られた一方で、得点のチャンスを逃してしまったり、エラーが失点につながるなど、改善すべき点も明らかになりました。チームとしては、昨年と引き続き、主力の方々が残り、1・2年生にも試合に出る機会が多く与えられる体制となりました。新しいメンバー構成の中でも、春のリーグ戦で結果を出せたことは大きな自信に

つながったと思います。個人としては、今シーズンに向けてバッティングフォームの見直しに取り組み、自分に合った形を探す作業を進めてきました。これまで明確なスタイルが定まらず、手探りの部分もありましたが、友人やチームメイトからアドバイスを受ける機会を通じて、自分の強みを活かせる打ち方に会うことができました。実際に公式戦に出場する中でヒットも出て、一定の成果は感じています。ただ、フォームを変えたことにより、投手とのタイミングの取り方に課題が生じ、安定して結果を出すことの難しさも感じました。それでも、仲間たちからのアドバイスや支えのおかげで、前向きに取り組むことができています。今後は、自分の課題である「初球から積極的にスイングをかけること」を意識し、試合の中で実践できるよう取り組んでいきたいです。そしてこの新しいフォームをしっかりと自分のものにして、今以上にチームの勝利に貢献できる選手になりたいと思います

背番号 64 新美禪(にいみせん)

愛知県 愛知高校 2年



春季リーグ戦および上南戦等、前半戦お疲れさまでした。まず初めに、無事にここまで活動を継続できたのは、OBの皆様をはじめ、監督、マネージャー、保護者の皆様、そして応援して下さるすべての方々のお力添えのおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます

す。さて、前半戦ではリーグ戦でのチーム目標を達成し、一定の成果を収めることができました。これもひとえに、日頃から支えてくださっている皆さまのおかげです。一方で、入替戦では悔しい結果となり、3部残留という結果に終わりました。惜しくも勝ちきれなかった試合や、ホームランなどの良いプレーが見られる一方で、自分たちのエラーやチャンスを活かすきれなかったことが課題として浮き彫りになった試合でもありました。昨年の主力が多く残る中で、1・2年生が多く試合に出場できたことは大きな収穫でした。新しい世代が経験を積み、リーグ戦に向けて準備ができてきていると感じています。入替戦を通じて見えた課題として、四球やエラーで得たチャンスを自分たちのヒットにつなげきれないという現状がありました。これらの課題は、夏休みの練習期間でしっかりと克服していきたいと考えています。個人としては今季は少しずつ昔の感覚を取り戻していくことを目標に取り組んでいました。怪我から復帰するためにもいろんな練習に取り組みました。野手転向とはなりましたが、自分のプレーができるように練習をしています。オープン戦では出場がありませんでした。しかし、これからの試合の出場機会ではしっかり活躍できるような準備をしていきたいです。残念ながら、今シーズンは2部昇格を果たすことはできませんでしたが、このチームで過ごす時間はかけがえのないものであり、1年生の頃からお世話になった先輩方や、共に戦う仲間とともに次のステージを目指して頑張っていきます。引き続き、変わらぬご支援・ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

背番号 73 松宮潤弥(まつみやしゅんや)

愛知県 愛知高校 2年



春季リーグ、新人戦、上南戦お疲れ様でした。リーグ戦では3部リーグ1位になることができました。しかし、惜しくも入れ替え戦で名古屋産業大学さんに1勝2敗という形で敗れてしまい、秋季も3部リーグ残留という結果になってしまいました。今季のリーグ戦ではとにかく打のチームで、春季リーグでは総合得点が100点を超えるなど打ち勝つ試合が多かった印象です。入れ替えの初戦では、打線が奮発し、9得点を奪うなど今季の南山大学を象徴するような試合内容でした。しかし、2.3試合目は全く打つことができず、守備にも綻びができ、負けてしまいました。個人としては、この春季リーグでは、守備固めとして後半に出場することができました。守備機会ではエラー無しで守れたので自分の役割は果たせたと思います。この春季リーグでの戦いを通して自分たちのチームに足りていないのは守備力だと感じたので、秋季リーグまでにしっかりと詰めていきたいです。また、新人戦では名古屋経済大学さんと戦い7-9で敗れました。序盤中盤では南山大学の集中攻撃もあり、点差が最大6点に広がることもありましたが、終盤に一気にひっくり返されてしまいました。守備でのミスはなかったものの、気の緩みや、詰めの甘さがこのような結果をもたらしたのだと思います。このような2部のチームと戦う時はどんな展開になっても決して驕らず、常にチャレンジャーの気持ちで戦い続けることが必要だと改めて痛感しました。

この夏休みの期間では練習時間が多く取れるため、このスキルアップや、チームとしての完成度を高めるためにとても有効な時間だと思います。このチームは守備力が課題だと感じます。入れ替え戦、上南戦と守備の乱れが得点に直結し、流れが悪くなることが多々ありました。上のレベルに行くほど対戦投手を打ち崩すことは容易ではなくなってくると思うので、守備で相手に流れを渡さない、むしろ守備から流れを持つてくることのできるチームにこの夏休みの期間でしていきたいです。

背番号 77 殿内仁之亮(とのうち じんのすけ)
三重県 宇治山田商業高校 2年



春リーグ、新人戦、上南戦お疲れ様でした。自分は、今期から投手から外野手になって初めてのシーズンになりました。春リーグではリーグ優勝ができてよかったと思う反面、入れ替え戦で2部との力を目の当たりにしました。個人としては、自分は入れ替え戦は出場無しで、チームに貢献できませんでした。秋ではチームの戦力になれるように頑張りたいと思いました。新人戦では名古屋経済大学に7-9と惜しい試合ができたと思いました。しかし、2部のチームは、後半での集中力の違いを感じました。勢いだけでは、勝てないという現実を知らされ

た瞬間でした。個人としては、130中盤のストレートにも力負けをせず打ち返せて変化球もある程度は見極められていたので少し実践感覚が取り戻せたと思います。課題としては、ストライクゾーンの中で動く変化球にどう対応するか、今よりも早いストレートを投げるピッチャーとどう駆け引きをしていくか、失投が少ないピッチャーをどう打ち崩していくかなどの自分に足りない力が再認識できました。また、この試合で自分は守備のミスをしてしまい、失点をしてしまいました。外野手間での連携の大切さを改めて認識しました。上南戦では、上智大学にサヨナラ負けを喫しました。チーム全体としては、守備のミスや走塁死などのこちら側のミスが目立ち失点を与えた印象でした。このようなミスを減らせれば楽に試合運びが出来ると思いました。個人としては、代打として出場してヒットを打つことが出来たので良かったと思いました。また、上智大学さんとの交流は自分にとっていい刺激になりました。これらの経験をふまえて、秋季リーグではチームとしては、リーグ優勝をして入れ替え戦で勝利して2部に上がれるようにしたいです。個人としては、チームの戦力になれるように現時点での自分の能力を客観視して、チームに貢献するには何が必要でそのためにどうしたらいいかを考えられるようにしたいです。

背番号 99 小野朗(おの あきら)
愛知県 天白高校 2年



春季リーグ戦、入れ替え戦、新人戦、上南戦とお疲れ様でした。今年度、チームとして3部で優勝を果たし、入れ替え戦まで進むことができたことに、大きな達成感を感じました。しかしながら、目標であった2部昇格は果たすことができず、入れ替え戦で敗れた悔しさが今も胸に残っています。3部での戦いとは異なる相手のレベルの高さ、緊張感、特にフィジカルの差、集中力の継続において、大きな壁を感じました。また、新人戦では個人として目立った活躍をすることができませんでした。自分の持ち味である打撃でも思うような結果を残すことができず、力不足を痛感しています。特に筋力の違いがプレーの安定性や打球の伸びに直結していると強く感じ、今後の課題として取り組むべきポイントが明確になりました。試合を通じて、「打てない時こそフォームを見直す」ことの重要性にも気づかされました。結果が出ない焦りの中で無理なスイングに走ってしまうのではなく、基本に立ち返り、自分のスイングを丁寧に見直すこと、地道な技術の積み重ねこそが重要だと感じました。秋季リーグ戦に向けては、まず体づくりの面で他選手に負けない土台を作ること、そして打撃面では自分の強みをより発揮できるようフォームの安定と再現性を高めていきたいです。これまでの反省を次に活かし、チームの勝利に貢献できる選手になれるよう、日々の練習に真摯に向き合っていきたいです。また、2部昇格を目指して頑張っていきたいです。

マネージャー 榎本亜香(えのもとあこ)

愛知県 桜台高校 2年



春のリーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。日頃から南山大学硬式野球部に多大なご支援をありがとうございます。試合を通して自分達だけではなく、応援してくださる皆さまの存在があったからこそ、ここまでやってくることができたと感じています。心より感謝申し上げます。4月から新一年生が加わり、部員数は50名を超える大きな部活になりました。活気も増して日々楽しく、きちんとやる時はやる練習風景がすっかり定着し、より一層の成長に繋がっていくと感じています。春のリーグ戦では見事3部優勝を勝ち取ることが出来ました。選手達が暑い日も寒い日も練習に励み、ひたむきに努力してきた姿を間近で見てきたので、努力が優勝という形で報われたことをマネージャーとして心から嬉しく思います。惜しくも2部昇格には届きませんでしたが、今回の悔しさを原動力にしてまた次へ進んでいけると信じています。秋のリーグ戦までチーム一丸となって再び2部昇格に向けて練習に励んでまいります。マネージャーとして元気な1年生メンバーが2名加わりました。現在は5人体制ですが、夏以降2人が留学の関係で一定期間チームから離れる予定です。大きく環境が変わり、新たな体制を模索する中で自分自身も成長していけると確信しています。チームは歯車の集合体のようなものだと考えており、誰か一人が欠けても回る状態を作ることが理想だと感じています。そのためには、仕事内容をチーム全体で共有し、誰かが休んでも他のメンバーがカバ

一できるよう、日頃からの情報共有や仕組みづくりが欠かせないと思います。日々コミュニケーションを取りながら、出た意見はどんどん採用して試行錯誤を繰り返し、よりよいチーム運営に努めていきたいと思っています。

最後にOB・OGの皆さまには、これまでも温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導・ご支援のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

マネージャー 奥村青葉(おくむら あおは^ろ) 愛知県 熱田高校 2年



春、秋リーグお疲れ様でした。日頃より部活動を支えてくださるOBの方々およびコーチの皆様には深く御礼申し上げます。私たち硬式野球部は2025年度春リーグにおいて3部優勝を飾ることができましたが惜しくも2部に昇格することはできませんでした。しかしながら3部決勝戦においてスコアを書かせていただき優勝の瞬間にベンチで携わることができとても胸が溢れるような気持ちになりました。その際に改めて自分にとって部活動がどれだけ大切なものなのか再認識できた貴重な機会に

なりました。秋リーグは私自身留学に行っていたため直接的に試合に行くなどのサポートはすることができできませんでしたが一球速報なども見て選手の方々が今度こそは二部に昇格するという強い気持ちを感じることができました。2部に昇格するという約20数年ぶりの快挙を成し遂げられた世代に自分自身がマネージャーとして携われたことをとても誇りに思います。マネージャー業と致しましては、2025年度の部活は昨年度と比べ責任を伴う部分も多くなりましたがそれとともにやりがいも多く感じられました。先年度三年の先輩が引退されてから2年生3人で事務作業など経験が0の中作業を分担し支え合って来ました。頼もしい1年生のマネージャーも2人加わりその中で先輩らしくある事の難しさも感じています。後輩のマネージャーの2人ともたくさんコミュニケーションを取り親しみやすい存在であることを目標として楽しく活動をして行きたいと思います。そして常に視野を広く持ち自分の託された仕事を一つ一つ着実にそして丁寧にこなして行きたいと思います。まだまだ未熟なところもたくさんありますが新しく二部のマネージャーとしてそして部活動のチーフとしての役割を再認識し常に緊張感を持って取り組んでいきます。2026年度も努力を重ねてまいります。これからも南山大学硬式野球部をよろしくお願いいたします。

マネージャー 高木花奏(たかきかなて^ろ)

愛知県 旭野高校 2年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。日頃より、横江コーチをはじめ、OB・OG、南山大学硬式野球部の関係者の皆様からの暖かいご支援、ご声援を賜わりまして心から感謝申し上げます。春季リーグでは3部優勝という素晴らしい結果をおさめることができ、チームの結束力が以前よりも増していると感じました。しかし惜しくも入れ替え戦では敗れてしまい、2部昇格という目標は叶いませんでした。だからこそ、秋季リーグではチーム目標である2部昇格を必ず叶えられるよう、マネージャーとして精一杯チームをサポートしていきたいと強く思っています。私自身は現在2年生で、マネージャーの先輩方が引退されてから初めてのリーグ戦を終え、無事に春季リーグをやりきれたことにほっとしています。それと同時に、今後は自分たちがマネージャーの最上級生としてチームを支えていかなければならないという責任も感じています。この春、新しく1年生のマネージャーが2人入ってくれました。とても意欲的でしっかりしていて、すでに多くの場面で助けられています。これからは自分の仕事をきちんとこなすことはもちろん、後輩たちに少しずつ仕事を教えながら、一緒にチームを支えていけるよう努力していきたいと思います。マネージャーとしての仕事は、表に見える部分だけでなく、記録や書類作成など裏方の業務も多くあります。ときには大変なこともあります。同じ2年生のマネージャーたちと協力しながら日々取り組んでいます。また、主将の今福さんも、自分自身が選手として忙しい中、私

たちの仕事を積極的に手伝ってくださり、本当に心強く、またありがたく感じています。練習や試合の準備、記録の管理、練習や試合中のサポートなど、一つひとつの仕事に責任を持って取り組むことの大切さを、日々実感しています。チームのためにできることを考え、行動することは簡単ではありませんが、その分やりがいや達成感も大きく、マネージャーとしての成長にもつながっていると感じます。

1年生マネージャーも含め、みんなで支え合いながら、これからもより良いチームづくりに貢献していきたいです。秋季リーグでの2部昇格という目標に向かって、チーム全員で一丸となって頑張っていきます。引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

9 米満 悠真 よねみつ ゆうま

三重県 松坂商業高校1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。私はこの春、大学に入学し、野球部に入部しました。高校まで続けてきた野球を、大学でも続けられる環境に身を置くことを、とてもありがたく感じています。入部して間もない今は、練習内容やチームの雰囲気、生活リズムなど、すべてが新鮮で刺激的です。先輩方の練習への真

剣な取り組みには驚かされるばかりです。その中で一緒に野球ができることに感謝するとともに、自分も少しずつ力をつけていきたいと強く思っています。現在は1年生として、まずは基礎体力の向上や動作の確認を中心に取り組んでいます。分からないことやうまくいかないことがあるたびに、先輩方やコーチの方々が丁寧に教えてくださり、一つひとつ課題を解決しながら取り組んでいます。野球の技術だけでなく、道具の扱い方やチームでの動き方といった基本的な部分も改めて学び直す毎日、自分の未熟さを痛感する一方、成長の手応えも少しずつ感じられるようになってきました。今の自分はまだチームの勝利に直接貢献できる立場にはありません。ですが、練習の準備やグラウンド整備、道具の管理や片付けといった裏方の仕事も含めて、できることを一つずつ大切にしていきたいと考えています。どんな小さなことでも全力で取り組むことで、少しでもチームに役立てるようにすることが今の目標です。こうした基本的な姿勢を大事にしながら、先輩方から信頼していただける選手を目指したいと思っています。これから先は、試合に出場してチームに直接貢献できるようになることを目標に、力をつけていきます。体力面では走力や筋力の向上に取り組み、技術面では安定した守備と確実な打撃を身に付けられるよう努力していきます。特に大学野球では一つひとつのプレーの精度が求められるため、練習での一球一球、一回の動きを大切にしていきたいと考えています。大学生活は始まったばかりで、まだまだわからないことだらけですが、日々の練習や部活動を通じて、一人の選手としてだけでなく、人としても成長できるよう努力していきます。野球部の一員として仲間と共に過ごす時間を大切にしながら、この4年間で大きく成長し、少しでもチームに貢献できる存在になれるよう頑張っていきます。

21 吉岡 聖哉 よしおか せいや

京都府 日星高校 1年



今春は3部リーグで優勝し、入れ替え戦に進むことができた。入れ替え戦では惜しくも敗れたが、これからの南山野球部の成長につながる貴重な春季リーグだった。私たち一年生は4月、5月にそれぞれ入部し、初練習に励んだ。南山大学硬式野球部は、監督はいるが、主にキャプテンの今福さんを中心に練習、試合が組まれている。練習は週二日、水曜、金曜に行われる。水曜の練習は、森林公園の野球場で行う。練習の内容は、アップ、キャッチボールまでは変わらず、そこからは日によって変わり、実践的な練習や、トレーニング要素のある練習、いくつかのグループに分かれて効率よく練習するなど、さまざまなバリエーションがある。1から4年生が在部していて、部員数も多く、充実しているというのが入った時の印象だった。また、学年の間に壁がなく、全員が仲間のようにプレーしていたので、高校の野球とは違った楽しみがあるなと思った。練習試合では、いろいろな大学と練習試合をする。愛知だけでなく、岐阜の大学と試合をすることもある。練習試合は1日に2試合することもあり、2試合目は自分たち1年生が出たりすることもたまにあった。上南戦では、1点差で負けしまったが、大きなものを得たと思う。1点の重要性、1つのミスの重みなど、試合に勝つために必要なことに気づけた試合だった。自分は代打として先頭打者だったが、セン

ター前ヒットを打つことができ、得点につなげることができた。1年生の出場が少ない中、自分を選んでくれたこと、それにこたえられたことは非常に嬉しく思う。これからもチームの勝利に貢献できるように努力していきたい。自分は高校ではずっと外野手だったが大学に入ってピッチャーをしてみたくなった。試合を作れるような投手にはまだまだ到達していないが、いつか自分もマウンドで投げられるように努力をしていきたい。そして、この秋のリーグ戦でまた3部で優勝し、今度こそは入れ替え戦に勝利し、2部リーグに昇格したいと思う。

24 近藤 憲清 こんどう けんせい
岐阜 岐阜高校 1年



春季リーグ、新人戦、上南戦お疲れ様でした。リーグ戦では1位になることができ入れ替え戦に臨みましたが、名古屋産業大学に惜しくも敗れてしまい3部リーグ残留という結果となりました。初戦は上手く流れを掴み勝利することができましたが、その後の試合では守備が乱れたり、打線が繋がらなかったりしてしまい連敗を喫してしまいました。また、新人戦では名古屋経済大学に敗北し初戦敗退となりました。私は試合に出場することはありませんでしたが、先輩方の試合を観て多くのことを学ぶことができました。私が南山大学で野球部に入学しようと決意したのは周りからの勧めがあったからです。その方々の期待に応えられるよう、チームでの

練習はもちろん自主練習などにも力を入れて取り組んでいきたいです。私の強みはバッティングだと思います。率の高さとパンチ力を武器にバッティングでチームに貢献したいです。しかし、大学野球は高校野球と違い木製バットを使用する点や、投手一人一人のレベルが高いという点で順応できていないので、打ち込みをしたり実戦を積んだりして早く慣れていきたいです。一方で、守備には課題があります。捕手、内野手、外野手をやらせてもらっていますが送球に不安があるため、まだまだ試合に出られるレベルではないと思います。大学野球は自分で考え自分のペースでできるので、焦らずしっかり課題を克服できるようにしたいです。また、私は腰の怪我也有り高校では何ヶ月も離脱してしまうということがありました。大学では限られた時間の中で十分に練習するために、クールダウンやアフターケアは個人に任されています。高校の時のように離脱してしまうことがないように、ストレッチや柔軟は徹底して行っていきたいです。チームとしては秋季リーグで2部リーグに昇格することが目標だと思います。そのために、夏休みという期間で密度の高い練習をすることが大切であると感じました。春季リーグで見えた課題を克服しリベンジできるよう、全員で一丸となって秋季リーグに臨みたいです。

32 藤井 樂 ふじい がく
岐阜県 大垣日大高校 1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。春季リーグ戦では2部昇格をかけた入れ替え戦で、第1試合は勝利しましたが第2試合、第3試合で惜しくも負け、3部残留という悔しい結果となりました。また、新人戦と上南戦も惜しくも敗戦という形で終わりました。私は先輩方の野球をする勇姿を見て憧れを抱きました。また、自分自身も早くチームの戦力となれるよう努力したいと思いました。今のチーム全体の目標は2部へ昇格することです。そのためには限られた短い練習時間の中でいかに効率よく練習し、スキルアップするかが求められます。私はまだ体力もなく、技術そして肉体的なパワーも不足していると感じています。練習の1分1秒を大切にするのはもちろん、私生活での自主練や筋トレなどの日々コツコツ努力することを意識したいです。

33 渡辺 集 わたなべ つどい
愛知県 刈谷高校 1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。また、平素より南山大学硬式野球部をご支援して下さる皆様に感謝申し上げます。私は硬式野球部に入学してまだ間もないですが、仲間にも恵まれ、非常に充実した時間を過ごせていると感じています。南山大学への入学が決まった頃、今まで続けてきた野球を大学でもやろうと決意し、硬式野球部の練習に参加しました。その中

でも、最終的に入部の一番のきっかけとなったのは、このチームの雰囲気でした。ここなら、野球の楽しさを味わいつつ、自分の野球スキルをさらに向上させることができると感じました。また、面白いチームメイトがたくさんいて、野球を通じて楽しい時間を過ごせるというのも、このチームの大きな魅力です。実際に、練習後にご飯を食べに行ったり、練習のない日には自主練習を一緒にしたり、息抜きに遠くへ出かけたりなどして、部活以外の時間までをも充実させてくれる仲間がたくさんいます。この縁はこの野球部に入ったからこそ持つことができたものなので、大切にしていきたいと思います。

試合のことで言えば、春季リーグ戦は優勝という成績を残したものの、入替戦や上南戦で敗れるなど先輩方にとっては悔しい結果の多い春であったと思います。

1、2年生が主体となって行われた新人戦も逆転負けを喫し、私自身も悔しい思いをしました。やっぱり、野球は勝たないと面白くないと、負けを経験する中で感じました。限られた時間の中で、せっかく試合をするなら、せっかく練習をするなら、勝つことを目標に取り組みしていきたいです。しかし、「野球を楽しむ」という一番大事な部分が薄れてしまっただけでは本末転倒なので、そのバランスを上手くとっていく必要があります。これがこのチームの難しい点でもあると感じています。今チームをまとめてくださっている今福主将をはじめ、先輩方の目指すチーム像に少しでも近づけるよう、努力を重ねていきたいです。また、入学したての身として、チームを俯瞰的に見るができるという点では大きな戦力になれると自負しているため、そういった技術以外の些細な面でも活躍していきたいです。

35 佐々木 太郎 ささき たろう
岐阜県 帝京大可児高校 1年



私は小学校から野球を始め、以来、日々の生活の中心は常に野球にありました。放課後や休日はほぼすべてを練習に費やしていました。中学時代は平日3日間、そして土日は両日とも練習があり、ほぼ毎日グラウンドで汗を流していました。高校に進学してからは寮生活となり、部活動だけでなく、終了後の自主練習も欠かすことなく行い、「甲子園出場」という目標を胸に努力を続けました。その結果、日々の練習が生活の一部として当たり前になり、厳しい環境にも順応する力を身につけることができました。しかし、大学に進学すると状況は大きく変化しました。練習は週2回となり、高校時代のように毎日体を動かす環境ではなくなりました。その結果、ブランクの影響でこれまで自然にできていた動作や感覚が薄れ、思うように体が動かないもどかしさを感じました。さらに、高校までは金属バットを使用していましたが、大学では木製バットに変わり、打感や飛距離、スイングスピードの感覚まで大きく異なります。芯で正確に捉えなければ結果が出ないため、より高い技術が求められるようになり、木製バットに対応するのに苦労しています。このような環境の変化を踏まえ、限られた時間を最大限に活かすための工夫が必要だと強く感じています。全体練習の時間だけに頼るのではなく、自主練習や家庭でのトレーニングを取り入れ、目的を持った練習を意識するようになりました。打撃を自分の最大の武器と考え、フォームの見直しや芯で捉える確率を上げる練習、さまざまな球種やコースへの対応力向上を目指し、常に試合のためになる練習を心がけて練習に取り組んで

います。特にこの夏の練習期間は、自分にとって大きな転機になると考えています。ここでどれだけステップアップできるかが、秋のリーグ戦での自分の役割を決定づけます。目先の結果に一喜一憂せず、結果だけを求めるのではなく基礎を固め、チームの戦力として認められる存在になることが今の目標です。最終的には、チームの2部昇格に貢献できる選手へと成長することを目指しています。そのために、この限られた時間を無駄にせず、一つひとつの練習を意味あるものにし、自らの課題を克服していきます。

37 野崎 真吾 のぎき しんご

愛知県 南山高校 1年



春季リーグ、新人戦、上南戦お疲れ様でした。春季リーグでは無敗優勝という素晴らしい結果を残してくれた先輩方の偉大さと、また1年生ながら試合に出場して結果を残した同級生の凄さというものを実感しました。僕は全ての試合において何も力になれませんでした。南山大学硬式野球部の一員としてこの3ヶ月を過ごせた事をとても嬉しく思います。初めて部活体験に行ったのは高3の冬休みでした。初めての環境、初めて会う人達と野球をするにあたってとても緊張していました。それに

加え、体力的な不安や自分の実力不足で部活自体についていけるかという不安もありました。しかし、実際部活が始まると先輩方が温かく迎え入れてくれて、とてもアットホームな環境で大学野球を始める事が出来ました。そして4月の正式な入部をマネージャーを含め21人で迎えることが出来ました。それと同時に硬式野球を金属バットではなく、木製バットでやるという新しい挑戦が始まりました。木製バットといえば、プロ野球のイメージが強く、プロの選手達が簡単に扱っているのですぐなれると思っていました。しかし実際蓋を開けてみると、木製バットは金属バットよりも重く感じ、また芯を外すと全くと言っていいほど飛ばず、痛みも伴います。まずは硬式木製バットにしっかり順応していきたいと思えます。また、自分の圧倒的な努力不足かつ実力不足で今のままではチームに貢献したくても出来ません。試合に出始めている同級生もいる中で悔しく思います。なので、夏休みはバットに触れる時間や硬式球に触れる時間をできる限り増やし、野球をする上での基礎や自分の足元を見つめ直してチームの戦力として見てもらえるようにコツコツと日々精進していきたいです。個人でやっているボディビル競技の影響で、中々練習や試合に参加出来ていませんが、それを言い訳にしているのは野球も個人の活動のどちらも結果は残せないと思うので、2025年後半戦はどちらもより一層頑張りたいと思います。

41 加藤 健心 かとう けんしん

愛知県 愛知高校 1年



春のリーグ戦と上南戦お疲れ様でした。自分はどちらも初めての経験で、先輩の皆さんの熱いプレーや勝利に対する姿勢に圧倒されました。温かいご声援をいただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。結果としては、目標の2部昇格や上南戦での勝利は掴めませんでした。自分も勝利に貢献したいと強く思いました。

春のリーグ戦では、先輩方の攻守に最後まで驚かされました。リーグ戦の最終戦では、1位同士の対決となり、絶対に負けられない試合となりましたが、粘り強く守り、そして火がついたら止まらない攻撃で見事勝利しました。試合をこなしていくうちに、投打のレベルはもちろん、チーム内の連携や雰囲気も成長していく姿を見させて頂きました。2部昇格をかけた入れ替え戦では、あと一歩で敗退してしまいましたが、秋リーグでは必ず昇格したいと強く思いました。上南戦では、伝統の一戦ということで特別な思いを持って臨みました。大学全体の対抗戦なので雰囲気が少し違ったり応援があるなどして、普段のリーグ戦とは違う環境でプレーが出来ました。試合では、惜しくも負けてしまいましたが、最後まで勝利を信じて声を出し続け、プレーに全力を尽くす先輩方の姿に胸を打たれました。この一戦を通じて、改めて「このチームの一員であることの意味」と「勝つことの難しさと重み」を実感しました。今回の春リーグ、そして上南戦を通して、先輩方が積み重ねてきた努力と覚

悟に触れ、自分もっと成長しなければと強く感じました。夏の練習では体力・技術面の向上はもちろん、試合に出たときにチームに貢献できるよう、普段の取り組みから意識を高く持って取り組みたいと思います。そして秋のリーグ戦では、今度こそ2部昇格を勝ち取り、応援して下さるすべての方々に良い報告ができるよう全力を尽くします。最後になりますが、多くの方に支えていただいていることへの感謝を胸に、次こそ結果で恩返しができるよう、全力で取り組んでいきます。今後とも変わらぬ応援を、よろしくお願いいたします。

42 齋藤 旺介 さいとう おうすけ

愛知県 刈谷高校 1年



春季リーグ戦、上南戦等シーズン前半戦お疲れ様でした。まずはじめに、リーグ戦や上南戦等の運営にご尽力いただいた皆様、ご家族の皆様、OB・OGの方々に心より感謝申し上げます。これからも部活動へのご理解とご支援の程、よろしくお願いいたします。春季リーグ戦では優勝し入替戦に挑むも3部リーグ残留、新人戦では惜しくも初戦敗退、上南戦では敗戦と悔しい結果となってしまいました。シーズン後半戦でも2部リーグ昇格という目標に向けて、日々の練習に励んでいきます。私は先輩方が試合で奮闘する姿を見て、チーム

の一員として少しでも早く力になりたいと感じました。その姿に影響を受けて練習に励み、練習試合やリーグ戦、新人戦ではピッチャーとしてイニングを任せていただきましたが、思うようにチームに貢献することはできませんでした。特に新人戦での名古屋経済大学様との試合では、終盤に本塁打を浴び、2部リーグ所属チームの技術の高さと、自らの未熟さを痛感する悔しい試合となりました。しかし、成長の機会をいただけたことで多くの経験を積むことができたので、反省を生かして今後のチームの成績に貢献していきたいと思います。最後になりますが、多大なるご支援と温かい声援は、我々選手にとって大きな励みとなっております。その期待に応えられるよう、日々の練習から精進し、感謝の気持ちを持って試合に臨みますので、今後とも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

46 野呂 天祐 のろ てんゆう

愛知県 名城大学附属高校 1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。まず、春季リーグ戦では、3部リーグ優勝という大きな成果を残すことができました。しかし、その後の2部昇格をかけた入れ替え戦では、名古屋産業大学と対戦し、1勝2敗と惜しくも昇格を逃す結果となりました。勝利が見えた試合もありましたが、あと一歩のところまで勝ちき

れなかったことが、2部との明確な差だと感じました。南山大学には2部に昇格できるだけの力があると思いますが、その差を埋めるためには、投手力や守備の安定、試合を通じた集中力の維持が必要だと実感しました。

新人戦では名古屋経済大学と対戦し、序盤から中盤にかけてリードを保っていましたが、終盤に逆転を許し、悔しい結果となりました。私はこの試合で代打として出場させていただきましたが、結果は三振。実力不足を痛感するとともに、大学野球の厳しさを知る機会となりました。限られた出場機会の中で結果を出す難しさと、それを乗り越えるための練習の重要性を改めて感じました。上南戦ではサヨナラ負けを喫し、悔しさの残る試合となりました。守備や継投のミスが響きました。得点力は十分あると感じているからこそ、細かいプレーや守備の精度が勝敗を左右するということを、改めて感じました。私は高校まで野球を続け、大学では個人競技に挑戦しようと考えていましたが、野球が好きという気持ちを捨てきれず、5月から野球部に入部しました。遅れての参加にも関わらず、先輩方や同級生が温かく迎えてくれたことに深く感謝しています。入部当初に初めて試合を観戦した際、ミスがあってもチーム全体の雰囲気が落ちることなく、前向きにプレーを続けている姿を見て、自分もこのチームの一員として早く力になりたいと思いました。今後は秋のリーグ戦に向けて、自分自身の課題と真剣に向き合い、練習に励んでいきたいと思います。最後に、私たちの活動を支えてくださっている横江さんをはじめとするスタッフの皆様、OB・OGの皆様、そして一緒に戦っている部員の皆さんに感謝の気持ちを忘れず、秋にはチームの力となり、2部昇格に貢献できるよう、1日1日を大切に練習に励んでいきます。

53 杉山奏太 すぎやま かなた

愛知県 栄徳 高校1年

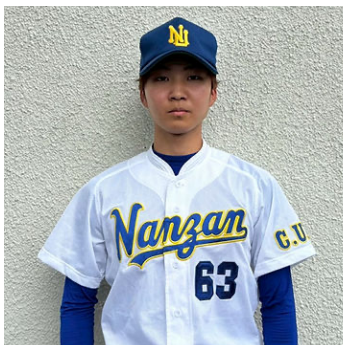


春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。春季リーグ戦では優勝を成し遂げたものの、入れ替え戦では敗戦を重ねてしまい、昇格には至りませんでした。新人戦では愛知2部リーグの名古屋経済大学さん、上南戦では上智大学さんと、共に格上のチームに奮闘したものの自分たちが目指していた結果を得ることはできませんでした。この悔しさをバネに日頃の練習に精を出そうと思います。また、1年生として、これらの経験を出来たことは今後に繋がるとても良い事だと感じました。次のリーグ戦に向け、日々の練習や夏合宿を通して己自身の弱さと向き合い、リーグ戦を迎えるまでに一回り成長した自分でいられるようにしたいです。私事といたしまして、木製バットへの順応に苦戦しております。金属バットでは多少芯を外してもボールが飛んでいたのに、木製バットだとまったく前に飛ばないことに衝撃を受けました。打球が詰まるたびに、バットのしなりやインパクトの瞬間の感覚を改めて意識するようになり、自分の打撃を一から見直すきっかけになっています。守備面においては、先輩方からアドバイスを頂いたり、自主練での同期とのノックなどで苦手を潰したりすることで、微細ながらも進歩が見られていることと思います。しかし、先輩たちのプレーを間近で見る度にまだまだ自分には足りないものが多くあると感じます。時機はまだ定められていませんが、それを逸することのないよう、打撃に守備に更なるレベルアップを図ります。野球が「本物」になる大学野球の世界に飛び込んで、苦しさも悔しさも多い

ですが、それ以上に学びや刺激が多く、野球がもっと好きになりました。これからも地道に努力を重ねていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。仲間と切磋琢磨しながら、いずれ自分がチームを引っ張れる存在になれるよう、一日一日を大切に過ごしていこうと思います。今はまだ結果で語れる立場ではありませんが、悔しさも焦りも、全部糧にしていきたいと思っています。秋のリーグ戦には、少しでも成長した姿で臨めるように、まずは目の前の練習ひとつひとつを丁寧に積み重ねていきます。

63 小林 知暉 こばやし ともき

愛知県 松蔭高校 1年



春のリーグ戦、新人戦、上南戦お疲れさまでした。春のリーグ戦では、7試合全てに勝利し、得失点差でも2位の淑徳大学と大きく差をつけて優勝しました。入れ替え戦では、名古屋産業大学に1勝2敗と負け越してしまい、惜しくも2部昇格とはなりません。新人戦では、名古屋経済大学と対戦し、逆転負けで1回戦敗退となりました。上南戦では、後半に南山が追いつく場面もありましたが、7-8でサヨナラ負けという悔しさが残る結果となりました。どの大会においても、打線が繋がりに、大量得点の場面が多く見られたところが良かったと思えました。一方で、1つのフォアボールやエラーから大量失点に繋がる場面も多く、1試合を通して守り切ることの難しさを実感しました。自分が入学して初めての練習や先輩方のリーグ戦を通じて、これまでの高校野球

とはまた違った雰囲気を感じ、野球をとっても楽しみながらも、本気でプレーしている先輩方の姿見て、入部を決めました。今年度も1年生の人数が多いため、互いに切磋琢磨しながら練習に励み、チーム全体のレベルアップを目指していきたいと思っています。私は学生主体で行う野球は初めてなので、自分たちで常に考えながら野球をして、成長できるよう努力していきたいです。学生主体だとモチベーションを保つことも難しいと思うので、チームを引っ張ってくれている先輩方の背中を見て、刺激をもらいながら、自分から率先して何事も行動できるようにしたいです。野球から離れる期間が半年あり、筋力、体力、技術が落ちていると感じています。早くこれまでの感覚を取り戻し、木製バットにも対応できるように、特に筋力と技術のレベルアップに力を入れていきたいです。秋にはリーグ戦が控えています。春と同じ悔しさを味わわないためにも、チームとしても個人としても1つ1つ課題を克服し、自分がチームにどう貢献できるのかを常に考えながら、日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。

66 鶴田 健人 つるた けんと

愛知県 安城学園高校 1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。リーグ戦では3部で1位となりましたが、入れ替え戦では惜しくも2部昇格とはならず、悔しい結果になりました。しかしその中でも入れ替え戦の1戦目では勝利をおさめることができました。その試合では2部のチームに喰ら

いつく先輩方の姿をみて自分もチームに貢献できるよう成長していきたいと感じました。私は小学生から高校生まで野球を続けてきましたがどのステージにおいても試合の出場機会は少なく、悔しい思いをしてきました。それでも自分は野球が好きで大学でも野球を続けることに決めました。高校までの悔しさを胸に大学野球では人一倍練習に取り組み今までのチームメイトを見返せるように、また、試合に出れない中でもサポートをしてきている親に恩返しができるように成長していきたいです。

チームの2部昇格の目標を達成するために今は自分はプレーで貢献できなくても、声を出したり、自分が全力でプレーをすることで、チーム全体の士気をあげられるようにしていきたいです。またその目標を達成するためには、打撃力の向上が必要であると考えています。そのためには格上の相手と試合をさせてもらう時に感じる体格の差を埋めるためにウエイトトレーニングに取り組むべきであると思います。チームでの練習でウエイトトレーニングに行かないため、選手一人ひとりが向上心を持って取り組まなければなりません。しかし選手全員が意識を高めれば必ず2部に昇格できると確信しています。

私はチームの明るい雰囲気が好きで、楽しく野球ができています。高校までとはまた違った雰囲気での野球を経験して、さらに野球が好きになりました。自分は高校教師になり、野球部の指導をする目標があります。この南山大学硬式野球部で自分の目標に到達するためにチームメイトから新しい刺激をもらい、将来に繋げていきたいです。楽しく野球ができる環境を当たり前だと思わずに感謝しながら取り組み、2部昇格の目標に貢献できるように頑張りたいです。

70 宗野 圭佑 むねの けいすけ

愛知県 小牧南 高校1年



春季リーグ、入れ替え戦、及び上南戦等前半戦お疲れ様でした。そして、監督並びにOB、大学関係者の方々、ご指導と声援をありがとうございました。今後とも継続的にご支援の方をよろしくお願いします。さて、自分は4月に南山大学に進学し、硬式野球部に入部しました。入部して春リーグがあり、リーグ入れ替え戦や、上南戦と前半戦ではありますが、とても濃い時間でした。中でもリーグ入れ替え戦では、名古屋産業大学との3連戦で、初戦はコールドゲームが成立するほどの大差で勝利を収めており、自分自身「今回リーグ昇格できるのではないか」と思っていました。しかし、結果を見れば、1勝2敗であり、リーグ残留。チームとしても、自分としてもとても悔しい結果でした。敗因や、課題点を考えた時に、やはり打線の浮き沈みの起伏の激しさが大きな要因になっていたと私は試合を通じて感じました。特に、上位打線の打者の多くが打席の中で長くボールを見ている印象がありました。春リーグでは、ファーストストライクからスイングをかけていた打席の方が、客観的ですが、良い当たりに繋がっていた印象がありました。これは自分自身の経験論とも似通っている点でもあるため、今回の春のリーグ戦を観戦して今後の自身の糧にできるようにしたいと思いました。私自身はまだ、入学して半年も経っていませんが2.3.4年生の先輩方の練習に向き合う姿勢や、プレー中のパフォーマンスをよく観察し毎回の練習で一つ以上吸収できるようにすることを目標にして、後半戦の部活動に励みたいと思います。卒業がだんだん近づいている4年生や、教職な

ど就職活動などによって部活動に参加できる頻度が少なくなっていく3年生達と共に部活動をして時間を過ごすことに日々感謝の思いを忘れずに今後の硬式野球部の活動に取り組みたいです。

75 野津 僚介 のぶりょうすけ

愛知県 愛知高校 1年



春季リーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。結果として、春季リーグ戦は三部リーグを優勝しましたが、入れ替え戦では惜しくも敗退してしまいました。新人戦では、二部リーグの大学相手に一時六点差をつけることができましたが、初戦敗退という結果になりました。試合を通して、先輩方の試合に向ける姿勢や、技術に対する意識の高さを間近で学べたことが印象に残っています。試合の中でチームの良い部分や課題が見つかったのでこれから続く大会に活かしていければと思います。また、自分としては大学入学を機に、本格的にウエイトトレーニングを始めました。ピッチングにおいて下半身主導のフォームの安定が必要であると感じ、球速やコントロールの精度を向上させるには、日々の積み重ねが欠かせないと痛感しました。体格面という部分においても先輩方には及ばない部分が多いため、しっかりと筋肉をつけ、投手としての基盤を築いていきたいです。また、試合では緊張感のある場面でも冷静に状況を判断し、自分の投球スタイルを貫けるメンタルの強さが求められます。苦しいカウントやピンチでも、自分のストレートを信じて思い切り投げ込むことができるようメンタル面も

成長できるよう努力していきたいです。一方でチームとしての課題も浮き彫りになりました。限られた環境の中でいかにして最大限の成果を上げるかを考えなければなりません。専用グラウンドがないことと思うように練習時間を確保することができないこともあります。その分、一つひとつの練習の質を高める必要があります。今年も昨年に引き続き一年生が多く入部し、互いに切磋琢磨しながらレベルアップしていく雰囲気生まれています。周囲の先輩や同期の存在が心強く、どんな時も支え合いながら成長できることを実感しています。これから秋リーグに向けて、個人としてはフォームの改善と急速アップを目標に、基礎トレーニングと実践形式の練習を重ねていきたいです。ウエイトトレーニングや走り込み、ストレッチを怠らず、体を強くすることでより安定感のある投球ができると考えています。そのため、今後も努力を続けていきたいです。また、チームの勝利に貢献できるよう、日々の練習から試合を意識した取り組みを徹底し、信頼される投手を目指したいです。次のシーズンでは、自分自身の成長を結果として示し、チームの上位進出に貢献できるよう全力を尽くしていきます。またチームとしては二部リーグに昇格することができるよう、一致団結して秋季リーグに臨んでいきたいです。

90 藤田 大輝 ふじた たいき

三重県 宇治山田高校 1年



春季リーグならびに上南戦を終えて様々な経験ができました。まずは、春季リーグでは、登板の機会を与えてもらい、早くから大学野球の雰囲気を味わうことができ貴重な経験をさせてもらいました。そこで感じたことは、大学野球は、高校野球の時よりも自分で主体的に考えて行動する機会が多いということです。そのため大学生になって自由が増え融通がきく環境下になったからこそ、もう一度自分の行動に対して責任感を持つと思いました。そして何より、春季リーグでは、先輩方の活躍により3部リーグで優勝して昇格戦に挑むことができたことが何よりも大きな経験になったと思います。昇格戦では、テスト期間とかぶり、決して好都合での試合ではありません。しかし、先輩方の2部リーグに行くという強い気持ちが初戦の1勝という結果に繋がったのだと感じています。結果として2部リーグにはいけなかったけど、南山大学が野球部の総力戦が見れた最高の試合だったと思います。自分たちは、1年生でこの先もこういった先輩方の姿勢を自分たちの代でも受け継げるようにしていきたいと感じました。また、上南戦においては南山大学と上智大学の伝統に触れさせてもらい、交流を深めることができたと感じています。野球の方では、惜しくも上智大学にやぶれてしまいました。上南戦というイベントを通じて、一年生の仲が深まるとてもいい経験ができました。また自分個人としては、春季リーグに登板させてもらった直後に右肘の怪我でその後の昇格戦や新人戦、上南戦などの登板ができずに悔しい思いをしました。この怪我を1日でも早く治して、南山大学野球部の目標である2部昇格に貢献できるように日々の練習に励みたいとおもいます。お世話になった先輩方がいられるうちに、2部に昇格できるように私たち一年生も力を合わせて、今後の南山大学野球部の活動に参加していきたいです。

マネージャー 一年 羽生暖花 はぶ のはな
愛知県 名古屋西



春季リーグ戦、新人戦、そして上南戦お疲れ様でした。日頃より横江コーチをはじめ、OB・OG、南山大学硬式野球部の関係者の皆さまからの温かいご支援・ご声援をいただき、心より感謝申し上げます。

私はこれまでずっとプレイヤーとして部活動に取り組んできたため、マネージャーの経験はありませんでした。ですが、プレイヤーだったからこそ、「こうされたら嬉しい」と思えるような気配りやサポートができるのではないかと考え、マネージャーに挑戦してみようと思いました。もともと野球が好きだったことや、南山大学硬式野球部の温かい雰囲気にも惹かれ、迷わずこの部活に入りました。自分のベースで楽しく活動できそうだと感じたのも、大きな決め手のひとつです。日々一生懸命練習している選手たちが試合で活躍している姿を見ると、自分のことのように嬉しくなります。その姿からは毎回たくさんのパワーをもらい、プレー中のかっこよさにいつも感動しています。厳しい試合展開でも、選手同士が声を掛け合いながら良いチームの雰囲気を作ろうとしているところも本当に素敵だなと感じます。また、マネージャーである私にも優しく話しかけてくれたり、気遣ってくれたりする選手たちの姿勢に、いつも励まされています。先輩マネージャーの皆さんも、仕事を丁寧にご教授くださったり、空き時間にたくさん話しかけてくださったりと、温かい雰囲気の中で楽しく活動ができています。現在は、道具の準備や管理、打席動画の撮影などを主に担当しています。選手が使う道具は一つひとつを大切に扱い、プレー動画は選手の成長を少しでも後

押しできていると感じられ、やりがいがあります。最近では、先輩マネージャーに教えていただきながらスコア練習にも取り組み始めました。まだまだ未熟ですが、試合などの場面で経験を重ねながら、夏休み中にはスコアを完璧にできるようになりたいと考えています。今後は、もっと周囲をよく見て、自分から率先して動けるようになりたいです。言われなくても「今何が必要か」「どんなサポートができるか」に気づいて行動できるように、視野を広く持っていきたいです。選手一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを取りながら、その時々の状態を把握し、それぞれに合ったサポートができるよう努力していきます。もともと私は人見知りな性格ですが、それも少しずつ克服しながら、マネージャーとしても人としても成長していきたいです。この部活に入って本当に良かったと心から思っています。選手やマネージャーの皆さんの優しさや心遣いに支えられて、日々楽しく活動することができています。これからは、そんな皆さんに恩返しができるよう、自分にできる最大限のサポートをしていきたいです。そして、もう1人の同学年のマネージャー仲間と協力し合いながら、より良いチームづくりにも貢献していきたいです。

マネージャー 一年 石田桃子 いしだももこ
愛知県 桜台



春のリーグ戦、新人戦、上南戦お疲れ様でした。平素より南山大学硬式野球部にお力添えいただいている横江監督をはじめ、OB・OGの方々、応援して下さる皆様に心より感謝申し上げます。私はこの春、小さい頃からの憧れであった野球部のマネージャーになりました。高校まで選手として活動していた私にとって、マネージャーの仕事は、期待が募る反面、わからないことも多くありましたが、マネージャーの先輩方が丁寧に仕事を教えてくださったおかげで、少しずつできることが増えてきました。初めてベンチの中に入れていただいた時、選手同士の声掛けや応援に胸が熱くなったのを覚えています。私自身選手時代に、打席に立った際、ベンチからの声援に何度も助けられました。マネージャーとして選手を支える立場となった今、少しでも力になれるよう、持ち前の明るさを活かして、精一杯応援したいと思います。いつも、ひたむきに頑張る選手の姿を見て、力になりたいと強く感じます。また、部員の1人として、そんな選手たちと一緒に喜んだり悲しんだり出来ることをとても嬉しく思います。少しでも選手の手助けができるように、選手時代に監督から教わった、常に視野を広く持って自分にできることを探し、誰よりも早く行動するというのを大切にしていきたいです。そして、安心して仕事を任せてもらえるよう、自分の強みを増やしていきますが 最後になりますが、いつも優しく接して下さる先輩方、親しみやすい同期のおかげでとても楽しく部活に参加することができています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。秋に控えたリーグ戦では、2部リーグ昇格に向けて選手の力になれるよう、これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。今後ますます暑さが厳しくなっていきますが、これからも応援よろしく願いいたします。

打撃成績 規定打席数 打席												
	打率	打席	打数	得点	安打	打点	犠打	犠飛	四死球	盗塁	三振	残塁
西塚		39	31	3	18	6	0	2	7	1	6	8
花井	0.125	34	24	6	3	3	2	0	4	1	6	7
小西	0.5714	36	28	7	16	6	1	1	8	0	3	15
今福	0.2581	38	31	7	8	3	1	0	6	5	1	5
林	0.3077	39	26	4	8	4	0	0	13	2	10	10
齋藤	0.5263	29	19	4	10	6	1	0	8	5	6	6
蛭川	0.0625	20	16	6	1	4	0	1	3	1	3	1
永谷	0.2857	16	14	1	4	11	0	0	1	2	5	2
海老	0	19	16	3	0	0	0	0	3	2	4	2
漆谷	0.3125	16	13	6	5	0	0	0	2	1	1	3
小野	0.2	15	11	3	3	4	0	0	4	1	1	3
辻	0.6842	25	19	3	13	6	0	0	5	2	3	5

投手成績 規定投球回数 回													
	防御率	投球回数	打者	打数	安打	犠打	犠飛	四球	死球	奪三振	暴投	失点	自責点
深谷	1.35	20	76	67	10	1	0	7	1	10	0	1	3
田島	2.6471	17	78	69	19	1	1	5	2	17	0	9	5

	打率	打席	打数	得点	安打	打点	犠打	犠飛	四死球	盗塁	三振	残塁
西塚	0.303	46	33	17	10	6	0	2	8	0	5	6
今福	0.2381	49	42	12	10	10	1	2	4	3	0	4
林	0.4063	45	32	14	13	14	0	0	9	4	0	9
小野	0.2593	35	27	8	7	6	0	0	3	1	1	5
小西	0.381	48	42	16	16	15	0	0	6	1	1	9
花井	0.3226	40	31	9	10	5	1	0	7	0	4	7
辻	0.24	31	25	5	6	6	0	1	2	2	4	3
海老	0.2188	43	32	9	7	7	0	2	9	1	4	7
齋藤	0.3448	39	29	15	10	4	0	1	8	3	5	5

投手成績 規定投球回数 12回													
	防御率	投球回数	打者	打数	安打	犠打	犠飛	四球	死球	奪三振	暴投	失点	自責点
田島	0	16	68	57	11	1	0	8	1	14	0	1	0
木村	0.45	20	78	70	12	3	0	5	4	22	0	3	1
森上	0.16	12	49	39	11	4	1	3	0	13	0	3	2

春オープン戦打率ランキング

1位 辻 2位 小西 3位 齋藤

防御率ランキング

1位 深谷 2位 田島

春リーグ戦打率ランキング

1位 林 2位 小西 3位 齋藤

防御率ランキング

1位 田島 2位 木村 3位 森上



2025 年秋

- 7月12日～ 秋季オープン戦
- 8月1日～ 夏季練習開始
- 9月6日～ 秋季リーグ
- 10月25日～ 入れ替え戦

秋季オープン戦成績

6月15日 vs 愛知教育大学 10-9

7月12日 vs 至学館大学 0-10

8月7日 vs 名古屋大学 8-7

8月18日 vs 愛知教育大学 5-1

8月19日 vs 岐阜大学 4-5

8月22日 vs 三重大学①0-8

8月22日 vs 三重大学②3-4

8月23日 vs 愛知大学 4-17

8月26日 vs 金沢大学 5-1

秋季リーグ戦成績

9月6日 vs 豊橋技術科学大学 19-1

9月7日 vs 名古屋市立大学 10-3

9月14日 vs 名古屋外国語大学 13-1

9月20日 vs 大同大学 7-6

9月27日 vs 愛知教育大学 7-4

9月28日 vs 名古屋工業大 1-10

10月11日 vs 名古屋淑徳大学 14-0

入替戦

10月25日 vs 名古屋産業大 22-4

26日

5-4

背番号 22 花井慧汰(はないけいた)

京都府 京都外大西高校 4年



2部昇格を決めた最高の締めくりでした。1年生の時から常に2部昇格をイメージし、目標としてきました。毎年2回のチャンスそのチャンスを掴むために日々野球部全員で高め合い過ぎてきました。最後の秋季リーグでは本塁打と打点の二冠を取ることができました。これまでずっと打撃のアドバイスを練習中も打席に立ってる時でもしてくれた西塚、不調が続いても起用し続けてくれた今福、試合中センターからずっとオーバーアクションで僕自身を和ませて冷静に考える時間をくれた林には感謝しかありません。他のチームメイトのみんなにも感謝でたくさんです。これまで自分を支えてくれてありがとうございました。入れ替え戦でも2試合で打撃と守備で貢献できたと思います。ほんとにチーム一丸となって掴めた誰もが納得する良い試合ができたと思います。24年ぶりの2部リーグ昇格。本当は2部で試合したかったけど、そのチャンスは自分たち4年には春の時点で無くなってしまいました。この昇格は嬉しい反面、悔しい気持ちも残ります。その分下級生には2部で来年から勝ち進んでどんどん上を目指してってもらいたいです。この4年間で色々な人との出会いがありました。練習試合をした相手、上南戦、OB、OGの方々、そしてチームメイト。自分に携わってくれた全ての人に感謝したいです。何回も「このチームじゃ勝てない。」と2部昇格は無理だと感

じたこともありました。でも今思えば、このチームで野球ができて本当に良かったと心の底からそう思います。

そして、夏の暑い練習も冬の寒い自主練習期間、合宿の1日練習を支えてくれたマネージャーのみんなも本当にありがとうございました。たくさん迷惑もかけたし、揉めたことも過去にはありました。それでも練習に来てくれて自分たちを支えてくれたこと本当に感謝しています。マネージャーとか選手とか関係なく、同じグラウンドに立つ仲間として試合中もスコアを書いてくれたり、アイシングの用意など支えがあったから自分たちも伸び伸び試合でプレーすることができました。本当にありがとうございました。

最後にはなりますが、自分たちの試合を見にリーグ戦、入れ替え戦、球場に足を運んで応援してくださったOB、OGの方々、また、一球速報などネットで自分たちの試合を確認し、応援してくださった全ての方々、ありがとうございました。これまで応援を全てあと一步のところで裏切ってしまった分、最後に実らせることができ本当に良かったです。本当にありがとうございました。南山大学野球部4年間お世話になりました。

背番号 1 西塚制覇(にしづかせいはい)

三重県 海星高校 4年



秋季リーグ戦お疲れ様でした。リーグ戦開催にあたり運営してくださった多くの方々、そして4年間応援してく

くださった方々、私の成長の携わってくださった方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、今季のリーグ戦はこれまでの7シーズンと大きく異なるスタートでした。正直リーグ戦に出場するつもりがなく、自身の中で大学野球に終止符を打っていました。理由としては大学野球において上のリーグでプレーしなかったこと、春季入替戦敗退の1週間後に教育実習で母校を訪れ、野球に対しての熱量に刺激を感じ、自分の野球というよりも彼らのために尽力したいと思ったこと、これらふたつの理由で上南戦開催中で迷惑かとは思いましたが主将である今福に退部の旨を伝えました。南山野球部とは離れ、母校での指導に努めている中、リーグ戦開幕1週間前に花井、小西、齋藤と飲む機会がありました。そこで、部に戻ってきてほしいこと、リーグ戦、入替戦で勝つためには力が必要だと相談され、復帰を訴えられました。そう思っていたことに嬉しく感じたものの2ヶ月部活に参加していない者に試合に出る権利はないし、それまで頑張ってきた選手たちに迷惑だという気持ちの方が圧倒的に強くかなり気持ちは揺れました。実際には復帰こそしていますが、リーグ戦での成績は正直目も当てられない結果であり、復帰を後悔したことも何度もありました。練習に対しての熱量も当然母校とは大きく違うため自分自身のモチベーション維持も難しかったです。リーグ戦優勝には微塵も貢献できず、これまでのリーグ戦とは全く違った悔しさも感じました。これまで積み上げてきた成績への自信を完全に無くし、入替戦では絶対悔しい思いをしたくないと藁にもすがる思いで復調を目指しました。入替戦前日、不安の大きさから中学生ぶりに父親とバッティングセンターへ足を運び打撃指導を仰ぎました。「気負わず普通に打てばバットには当たるし、当たったらボールは飛んでいってくれるんやから」この言葉を父から受け取りました。野球では厳しい父親から初めて励まされました。この言葉、練習のおかげで1試合目では3安打、2試合目では1安打を含む3出塁という少し安堵する結果を残すことができました。最終打席では同点二死満塁からファーストフライを打ち

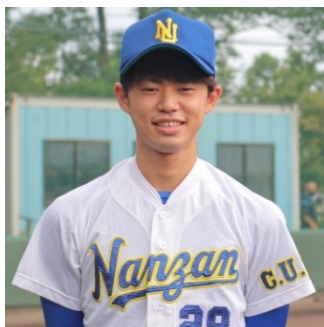
上げ、昇格の立役者になることはできませんでしたが、中途半端な状態で戻ってきた私が最後試合を決めるよりも、これまでチームを引っ張ってきた3年生である林の四球による出塁、齋藤の犠牲フライで終わった方が幕切れとしてはふさわしいのかなとは今になって思います。周りから復帰してくれて良かったと思われる結果を存分に残せたかと言われるとクエスチョンマークが浮かびますが、あの日戻ってきてほしいと言われなかったら、戻るという決断をしていなければ、あの感動は味わえなかったと思うと感謝と大きな迷惑をかけたなという申し訳なさで胸がいっぱいです。

活躍を期待され、その期待に応えるべく無我夢中に頑張った1年春、レギュラー定着し最低限の活躍を果たすことができた1年秋、バッティングについて考え始め、運とレベルが上手くマッチした2年春、春よりも解析度が上がり入替戦で翌年四国アイランドリーグの開幕投手となるピッチャーとも互角に戦えるという自信になった2年秋、幹部となりチーム運営にも携わりながら自身の結果も追求する難しさに触れた3年春、それらが吹っ切れて自分らしい成績が残せるようになった3年秋、昨年苦渋を飲まれた愛教に2本塁打含む5打数4安打を放ち、あと1歩で昇格を逃した4年春、部員の暖かさと自分の不甲斐なさ、勝利に向かってチームが一丸となり声を出す雰囲気の良いさに改めて触れた4年秋。

振り返ると1シーズン1シーズン中身の濃い4年間でした。この4年間で携わってくださった先輩方や同期、後輩たち本当に感謝しかないです。上下関係も緩く和気あいあいとした雰囲気こそ南山野球部の特徴であり、そこに苛立ちを感じる日もありましたが、メリハリをしっかりとつけられることが賢い選手が多いからなのだと思います。このメリハリを大切に南山らしい雰囲気のままこれからも進んでいってほしいなと思います。4年間本当にお世話になりました。そしてありがとうございました。

背番号 29 小西裕一郎(こにしゅういちろう)

岐阜県 加納高校 4年



南山大学硬式野球部で過ごした4年間、その最後の日々をこれ以上ない最高の形で締めくくられたことに、今、深い安堵と喜びを感じています。私たち4年生にとってラストシーズンとなったこの秋、チームは「2部昇格」を目標に掲げてスタートしました。口で言うのは簡単ですが、そこに至るまでの道のりは決して平坦なものではありませんでした。しかし、最終的にその目標をすべて達成し、歓喜の輪の中で学生野球を終えられたことは、私の人生においてかけがえのない財産となりました。

今シーズンを振り返ると、チームとしてはまさに「一丸」となって戦い抜いた秋でした。リーグ戦の緊張感、入れ替え戦独特の重圧。それらを跳ね除け、勝利を掴み取れたのは、ベンチ入りしているメンバーだけでなく、サポートに徹してくれたスタッフ、マネージャー、全員の「勝ちたい」という思いが実を結んだからに他なりません。優勝が決まった瞬間、そして入れ替え戦で勝利し昇格が決まった瞬間の景色は、一生忘れることはないでしょう。一方で、個人のシーズンを振り返ってみると、決して思い描いていた通りの活躍ができたわけではありませんでした。最高学年として、そして4年生として、プレーで

チームを牽引したいという強い気持ちを持って臨みましたが、怪我に苦しめられたシーズンでもありました。万全のコンディションでグラウンドに立てないもどかしさ、イメージ通りに体が動かない焦り、悔しさを噛み締める瞬間も多々ありました。

個人の成績こそ納得のいくものではなかったかもしれませんが、チームとして「2部昇格」という最高の結果を残せたこと、そしてその過程をこのメンバーと共に歩めたこと、自分が主役になれずとも、チームが勝つことの喜びをこれほどまでに感じられたのは、この仲間たちと野球ができたからこそだと痛感しています。

「楽しく野球をする」という南山大学の良さを大切にしつつ、私たちが温かく、時に厳しく指導して下さった横江監督。どんな時も味方であり続け、何不自由なく野球をさせてくれた両親。チーム運営の要として奔走してくれた主務やマネージャー。そして、私たちの活動を多方面から支えて下さったOBの皆様。関わって下さったすべての方々に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

4年間、本当にありがとうございました。

背番号 44 柵瀬柊人(たなせしゅうと)

愛知県 名東高校 4年



四年生として挑んだ最後の秋季リーグ。春季リーグでは優勝を果たしたものの、入れ替え戦で敗れ、あと一步の

ところで念願の2部昇格を逃しました。悔しさと無念さが心の奥底に残り、「必ず昇格を掴み取る」という強い思いで臨んだのがこの秋季リーグでした。長いシーズンの中で、全員がそれぞれの役割を全うし、一球、一瞬を大切に積み重ねてきました。その結晶としてリーグ優勝、そして入れ替え戦で勝利し、ついに目標であった2部昇格を達成することができました。

個人としては、リーグ戦を通して一度しか登板機会を得ることはできませんでした。ですが、それでも最後まで野球を続けてきて良かったと、心から思っています。なぜなら、自分自身のすべてを懸けて最後までやり切ったと誇りを持って言えるからです。ここまでの大学野球生活は決して順風満帆ではなく、大学2年の春には本気で野球部を辞めようと悩むほど苦しい時期もありました。プレーが思うようにいかず、何のために続けているのかと自信を失い、何度も心が折れそうになりました。

それでも続けられたのは「強い信念」があったからです。どんな状況でも、自分が正しいと感じたことを、最後まで貫き通す。その信念が、僕を野球に向かわせ続けてくれました。その象徴が、リーグ最終戦の最後の打者への登板でした。仲間に背中を押されて上がったマウンドで、優勝投手として一球を投げ切ることができた瞬間、自分自身を信じ続けてきて良かったと涙が溢れそうになりました。

そして、仲間の存在があったからこそ、入れ替え戦では心から「勝ってほしい」と願い続けることができました。誰が試合に出ているか出なくても関係ない。2部昇格が決まった瞬間、全員で掴み取った勝利に心の底から喜びが込み上げてきました。

これで自分の野球人生は幕を閉じます。しかし、最高の仲間と最高の瞬間を共有し、最高の形で終えることができました。それが何よりの財産です。今回あえて個人的な想いを書いたのは、この文章を読んだ後輩たちが、「続ける勇気」を持つきっかけになってほしいと思ったからです。

南山大学硬式野球部で過ごせて幸せでした。

今まで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

背番号 3 宮城翔生(みやきかい)

奈良県 天理高校 4年



みなさん、こんにちは。硬式野球部4年の宮城です。まずはこの場ではありますが、日頃の応援をしていただいている皆様に深く感謝申し上げます。皆様のご声援が力となって、秋季リーグ戦では3部優勝、そして悲願の2部昇格を果たすことができました。私自身は今年限りで引退となりますが、2部ではきっと後輩たちがまた一段と強くなって勝ち残ってくれることでしょう。来年は私も一人のOBとして、何かしらの形でチームに貢献できればなと思っています。さて毎度のことですが、この場をお借りして私の現状とチームメイトへの賛美を贈らせて頂きます。よろしく申し上げます。

まずは私事ではありますが、本来は二年時にドロップアウトする予定でしたが、まさかのここまで野球に没頭し、部活としても4年生の秋まで続けておりました。我ながらよく頑張ったことだと思います。そんな私ですが、意外にも野球に対する熱は冷めておらず、なんと現役続行という判断をさせていただきました。どのような形で野球を続けていくのか、それはまだ決めかねていますが、今後も意外性のある宮城をどうか応援よろしく申し上げます。そのためにもこの冬はこれまで約2年間関わって

こなかった守備にもチャレンジするという、「守備解禁」をする判断をさせていただきました。まず現時点の私は、打球を処理した後にどこに送球すればよいのかわからないので、まずは野球のルールを覚えることから始めさせていただきます。そして苦手な分野はフライ処理なので、まずは打球がどこにあるのかを素早く判断し、少しでも守備範囲を広くしていきたいと思います。

続きまして、チームメイトへの賛美を贈らせていただきます。まずはエビ。実は、エビ君とは同じ総合政策学部で、これまで同じ授業を受講してきました。残念ながら授業の出席率は1割もありませんでしたが、野球では高い出塁率を誇っています。また授業ではなんと先輩である僕にリアクションペーパーを毎回書かせるというとてもない醜態をさらしていますが、野球ではその時々々の状況を自分で考え、プレーしてくれています。また前述したとおり、授業に対しては非常に消極的な姿勢を示していますが、出塁した後は、果敢に次の塁を狙っていきます。これからも彼のこと、応援をお願いします。

続きまして、辻君。彼は来年の硬式野球部の主将に任命されました。僕も非常に期待しております。試合になると緊張して固くなってしまいます。どうかチームメイトの皆様、彼のこと笑わせてあげてください。

続きまして、花井君。彼は今大会 MVP に選出され、試合でもやはり攻守ともにチームを牽引してくれました。特に愛知教育大学戦では2本の本塁打を放ち、愛教グラウンドでの相性の良さも見せてくれました。彼と野球ができなくなり、私自身つらいですが、ここで鍛えた精神力で乗り越えて見せます。

続きまして、小西君。まずは四年間ありがとうございました。僕の運転があまりにもひどく、叱責されたことが昨日のことにように思えます。しかし小西君からのアドバイスを受けて、運転している自覚と誇りを手に入れることができました。ありがとうございました。

続きまして、西塚君。とにかくレベルが高く、嫉妬してもしきれないほどでした。これから野球を続けていくようですが、トップレベルまで突き進んでいってほしいと

思います。また高速バスに乗って、東京行きましょう！皆様も彼の今後のご活躍にご期待ください。

最後に、柵瀬。いろいろありがとう。

ということで、これをもちまして私の部報とさせていただきますが、改めてOBの皆様、日頃ご声援・ご支援、ありがとうございました。最後に2部昇格という形で恩返しをすることができてよかったです。今後とも南山大学硬式野球部をよろしくお祈りします！

背番号5 齋藤奨太(さいとうしょうた)

三重県 三重海星高校 3年



秋季リーグ戦と入れ替え戦お疲れ様でした。

秋季リーグ戦では、春季リーグに引き続き果たすことができました。また、その後の入れ替え戦でも春の入れ替え戦での悔しさを糧に2連勝という結果で2部昇格という長年の目標を果たすことができました。今回のリーグ戦では、前回のような打力で勝つという野球ではなく、守り抜いて勝った試合が多かったという印象でした。それは投手陣の防御率が1.5をマークしていることが大きく関わっており、最小失点で守り抜くことができたことがこのような結果に結びついたと思います。入れ替え戦の1試合目では反対に打力が非常に光っていたと感じ、1試合で22得点はチーム全体が勝負強かったように感じました。しかし、2試合目は春の入れ替え戦と同じように序盤

は中々打線が繋がらないという試合展開で始まり
ました。だが、前回と違ったのは1点を確実にと
っていく姿勢だと思いました。5回以降着実に1
点をとっていたことがサヨナラを生む結果にな
れたと思います。

個人としては、主に三塁手のレギュラーとして
出場する機会を多く与えてもらいました。チ
ームの勝利のために最善を尽くし、他の選
手よりも一歩前に出て行動することや常に
上級生として自覚を持つこと意識してい
ました。打撃面に関しては、春季リーグと
同様下位打線を任せられることが中心と
なりました。上位打線にチャンスで回すこ
とを第一に考えた結果チームトップの.381
という記録を出すことができました。また、
大学初の本塁打も放つことができたので
引き続き打力アップができるように精進
していきます。

来シーズンは2部での戦いとなり、今まで
よりもレベルの高い投手や打者を打ち崩し
、抑えていかなければなりません。その
ため、この冬の期間においては1人1人の
技術向上が必須条件となります。投手の
キレやスピード、打者のバットスイングに
負けないようにチーム全員が戦力として
日々の練習や生活を大事にして春を迎え
ていきたいと思います。

背番号 14 森上駿太郎(もりかみしゅんたろう)

愛知県 名古屋高校 3年



秋リーグお疲れ様でした。自分はこの秋の大会で
多くの試合で抑えとしてマウンドに立たせてい
たいただきましたが、その中で自分の力不足
を痛感する場面が多くありました。ここぞと
いう場面で踏ん張り切れず痛打を許したり
、ツーストライクから決め切れずに粘られ
て出塁を許したりと、終盤の大事な局面を
任される投手としての詰めの甘さが目立
ちました。また、一発を浴びることも多く
、チームがつくってくれた流れを断ち切
ってしまうような投球もあり、流れを呼
び込むどころか相手に渡してしまう場
面もありました。

また、今の自分のストレートだけでは2部
の打者には通用しないという現実も痛感
しました。これまでの相手はストレートに
対応するまでに一巡ほどかかっていま
しが、2部の選手は初回から確実に対
応してきました。この冬はストレートの
キレと球速をさらに高め、抑えとして
ストレートで勝負できる投手を目指し
て練習に励みたいと思います。

加えて、変化球、特にスライダールの精
度を上げる必要性も強く感じました。良
い打者ほどまっすぐ系の変化球がない
と抑え切れず、終盤の勝負どころでは
変化球で空振りを奪える力が不可欠で
す。この冬はスライダーを決め球とし
て使えるレベルまで徹底的に磨いてい
きます。

メンタル面の強化も大きな課題です。日
々の練習で課題を克服し、自信を積み
重ねることで、大事な場面でも自分の
投球を貫けるようになっていきたいと
考えています。また怪我をしやすい体
質でもあるため、怪我に強い体づくり
や、シーズンを戦い抜ける筋持久力
も鍛え、チームに貢献できる抑え投
手になりたいと思います。

この秋リーグでは多くの仲間にピンチを
救ってもらいました。だからこそ、この
冬で必ずレベルアップし、来季は自分
がチームを救う存在になります。そし
て、3部リーグ優勝、入れ替え戦2勝
で2部でも堂々と戦えるチームにす
ることを目標に、この冬の練習に

全力で取り組んでいきます。

背番号 16 林侖真(はやしれいま)

愛知県 小牧南高校 3年



秋季大会および入れ替え戦、大変お疲れ様でした。チームの目標であった3部リーグ優勝と2部リーグ昇格を達成することができ、誠に光栄に存じます。春季リーグで惜敗した名古屋産業大学にリベンジを果たし、さらに南山大学硬式野球部として24年ぶりの2部リーグ昇格を成し遂げられた点も、大変喜ばしく感じております。

2部リーグ昇格は、私が1年生の時からチームとして掲げてきた目標であり、入れ替え戦で負けが続き悔しい思いをしてきました。だからこそ、私たち現役生の代で今までの先輩方の無念を晴らすことができたのは、何よりの喜びです。

しかしながら、2部リーグ昇格という結果に満足することなく、チームとしてさらなる向上を目指さなければならないと考えます。

昇格達成に安堵し、成長を止めてしまえば、来年の春季リーグで3部リーグに降格してしまう可能性があるからです。そうなると、今回の2部リーグ昇格が単なる偶然であったと言われかねません。チームの向上を実現する上で、主力として活躍した4年生の

引退によって生じる戦力の穴を埋めることが急務です。特に、センターラインを担っていた4年生2名が抜けることはチームとして大きな弱点となり得るため、そのポジションの補填を最重要課題として取り組むべきだと感じています。さらに、クリーンナップを構成していた4年生2名の不在は、得点力の低下を招く可能性も懸念されます。

春季リーグから秋季リーグにかけてスタメンの変更がなかったことは、選手層の薄さや、チーム全体の強さが不足していることの表れだと感じています。これらの課題を克服するため、新3年生を中心とした新しいチーム体制を構築していただきたいと願っています。これまでの体制に囚われず、失敗や批判を恐れずに、果敢に新しい取り組みに挑戦して欲しいと思います。私自身は、そのような挑戦に対して全面的に応援していきたいと考えております。

これからの新しいチームへの応援を、引き続きよろしく願い申し上げます。

背番号 25 今福優晴(いまふくゆうせい)

愛知県 名古屋経済大学市邨高校 3年



OB・OGの皆様、平素からの多大なるご支援ありがとうございます。並びに秋季リーグ戦、入れ替え戦お疲れ様でした。

今季は目標であった「3部リーグ優勝・2部リーグ昇格」を主将という立場で達成することができ、ま

た大学として24年ぶりということもあってとても嬉しく思います。2部昇格を逃した春季に比べて厳しいリーグ戦となり、接戦をものにする試合展開が多くありました。個人成績を見ると投手・野手共に突出した成績を残す選手はいなかったものの、勝負強さや粘り強さを見せ、重要な場面で点を取れる、守り切れるチーム力で勝ち続けることができました。このチーム力は春季の入れ替え戦で負けたあとのテーマとし、打撃と守備共に1点にこだわる意識を持って取り組んできました。それが最高の結果に結びついたと感じています。

個人として、秋季リーグではこれまで以上に思うような結果が残せず苦しい期間を過ごしましたが、チームの勝利を第一に最低限の役割を果たすことはできたと感じています。特に入れ替え戦では、春季に全く結果が残せなかった悔しさをバネにして強い気持ちで臨み、結果でチームの勝利に貢献することができました。

私は1年生の秋季に初めて入れ替え戦に出場し、スタメンとして2試合出してもらったものの2連敗を喫してレベルの差を肌で感じました。昨年も十分な戦力がありながらあと一步のところまでリーグ優勝を逃しました。今年こそ、と誰よりも2部昇格に強い思いを持って部活動に取り組んできました。今回その目標を達成できたのは、最後まで共に戦ってくれた4年生の方々や1年生の私たちを入れ替え戦に連れて行ってくださり、目標を明確にしてくれた先輩方の存在があってこそだと確信しています。全員で喜んだ勝利の瞬間は何にも変えられない最高の思い出になりました。

来季から2部リーグで戦うということで、より厳しい戦いになると思います。これまで野球を続けてきた一選手として、2部リーグのレベルでどのくらい通用するのか、どうすれば通用するのかを常に考えて春季リーグに臨みたいと思います。また、上のレベルで野球ができることを楽しんで大学野球生活を

締めくくります。

最後になりますが、今季の2部昇格という結果は私たちだけの力だけではなく多くの方々の支えがあったからこそのものだと感じています。OB・OGの皆様にはこれからも変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

背番号 55 永谷勇樹(ながたに ゆうき)

愛知県 国府高校 3年



春季リーグ戦、入替戦等シーズン後半戦お疲れ様でした。まず初めにここまで無事に活動を継続できたことをOBの皆様をはじめ、監督、マネージャー、保護者の皆さま、いつもご支援と応援をありがとうございます。今後も本部活動を継続的に行うために精進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。リーグ戦ではチームとして目標としていた優勝を果たすことができました。これもOBの皆様や横江監督ならびに保護者の方々の協力のおかげでできたものと思います。ありがとうございます。そして入替戦では二連勝をし、24年ぶりの2部リーグ昇格を果たすことができました。南山大学の歴史の1ページに自分自身が携われていることをとても嬉しく思います。夏のオープン戦では僅差で負ける試合や、ホームランが出るなど良い面もたくさんありましたがエラーなど自分達からチャンスを作り出すことができないという課題も明白になった

オープン戦でした。その中でリーグ戦ではチームとしては春リーグのメンバーを中心に新しく 1.2 年生が投手陣が試合に出る機会が増えるという一番いい状態でリーグ戦を迎えることができたと思います。リーグ戦では危ない試合もありましたが結果として 3 部リーグ優勝 2 部リーグ昇格という最高の結果を出すことができてよかったと思います。キャプテン副キャプテン投手リーダーなど常に練習メニューや采配に熱量高く議論を交わす様子を見てこのチームで一緒に優勝して 2 部昇格したいという思いが強くあったのでとても嬉しかったです。ですが個人的にはとても悔しいリーグ戦でした。夏のオープン戦では少し結果を出すことができましたがリーグ戦入替戦では結果を残すことをできずにとて自分の実力がないということを改めて実感することになりました。この冬に自分の実力を少しでも上げ来年こそはチームに貢献したいと強く思います。さて来年は 2 部リーグになります。2 部とはいえプロ野球選手も輩出するととてもレベル高いリーグで自分自身がプレーすることができるということに喜びを感じながら毎試合勝利を目指して活動していきます。個人的には来年は自分の野球人生において最後の年になります。小学校 3 年生から野球を続けてきて辛い思いの方が正直に言って多かったのですが最後は笑って終われるように頑張ります。これからもご声援の程よろしくお祈いします。

背番号 27 蛭川健太(ひるかわけんた)

愛知県西尾高校 3 年



平素より当部の活動に温かいご支援とご声援を賜り、誠にありがとうございます。この秋季リーグ、そして入替戦を無事に戦い抜くことができたのも、日頃より私たちの活動を支えてくださる OB・OG の皆さま、ならびに指導者・関係者の皆さまのおかげです。選手一同、心より御礼申し上げます。

今季の秋リーグでは、春から積み上げてきた取り組みをチーム全体で体現することを目標に、1 戦 1 戦を大切に戦い抜きました。春季リーグでは 100 得点を超える攻撃力を発揮して 3 部優勝を成し遂げ、入替え戦でも初戦をものにするなど、確かな成長を実感できるシーズンとなりました。しかしながら、名古屋産業大学に力及ばず、目標としていた昇格を逃した悔しさはとても大きく、その経験が私たち全員の原動力となっていました。「あの敗戦を無駄にしない」「必ず力をつけて戻ってくる」という強い思いを胸に、夏季練習では基礎の徹底から実戦的な課題克服まで、チーム全員で厳しく取り組み続けました。

そして迎えた秋の入替戦では、同じく名古屋産業大学を相手に、2 連勝で雪辱を果たすことができました。春から積み重ねてきた粘り強さ、試合中の修正力、そして最後まで諦めない集中力を発揮し、全員の力で勝利をつかみ取りました。この結果、念願であった「2 部昇格」を成し遂げることができ、チームとして大きな一歩を踏み出すことができました。私自身、出場機会は多くありませんでしたが、自分たちの代で昇格を勝ち取れたことに大きな誇りを感じています。また、中心となってチームを引っ張ってくれた今福をはじめ、仲間存在に改めて感謝したいと思います。私を含め 3 年生は就職活動が本格化し、野球に割ける時間は減っていきますが、微力ながらチームに貢献できるようトレーニングを継続

し、できる限りの力を尽くす所存です。

2部の舞台では、これまで以上に厳しい戦いが続くことが予想されます。しかし、この昇格をゴールではなく新たなスタートと捉え、より高いレベルで戦えるチームづくりに励んでまいります。今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

背番号 2 海老壱喜(えひいつき)

愛知県 名城大学付属高校 2年



今秋リーグをもって、私が副キャプテンとして取り組んできた一年間の活動に一区切りがつかしました。春リーグでは3部からのスタートでしたが、チーム全員の努力が実を結び、念願の2部昇格を達成することができました。特に入れ替え戦は、一人ひとりの思いがひとつに重なった試合であり、副キャプテンとしてこれ以上ない経験となりました。

実は、入れ替え戦前日に交通事故に遭うというハプニングがありました。しかし、どうしても自分がこの試合に立ちたかったこと、そしてチームの力になりたいという気持ちが勝り、気合いで出場を決めました。結果として1番バッターとして5本のヒット、5つの盗塁を成功させることができ、少しはチームに貢献できたのではないかと考えています。

特に印象に残っているのは、9回に負けている状況で決めた盗塁です。以前の自分なら、あの場面で思い切った一歩を踏み出すことはできなかったはずで。苦しい場面でも勝負を避けず、チームのために何ができるかを考えて行動できたことは、副キャプテンとして、そして一選手としての大きな成長だと感じています。

来年の春リーグは留学のため参加できません。しかし、秋に再び2部の舞台で試合をすることを本気で願っています。そのためにも、みんなにはぜひこの冬から春にかけてさらに成長してほしいと思っています。今のチームなら、必ず2部で勝ち続ける力がありますし、さらに上を目指すこともできるはずです。私もイタリアからみんなの活躍を全力で応援しています。

最後に、掲載している写真は8月に行った合宿の様子です。合宿では走攻守すべての基礎を徹底し、チームとして同じ方向を向くきっかけにもなりました。この経験を忘れず、これからも日々の練習に取り組んでほしいと思います。

背番号 4 西出涼雅(にしで りょうか)

三重県 海星高校 2年



秋季リーグ戦、入れ替え戦お疲れ様でした。並びに各公式戦を通して、多くの学びと課題、そして成長

の機会を得ることができました。今季は春から続けて取り組んできた課題の改善に努めつつ、チーム全体としても個人としてもさらに一段階上を目指して挑んだシーズンでした。入れ替え戦では相手チームの力の差を痛感する場面もありましたが、結果として、目の前の試合を勝ち続け、2部に昇格することができました。

まず、チームとしては、失点を最小限に抑える守備の安定と得点に結びつく攻撃力の継続的な向上が課題だった春季とは異なり、アグレッシブな攻撃や手堅い守備力が目立った場面が多く、これまで課題としてやってきたことが活かされ勝利に結びつけることができました。また、メンバーそれぞれが役割を理解し、自分にできることを全うしようと努力する姿勢は、チームとしての成熟を感じさせるものでもありました。個人としては、今季も出場機会に限られる中で、自分の役割をどう果たすかを常に考えて試合に臨みました。私自身、代走として出場しましたが、まだまだ自身の課題点は多くあり、来季に向けて今季の反省を活かし、克服していきたいと思えます。

この秋季リーグ戦、入れ替え戦を通して、良かった点だけではなく、さらなる課題も明確になりました。特に名古屋産業大学の選手の個々の能力は一線を画している点が多々あり、来季から2部でプレーしていく中でさらなる底上げが必要であると痛感しました。日々の練習に対する姿勢や試合に向けた準備、そして試合中の集中力の持続など、改善すべき点は多くあります。来季に向けては、全体練習に加えて自主練習にもより一層力を入れ、自分の役割をより大きく広げられるよう努力を続けていきたいと考えています。

最後に、今季も野球ができる環境を支えてくださっているチームメイト、マネージャー、応援してくだ

さる保護者・OB・OGの皆さまに深く感謝申し上げます。いただいた支えを決して当たり前と思わず、来季はより成長した姿をお見せできるよう、これからも精一杯取り組んでまいります。

背番号 7 漆谷悠斗(うるしたにゆうと)

愛知県 愛知高校 2年



まず初めに、このチームを支えてくださった4年生の先輩方に心から感謝を申し上げます。練習でも試合でも、プレーだけでなく姿勢や言葉から多くのことを学ばせていただきました。先輩方が築いてくださったものがあったからこそ、今季の2部昇格という結果につながったと思っています。本当にありがとうございました。

今季のリーグ戦は、チーム全員で狙っていたリーグ優勝を果たし、続く入れ替え戦でも勝利して念願の2部昇格を決めることができました。これまで悔しい思いを積み重ねてきただけに、チームとして結果をつかみにいく強い気持ちが、最後に形になったシーズンでした。

自分自身は主に指名打者として出場させていただきました。要所の場面で打つことができ、少しはチームの勝利に貢献できたと感じています。しかし、振り返ればまだまだ力不足な場面も多く、2部で戦っていくにはもっと高いレベルの打撃と安定感が求められると痛感しました。結果が出た打席もありまし

たが、そこで満足しては通用しないという危機感の方が大きいです。

2部の舞台はこれまで以上に一球の重みが増し、甘い気持ちでは絶対に勝ち切れません。だからこそ自分自身の意識から変えていく必要があると強く感じています。そしてこれは自分だけでなく、チーム全員が2部で勝つために意識を変えて、同じ方向に向けて意識を上げていくことが不可欠だと思います。

この昇格で満足しては、また同じところで止まってしまう。春からは2部で戦うチームとして、練習の1スイング、1球、1プレーに今まで以上の覚悟を持って取り組みます。個人としても打撃の質をさらに上げ、チームを勝たせられる打者として責任を果たしていきます。

最後になりますが、支えてくださるOB・OGの皆様、監督、マネージャー、そして応援して下さる全ての方々に感謝申し上げます。次のシーズンも南山大学硬式野球部らしく、全員野球で勝利をつかみにいきます。今後ともご声援のほどよろしくお願いたします。

背番号 8 繁澤和明(はんさわかずあき)

愛知県 昭和高校 2年



秋学期も終わりに近づき、今年の野球部の活動を振り返る時期になりました。今季、チームは念願の二部昇格を達成しました。春からの練習や試合を通し

て、思うようにいかないことも多くありましたが、部員全員が諦めずに積み重ねてきた努力が、この結果につながったのだと思います。特に今季は下級生の活躍が目立ち、チームとしてのまとまりも強くなってきました。応援して下さった皆さまには、本当に感謝しています。

二部に上がったのは大きな一歩ですが、正直なところ、ここからが本当の勝負だと感じています。上のリーグでは、どのチームもレベルが高く、一つひとつのプレーの質や試合の流れを読む力がより強く求められます。今までみたいに勢いだけで突っ走るのでは通用しない場面も増えてくるはずですが。だからこそ、来季は挑戦する側ではなく、戦う側として二部でしっかり存在感を出せるように、チーム全体がもっと成長しなくてはならないと強く感じています。

個人的にも、来年で大学生活の折り返しを迎えることもあって、これまで以上に真剣に野球と向き合いたいと思っています。今年一年で、自分に足りないところや弱さがよく分かりました。プレーの安定感、体づくり、そしてチームにどう貢献できるかという意識。どれもまだまだ伸ばせる部分ばかりです。来季はただ頑張るだけでなく、しっかり結果にこだわる一年にしたいです。

オフシーズンの練習では、基礎を丁寧に積み重ねながら個々のレベルアップを図り、春のリーグ戦に向けて準備していきます。二部という新しい舞台は簡単に勝てる場所ではないですが、全員が同じ方向を向いて取り組めば、もっと上を目指すことだってできるはずですが。これからも声を掛け合いながら、チームとして成長していければと思います。

最後になりますが、今年一年支えてくださった指導者の方々、OB・OGの皆さま、そして応援して下さるすべての皆さまに心から感謝いたします。来季は今年以上にチームとしても個人としても成長できるよう、しっかり準備していきますので、引き続きご声援のほどよろしく願いいたします。

背番号 15 石川遥祐(いしかわ ようすけ)

愛知県 名古屋高校2年



秋季リーグお疲れ様でした。チームの歴史が久しぶりに動く瞬間を実際にグラウンドの中で見ることができ、仲間みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。自分は入替戦1戦目に登板させていただきましたが、これもリーグ戦でみんなが優勝してくれなければ立てなかった舞台ですし、何度も苦しい場面で1年生の力も大きく借りて乗り越えてくれたことに非常に頼もしく思っています。

24年ぶりに2部に上がったということで現在のチームにはその舞台を経験した人は1人もいません。レベルが高いということは十分分かっているつもりですが、想像以上に厳しいものと思います。例年通りの冬を過ごしては確実に2部で勝っていくことは難しいと思いますし、僕たち2年生がチームの軸となる年

になります。しっかり南山大学の名を背負っているという自覚を持って練習はもちろん、私生活から相応しい行動を取っていきます。個人の話としては1年生の春から続いていた肩の怪我がやっと回復傾向に転じ、日々ボールを投げることができる喜びを感じています。ピッチャーを辞めて野手に転向しようと思った、プレイヤーを辞めて違う立場でやっていこうと何回も考えたりしましたがみんなが試合をしている姿をずっと目の前で見てきて、ついに自分が入替戦でマウンドに立った瞬間本当に辞めずに我慢してよかったと感じました。まだまだ本調子には程遠いですが、1年生から課題としてきた体の強さは確実に成長していると実感しています。チームで唯一のサウスポーとしてフル稼働しなければならないと思っていますので、さらに努力を重ねて春には成長した投球を披露したいと強く思っています。

4年生が引退して僕たちが主体となったことで、自分のプレーの結果だけを考えていればいいというわけではなくなりました。実際同級生がキャプテンや副キャプテン、主務として働いている話を聞くと想像以上に考えたり議論したりすることが多く大変そうだと感じています。自分自身はそれに比べると軽めの仕事をする係りに就かせてもらったのでその分キャプテンたちがなるべく最小限の労力で自分のプレーに専念してもらえるように後輩への声かけであったり色々な視点を持ってチームを支えていけるよう頑張ります。来年の春以降も応援よろしく願いいたします。

背番号 20 田島悠雅(たじま ゆうか)

岐阜県 大垣南高校 2年



まず初めに、この一年間チームを引っ張ってくださった4年生の先輩方に心から感謝申し上げます。厳しい場面でも背中でご示してくださり、練習の姿勢から試合での立ち振る舞いまで、多くのことを学ばせていただきました。先輩方が築いてくださった土台があったからこそ、今季の“リーグ優勝・入れ替え戦勝利・2部昇格”という最高の結果につながったと思っています。本当にありがとうございました。

今季のリーグ戦は、チーム全員が明確に「2部へ行く」という思いを持って戦い続け、念願のリーグ優勝、そして入れ替え戦でもしっかり勝ち切ることができました。ここ数年間の悔しさを知っているからこそ、勝った瞬間には言葉では表せない嬉しさがありました。

個人としては主にピッチャーとしてマウンドに立たせていただき、大事な場面でしっかり抑えることができた試合もありました。

しかし一方で、2部で戦うにはまだまだ足りない部分が多いと痛感したシーズンでもありました。投球の安定感、インニングの作り方、ランナーが出た場面での細かい部分など、課題ははっきりしています。

「抑えた試合があったから良かった」ではなく、「どんな場面でも任せられる投手」になるための準備がまだまだ必要だと感じています。

そしてこれは自分自身だけでなく、2部で通用するためにはチーム全員が意識をもう一段上げる必要があります。

1球の重みも、1つのミスの重さも、今までとは比べものになりません。練習の取り組み、体づくり、試合への準備、すべての基準を“2部基準”に合わせなければ、昇格してもすぐ落とされてしまいます。

この春からは「昇格したチーム」ではなく、「2部で勝ちに行くチーム」として行動していかなければならないと思っています。

最後になりますが、日頃から支えてくださるOB・OGの皆様、監督、マネージャーの方々、そして球場で応援して下さる全ての方々に心より感謝申し上げます。2部という新しい舞台でも、南山大学硬式野球部らしい全員野球で勝利をつかみ取りたいと思います。これからもご声援のほどよろしく願いいたします。

背番号 26 西田汰生(にしたたいせい)

愛知県 尾北高校 2年



この秋季リーグ戦において、私たち硬式野球部は3部リーグで全勝を達成し、見事優勝することができました。春から積み上げてきた練習の成果が随所に表れ、チーム全体が同じ方向を向いて戦い抜いたシーズンでした。苦しい場面でも声を掛け合い、最後まで粘り強くプレーする姿勢は、これまで取り組んできた基礎力の向上や、仲間同士の信頼関係が深まったことの証だと感じています。

3部優勝を受けて挑むことになった2部リーグ最下位チームとの入れ替え戦では、プレッシャーのかかる中で全員が持てる力を発揮しました。初戦は序盤から打線が爆発し、チャンスの場面で確実に得点を重ねました。同時に投手陣も本来の投球を取り戻し、相手に流れを渡さず圧倒する形で勝利を収めることができました。チームとして理想的な勝ち方ができた試合であり、これまでの努力が強く実感できる内容でした。

第2戦は一転して、序盤から相手のベースで試合が進み、前半はリードを許す苦しい展開となりました。しかし、誰一人として諦めることなく、後半にかけて少しずつ流れを引き寄せ、1点ずつ着実に返していきました。焦らず、自分たちの野球を貫きながら粘り強く戦い、終盤で同点に追いつくことができました。試合はそのまま延長戦に突入しましたが、ここでも全員が集中力を切らさず、最後は勝負どころで力を発揮して勝ち切ることができました。この試合は、技術だけでなくメンタル面の成長を強く感じさせるものとなりました。

2連勝で入れ替え戦を制し、念願の2部リーグ昇格を達成できたことは、日々の積み重ねが確実に力になっていることを示してくれました。しかし、昇格は通過点に過ぎません。2部リーグではこれまで以上に厳しい戦いが続きますが、自分たちの野球を

さらに高いレベルで体現できるよう、気を引き締めて取り組んでいく必要があります。

来季に向けて、私自身もより一層成長し、チームに貢献できる選手を目指して努力を続けていきます。今回得た経験や自信を糧に、2部リーグで堂々と戦えるチームとして、これからも全力で挑戦し続けていきたいと思っています。

背番号 28 辻葵斗(つじあおと)

岐阜県 帝京大学可児高校 2年



秋季リーグ戦、入れ替え戦、本当にお疲れ様でした。

私が入部以来の大きな目標の一つとして掲げてきた「2部リーグ昇格」を、この度、見事に達成することができました。これは、部員一人ひとりの努力と、支えてくださった全ての方々の熱い思いが実を結んだ、まさに歴史的な快挙です。24年という長い時を経て、再び二部の舞台に立つ権利を勝ち取ったこと、本当に嬉しく思います。

春季リーグ戦では三部優勝を果たしながらも、入れ替え戦で敗れ、悔しい思いをしました。それをバネに、チームは「必ずこの秋に昇格を果たす」という強い決意を持ってシーズンに臨みました。

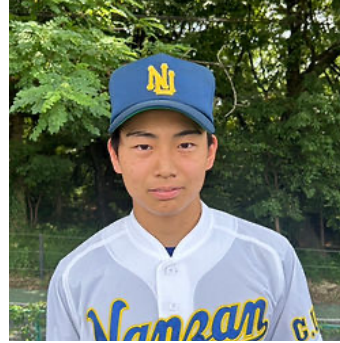
全勝優勝を飾った秋季リーグ戦ですが、大同大学戦、名古屋工業大学戦は僅か1点差という痺れる試合でした。接戦を勝ち切れた要因は、最後まで集中力を切らさず、投手を中心としてチーム全員で粘り強く守りきれたことだと思います。苦しい試合を勝ち切ることで、チームは大きく成長できたと思います。

入れ替え戦第1戦目は、序盤から打線が爆発し、相手投手を打ち崩し、22-4で勝利しました。大量得点を奪い、初回から一気に流れを掴み、大差をつけての勝利となりました。この勢いのまま、第2戦目も勝利し、2部リーグ昇格を決定づけました。

この昇格はゴールではなく、新たなスタートラインです。そして、この歴史的な昇格を果たしたチームで、来シーズンより私が主将を務めさせていただくことになりました。この重責に身が引き締まる思いです。2部リーグではこれまで以上に厳しい戦いが待っています。チーム全員が同じ方向を向いて、勝利を目指していきます。主将として、そして1選手として、チームを牽引し、2部の舞台でも存在感を発揮できるよう努力を続けます。来シーズン、2部リーグという新たな舞台で、チーム一丸となって躍動する姿にご期待ください。引き続き、熱いご声援をよろしくお願いいたします。

背番号 48 吉橋礼貴(よしはしあやき)

愛知県 安城高校 2年



秋のリーグ戦、入れ替え戦、オープン戦、お疲れさまでした。春リーグでは目標としていた昇格戦に進むことができず、とても悔しい結果となりました。また新人戦では名古屋経済大学に逆転負けを喫し、力の差や勝負どころでの弱さを痛感する大会となりました。

しかし、その悔しさを糧にチーム全体で「2部昇格」を最大の目標として取り組んだ結果、秋のリーグ戦では念願の2部昇格を達成することができました。さらに、春に敗れた名古屋産業大学に対し、秋リーグでリベンジを果たせたことは、チームとしても自分個人としても大きな自信となりました。

大学野球は高校野球とは雰囲気も求められるものも異なり、先輩方の姿から多くの刺激を受けました。今年度は1年生の人数も多く、互いに競い合える環境が揃っているため、自分も先輩や同期に負けたくないよう努力を重ねていきたいと思っています。今後は、2部で戦うために必要な実力を身につけ、より一層チームに貢献できる選手を目指します。

また、学生主体で運営される野球は、自分たちで考えて行動できる楽しさがある一方、チームのまとまりやモチベーション維持の難しさもあります。だからこそ、現在中心となって引っ張ってくれている3年生を支えながら、自分自身も主体的に動き、チー

ムを前向きに導ける存在になりたいと感じています。

南山大学野球部は他大学と比べて練習時間が短い分、限られた時間の中でどれだけ質を高められるかが求められます。野手として、先輩や同期から積極的にアドバイスを受けて良い部分を吸収し、自分の成長につなげていきたいと思っています。

最後に、2部昇格に満足することなく、さらに上のレベルを目指して、個人としてもチームとしても努力を続けていきます。

背番号 51 平原大地(ひらばら だいち)
三重県 海星高校 2年



まず、今年の秋リーグは野球部にとっても、大学にとっても大きく変わったシーズンになったと思います。それは24年振りの2部リーグ昇格を含め大きく変わった秋だったからです。2部というステージを目指し練習や試合を行ってきた今まででしたが、その目標を無事達成し来季春からは2部という目指したステージでリーグ戦を行えるというのは、とても期待と楽しみがあります。自分自身試合に直接関係したことはしていませんが、控えても2部でやってみたいという気持ちはみんなと変わりませんので、次の春までには力をつけ、少しでもチームの戦力になれるよう精進していきたいと考えていま

す。そして、さらには、次の春からは自分たちの代となる、新チーム体制での部になります。つまり、この歴史的な昇格を果たし、昇格後のシーズンは新チームでの戦いということになります。ここも大きいところだなと自分の中では感じました。この目標達成後の動きや結果は自分たち自身で決めていくことになります。昇格に貢献してくださった先輩方、これまでお世話になり引退された4年生方のためにも、結果はもちろん大事で2部残留、それ以上の結果も残したいですが、まずは全力プレー、そして、南山ならではの試合中の明るい雰囲気、こうしたできることをしっかりとやり、悔いのない恥のないプレー、試合で先輩方に恩返し、そして後輩たちに託すという思いで取り組んでいきたいと思っています。そのためには、これからの練習の姿勢がとても大事になってくるかなと思っています。どちらかという、そんなにきつい練習や厳しい指導を行うことの少ないチームであり、さらにその中に仲の良さを兼ね備えた僕たちだと自分は思っています。きつい練習や厳しい指導のもとで高校までを過ごした僕が思うのは、それがなにも正しいことではないと感じています。そういうのがないからこそ、少ない練習の中で何を意識し取り進むのか、さらには自主練習を各自で行い、とてもモチベーションの高い状態を常にみんなが保っているのがこのチームの良さであると思います。そこに変なライバル意識もなく、とにかくチームワークの良いチームで、純粋な気持ちで試合に臨み、全力で応援、フォローをする。こういったところが2部というステージで戦う3部昇格組南山大学の新しい旋風を起こせることを僕は願っています。

背番号 19 水野日向(みずのひゅうが)

岐阜県 多治見高校 2年生



秋季リーグ戦、入れ替え戦、お疲れ様でした。そして、お忙しい中球場まで足を運んで頂いた OB、OG、父兄の皆様、応援ありがとうございました。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

今回の秋季リーグでは、チームとしては他の大学を圧倒して、3部リーグ優勝し入れ替え戦も勝ち抜いたことに嬉しさ反面、私自身には悔しい気持ちがありました。

今回の秋季リーグで私は2戦目の名古屋市立大学戦で出番を与えてもらいましたが、不甲斐ない2回途中降板という結果に終わってしまいました。その後出番がなく、そのままリーグ戦を終えてしまったことがとても悔しかったです。春季リーグの後、突然球速が低下して思ったようにピッチングできなくなり、上南戦、新人戦に出場することができませんでした。現状を変えたいと思い、様々なトレーニングをして

フォームの改善に力を入れました。その結果、秋季リーグの前には球速が戻り、ある程度は思ったように投げられるようになり自信が戻りつつありました。しかし、リーグ戦で不甲斐ない結果に終わり、悔しくてたまらなく、同級生の活躍に対する嫉妬心から、しばらく野球に対する気持ちが上がらない状態でした。

そんなとき、2部リーグ昇格したことより、ここで腐ってはいられないと思い、来年こそやってみようという気持ちになりました。よく球速が低下する原因は肩周りの筋力の低さ、体幹の弱さ、胸郭周りの可動域が狭いなどかあります。これから長いオフシーズンに入り、夏ほど投げる機会がありません。その間に先程あげた課題を一つずつクリアしていきたいです。また、来年は結果に対して一喜一憂しないことを目標にしてがんばっていききたいです。

背番号 60 松谷将太郎(まつたに しょうたろう)
大阪府 寝屋川 2年



まずは、秋季リーグ戦お疲れ様でした。長い期間にわたり、チーム全員がそれぞれの立場で全力を尽くし、最後まで戦い抜いたこのリーグ戦は、多くの学びと課題を与えてくれる貴重な機会となりました。応援して下さった方々や支えて下さった方々への感謝はもちろんですが、何より選手一人ひとりが積み上げてきた努力と、その努力がチームとして結びついた時間の重みを改めて感じたシーズンでした。

しかし、その中で自分自身を振り返ると、思うように

チームの力になれなかったという悔しさが強く残っています。日々の練習や試合の場面で、自分の持っている力を十分に発揮できなかった場面が何度もあり、そのたびに自分の未熟さを痛感しました。周りの仲間が必死に戦っている姿を見ながら、自分をもっとできたのではないか、もっとチームのために動けたのではないか、そう考える瞬間が多くありました。その悔しさは、試合が終わった今も胸の中に大きく残っています。



だからこそ、この悔しさを絶対に無駄にせず、次につなげていきたいと思っています。これから迎える冬の期間は、自分自身を大きく成長させるための大切な時間です。技術面の向上はもちろん、体力・筋力の強化、メンタル面の安定、プレーの選択肢と判断力、すべてを見直し、積み重ねていく必要があります。同時に、春のリーグ戦でチームとしてより強くまとまっていけるよう、練習の中から積極的に声を出し、雰囲気づくりにも貢献していきたいと考えています。

春のリーグ戦では、今回の反省を生かし、少しでも多くの勝利に貢献できる選手へと成長した姿を見せたいです。チームが勝つために何ができるのかを常に自分に問いかけながら、一つひとつの練習に意味を持って取り組み、仲間とともに高い目標に向かって歩んでいきたいと思っています。悔しさはまだ胸の奥に残っていますが、その悔しさを力に変えて努力を続ければ、必ず自分の成長につながり、チームの力にもなると信じています。

秋季リーグ戦で得た経験を糧に、冬、そして春へ。次こそは胸を張って戦い抜いたと言えるように、これからも精一杯努力していきます。

背番号 64 新美禅(にいみせん)

愛知県 愛知高校 2年

秋季リーグ戦、そして入替戦を通し、多大なるご支援と温かいご声援をいただき誠にありがとうございました。この秋、私たちは三部リーグ優勝を果たし、念願であった二部昇格を達成することができました。ここまで支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

春季リーグでは三位という悔しい結果に終わり、チームとしてまだまだ足りないところが多いと痛感しました。打撃では勝負どころでの一本が出ず、守備でも流れを断ち切れない場面が多く、力不足を強く感じました。入替戦に出ることすら叶わなかった春の経験は、チームとして大きな後悔となり、同時に「秋こそ絶対に昇格する」という強い覚悟を持つきっかけになりました。

夏の1ヶ月間は、これまでの野球人生の中でもとても濃い時間でした。特に、打撃面では状況判断の精度と打席の再現性を高めることを目標にしました。

その積み重ねが、秋季リーグでの自信につながりました。投手陣が粘り強く試合作ってくれた中、野手陣はとれるアウトを確実に取り、攻撃では小さなチャンスを逃さず得点につなげることができました。春には足りなかった「あと一步」を全員で埋めることができたと感じています。入替戦では相手のレベルが高い中でも、自分たちの野球を貫き、最後のアウトを取った瞬間、これまで積み重ねてきた努力が報われたと思いました。

しかし、ここから戦う二部リーグはこれまで以上に厳しい舞台です。個人としての技術・体力・思考、すべての面でさらに成長する必要があります。秋の成功に満足せず、これからもプレーの質を上げ、チームの勝利に貢献できる選手であり続けたいと思います。

最後になりますが、いつも温かい声援を送ってくださるOB・OGの皆さま、保護者の皆さま、関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。二部の舞台でも胸を張って戦えるよう、そして後輩たちに良い姿を示せるよう、これからも全力で取り組んでいきます。今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

背番号 73 松宮潤弥(まつみやしゅんや)

愛知県 愛知高校 2年



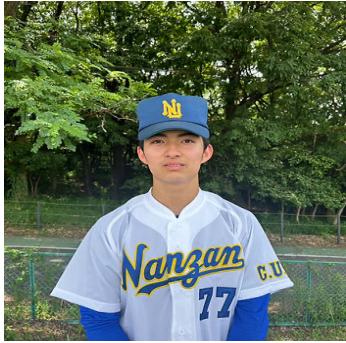
秋リーグ、そして入れ替え戦お疲れ様でした。今リーグではチーム一人ひとりが粘り強く戦い抜き、まず3部リーグで優勝することができました。さらに入れ替え戦でも落ち着いた試合運びで勝利し、数十年ぶりとなる2部リーグ昇格を果たすことができました。長い間の目標であった昇格を、今年のチームとして成し遂げられたことは本当に大きな成果だと思います。

リーグ全体を振り返ると、投手陣が安定感のあるピッチングを見せ、野手も要所で守り切る場面が多く、接戦を勝ち切れるチームになっていたと感じました。また、春と比べてチームの雰囲気はさらに良くなり、ベンチからの声が試合の流れを呼び込むことも多かったと思います。一方で、攻撃の中でチャンスを取り切れない場面や、細かい守備の連携ミスが出る試合もあり、2部で戦うにはこうした部分の修正が必要だと感じました。個人としては、今リーグでは途中からの守備固めとして起用される場面が多く、自分の役割をしっかりと果たすことを意識してプレーしました。大きなミスなく守備の締めを任せてもらったのは良かったと思います。また、打撃でも自分なりに工夫しながら内容を良くしていくことができ、少しはチームに貢献できたのではないかと感じています。ただし、2部では1つのプレーの質が今以上に求められるため、守備・打撃ともにもっとレベルを高めていく必要があると強く思いました。

来年からはよいよ2部リーグでの戦いが始まります。専用のグラウンドもなく、限られた時間で練習している私たちにとっては、今まで以上に効率の良い練習を積み重ねることが欠かせません。また、2部のレベルは3部とは大きく違い、相手の投手力や打力も高くなるので、チーム全体でさらに力をつけなければ戦い抜くことはできないと思います。個人としても守備固めだけでなく、攻撃面でもより安定した結果を残し、信頼される選手になれるよう努力していきたいです。2部という新しい環境でも、チーム一丸となってしっかり戦っていけるよう準備していきたいと思います。

背番号 77 殿内仁之亮(とのうち じんのすけ)

三重県 宇治山田商業高校 2年



秋季リーグ戦お疲れ様でした。まずは入れ替え戦を含め、会場まで足を運んで応援して下さったOBの皆さま、日頃から支えていただいている多くの方々に心より感謝申し上げます。皆さまの温かい声援は、選手一人ひとりにとって本当に大きな力となりました。チームとして迎えた今季の秋季リーグは、3部リーグ優勝、そして念願の2部昇格という最高の結果を収めることができました。厳しい試合も多く、特に接戦をいかにしてものにするかが問われる場面が何度もありましたが、チーム全員が勝利のために集中を切らさず、最後まで粘り強く戦い抜いたことがこの結果につながったと感じています。今季はピッチャー陣の活躍が非常に印象的でした。それぞれが自分の役割をしっかりと果たし、苦しい局面でも粘り強く投げ続けてくれたおかげで、チーム全体が落ち着いて戦うことができました。また、野手陣もここぞという場面で大きな一打を放つなど、頼もしさを感じるシーンが多くありました。攻守ともにバランスのとれた試合運びができたことが、チーム力の向上を物語っていると思います。そして何より、チームの雰囲気が非常に良かったことを強く実感しました。練習中から互いに声を掛け合い、試合ではベンチも含め全員が一丸となって戦う姿勢があったからこそ、今回の優勝と昇格をつかみ取れたのだと思います。この雰囲気を来季以降も大切にし、さらに強いチームを目指していきたいです。個人として振り返ると、今季は思うように試合に出場する機会が多くありませんでした。その悔しさもありますが、

同時に自分の課題を見つめ直す良い機会にもなりました。これからの練習では、一つずつ課題と向き合い、来季こそチームの勝利に直接貢献できる選手になれるよう努力していきたいと思います。

背番号 99 小野朗(おの あきら)

愛知県 天白高校 2年



秋季リーグ、入れ替え戦お疲れ様でした。目標として掲げてきた「二部リーグ昇格」を24年ぶりに達成することができました。この歴史的な昇格に関わることができ、自分もとても嬉しく思います。チームとして掲げてきた目標を達成できたことは、とても大きなことであり、よりチームが成長したことを感じる瞬間だと思いません。

今季の試合は、僅差で勝つ試合が多く、非常に苦しい場面も多々ありました。しかし、そのような場面でも勝ち切ることができたのは、一人ひとりの練習の成果が表

れたと思います。また、入れ替え戦では、一試合目は打線が繋がりに、大量得点で勝つたのですが、二試合目は去年の入れ替え戦と同じように、苦しい展開でした。しかし、選手全員は諦めておらず、「勝利」という一つの目標に全員が向かうことができ、勝利することができたと思います。

一方で、個人的には多くの課題を突きつけられたシーズンでもありました。技術面では、結果が出た試合がある一方で、自分の弱点を突かれ思うようにチームに貢献できない場面もありました。リーグを通して相手のレベルが上がるほど、自分の甘さがはっきりと見えてくる感覚がありました。調子が良いとき悪い時の差が多く、状況判断や試合の流れを読む力など、単なる技術以外の部分でも改善すべき点が明確になり、この昇格が「満足して終わるものではない」と自覚させられました。むしろ、この課題に向き合い克服することが、二部リーグで戦い抜くための最低条件だと感じています。

24年ぶりの二部昇格は大きな誇りであり、自信につながる出来事です。しかし、それは同時に、さらなる挑戦の始まりでもあります。来季は、より高いレベルの中で自分たちがどれだけ通用するかが問われます。今季の成果に満足することなく、一人ひとりが課題と向き合い、さらに成長した姿で次のシーズンに臨みたいと考えています。

最後になりますが、今季も多くのご声援・ご支援をいただき、誠にありがとうございました。二部リーグの舞台でも胸を張って戦えるよう、これからも精進してまいります。

マネージャー 高木花奏(たかきかなで)

愛知県 旭野高校 2年



まずは秋季リーグ本当にお疲れ様でした。そして日頃より、横江コーチをはじめ、OB・OG、南山大学硬式野球部の関係者の皆様からの暖かいご支援、ご声援を賜わりました心から感謝申し上げます。南山大学硬式野球部は二部昇格を目指し日々練習に励んできました。今回の秋季リーグでは一試合も負けることなく入れ替え戦に臨むことができました。春の入れ替え戦では接戦だったものの惜しくも二部に昇格することはできませんでした。しかし秋の入れ替え戦では選手たちが多くのヒットを打ち、最後まで粘り強く頑張った結果、念願の二部昇格を果たすことが出来ました。このような二部昇格という素晴らしい機会に立ち会うことができ、選手みんなが喜ぶ姿を見ることが出来たことがとても嬉しかったです。またこのような光景に立ち会い、努力を継続することの大切さ、そしてマネージャーとして選手を支えることのやりがいを強く感じました。このような代にマネージャーとして携われたことをとても誇りに思います。また私事ではありますが、留学に行くためこれからマネージャーとして携わることが難しくなってしまいます。このような大事な時期に、後輩のマネージャーの2人に多くの仕事を任せることになってしまうことにとっても申し訳なさを感じています。しかし後輩マネージャーの2人はいつもマネージャーの仕事を責任をもってこなしてくれているので、二人なら任せられると感じています。留学中にできることは沢山あると思うので、なるべく野球部に残るマネージャーの負担を減らせるように出来る限りの

ことをして野球部のために貢献をしていきたいです。そして日本に戻ってきた時は他のマネージャーに負担をかけてしまった分、マネージャーの仕事をしっかりやり遂げたいです。これからも南山大学硬式野球部がさらに飛躍できるよう、遠くからではありますが心から応援しています。改めて本当にお疲れ様でした。そして二部昇格、本当におめでとうございます。引き続き応援のほどよろしく願いいたします。

23 井戸塚巳 いどたくみ

岐阜県 美濃加茂高校 1年



南山大学硬式野球部は秋の三部リーグ戦で優勝、入れ替え戦で2部昇格を目指し、取り組んできました。練習は水曜と金曜という少ない時間のみでしか行われませんが、その分、濃い練習をめざして取り組んできました。そして、夏休みという授業ある日に比べたら野球できる期間も通し、個々のレベルアップにもよく努めれたと思います。練習試合もたくさん行われたことで、1人の1人の試合観もつき、チームとしての底上げになってきたと思います。その結果、チームとしての目標も達成し、2部に昇格することが出来ました。春のリーグ戦の際は入れ替え戦で名古屋産業大学さんにまけて、そこから今

回の入れ替え戦も同じ大学相手に、負けることなく、勝ちれたということがとても成長出来たと感じました。特に二戦目は早い段階から劣勢が続き、負けてしまうような雰囲気もありましたが、誰もが諦めることなく、最終回まで食らいついて行った結果勝利に繋がったのでとても良かったと思います。

個人としては春のリーグでは少ししか出させて貰えず悔しい思いをしたため、秋は何とか自分も主力となってチームを勝利に導きたいと思っていたのですが、夏休みに脱臼をし、骨にヒビが入ってしまい、野球することが出来なくなってしまいました。とても悔しいシーズンでした。今まであまり怪我したことがない分、怪我をする前の自分の行動への必要性をよく感じることも出来ました。

今後の目標としては南山大学硬式野球部にとって久しぶりの2部となるので、まずは残留をめざして、少しでも高い順位を狙っていけたらと思います。また、個人としてもこれからは自分も試合に出て活躍できるようにまた一から頑張りたいと思います。今回は補助に回ってチームとしては大切な役目ですが、自分としてはとても悔しかったので、自分もプレイヤーとしてグラウンドに立てるように頑張りたいと思います。次のリーグ戦までまだ時間があるので、準備を怠らずしていきたいです。

21 吉岡 聖哉 よしおか せいや

京都府 日星高校 1年



今季、私たち野球部は念願であった 三部リーグ優勝を成し遂げることができました。春の段階では思うように結果が出ず、チームとしてのまとまりにも課題が残っていましたが、夏の合宿を経て一人ひとりが役割を再確認し、全員が「勝つために何ができるか」を強く意識したことで、チーム全体の雰囲気が大きく変わりました。特に守備面では連携が格段に向上し、僅差の試合でも粘り強く守り続けることで勝ち切る力が身についたと感じています。

リーグ戦では開幕から厳しい試合が続きましたが、どの試合でもベンチを含めた全員が声を出し合い、最後まで集中を切らさずに戦い抜きました。打線も後半にかけて調子を上げ、下位からのチャンスメイクや粘り強い打席が増えたことで、流れを引き寄せる場面が多くなりました。特に最終戦での逆転勝利は、チーム全員が積み上げてきた努力の象徴であり、三部リーグ優勝を決定づけた忘れられない一戦となりました。

また、この優勝は選手だけでなく、日頃から支えてくださった指導者の先生方、応援に駆けつけてくださった保護者・OBの皆さま、そして練習環境を整えてくださ

る多くの方々の支えがあってこそ実現したものです。心より感謝申し上げます。

今後は二部リーグでの戦いに向け、さらにレベルアップが求められます。守備の細かな連携や投手陣の安定感、そして打線の破壊力を高めるため、日々の練習をより質の高いものにしていく必要があります。優勝に満足することなく、より高い舞台でも戦えるチームを目指して努力を続けていきます。

24 近藤 憲清 こんどう けんせい

岐阜県 岐山高校 1年



秋季リーグならびに入れ替え戦お疲れ様でした。そして、応援していただいた多くの皆様に感謝申し上げます。秋季リーグは春季リーグと同様優勝することができました。また、入れ替え戦では前回敗戦を喫した名古屋産業大学に挑み、見事に勝利し2部リーグ昇格を果たしました。

私は今季、ベンチに入ることはできませんでしたが、グラウンドの外から見ていたからこそ学べたことができました。自分が出られない悔しさはありますが、それ以上に、2部リーグ昇格を目指しチーム全員が一丸となっ

てこの大会に臨み、目標を達成できたことに喜びを感じています。

リーグ戦では、1点を争う試合が多く、一人ひとりの集中力と一球に対する気持ちが表れていました。何度も追いつかれたり、苦しい状況になったりしましたが、限りのあるチャンスをものにする打撃、ピンチの場面での気迫のあるファインプレーがチームの士気を高め、勝利につながったと思います。

入れ替え戦では、リーグ戦以上に緊張に包まれていました。初戦は相手のミスなどもあり、大差で勝つことができましたが、前回の入れ替え戦では同じ状況から2連敗を喫して3部残留となったために安心することはできませんでした。2回戦は名古屋産業大学がリードする展開で進んでいきましたが、1点ずつ返し、タイブレークで勝ち切り、2部リーグ昇格を果たしました。嬉しいという気持ちがある反面、次は私もグラウンドに立ちたいと改めて思いました。

今回、試合に出られなかったのは自分の実力不足なので、来年こそは戦力になりチームの勝利に貢献したいと思います。そのために、このオフシーズンで自分の課題を克服し、長所を伸ばし、体力・技術ともに向上させていきたいです。そして、どのような場面でも信頼されるような選手を目指していきます。

最後に、日頃から応援してくださっている方々に感謝し、先輩方が勝ち取ってくださった2部リーグという場所を守り抜き、さらなる高みを目指していきたいと思えます。

32 藤井 楽 ふじい がく

岐阜県 大垣日大高校1年



秋季リーグお疲れ様でした。秋季リーグでは全勝をし、リーグ優勝を果たすことができました。また入れ替え戦でも勝利を掴むことができチーム目標である「2部リーグ昇格」を達成することができ、最高なかたちでリーグ戦を終えることができました。先輩方の力あふれるプレーを見て感銘を受け、私も先輩方の実力にちかづけるよう努力したいと思いました。数名の先輩方は引退され、新チームとして活動が始まります。先輩方が受け継いでこられた南山大学野球部の伝統や誇りを次は私たちが責任を持って受け継ぎ更に栄えあるものとしていきたいです。

個人としては、まだまだ実力が足りなくチームの戦力になれていないのが現実です。秋季リーグが終わり冬の期間はチーム全体での活動は少なくなります。この期間の自主練習を通してまずは野球をし続けていくための体づくり、体力トレーニングが今私にとって必要なことだと考えています。みんながサボりがちな期間だからこそチャンスだと思って必死になって努力し、春期リーグをいいかたちで迎えられる状態をつくっていきたいです。2部リーグに昇格したことはとても嬉しいことですが、その反面2部リーグで戦っていけるのかという不安や怖さがあります。3部リーグと違って2部リーグに所属する大学の選手達はフィジカルであったりブレースキルは別格であると入れ替え戦を通じて感じました。2部リーグで勝ち上がっていくためにはチームワークはもちろん個々の実力が必要であると思います。そのためには日々の練習が大事になってくるのですが、あまり全体で集ま

って練習する時間を多く確保できないのが現状です。よって練習の質が求められたり、自主練習が重要になります。サークルではなく部活として野球をしている以上、自覚を持って野球にうちこみチームの戦力となれるよう精進したいです。また、日頃から支えてくださる監督、OBの皆様、マネージャーそして両親に感謝の気持ちを持って楽しく野球をプレーしていきたいです。

33 渡辺 集 わたなべ つどい

愛知県 刈谷高校 1年



秋季リーグ戦、お疲れ様でした。また、平素より南山大学硬式野球部をご支援くださる皆様に感謝申し上げます。

今回のリーグ戦は3部リーグ優勝、そして2部リーグ昇格と、現段階で考えられる最高の結果となったと思います。自分自身は何度も試合に出られたわけではないのですが、入替戦での昇格を決めたサヨナラ勝利の瞬間をベンチの中から見られたことは本当に嬉しかったです。さらに、勝利した相手も前回のリーグ入替戦では敗れた相手であったこともあり、前回よりも強いチームになったということを実感することができてよかったです。

自分は、春季リーグ戦は会場へ行ってボールボーイなどをしながら試合を見ることが多かったのですが、秋季リーグ戦からベンチに入りチームに携わる機会が増えてきて、少しだけでも勝利に貢献したいという気持ち

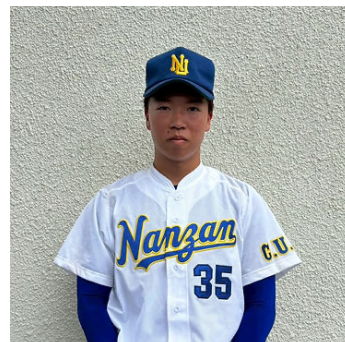
が出るようになってきました。そのため、ブルペン捕手など自分に任された仕事をしっかりとこなすことを心掛け、試合に臨みました。さらには入替戦一戦目に出場機会をいただき、少しの間ではありましたが投手をリードすることができました。久しぶりに緊張感のある中で野球ができて嬉しかったです。

新チームが始まってからは積極的に練習に参加し、オフシーズン前に予定されている練習試合に向けて頑張っています。今までは打席に立っても中々いい当たりが出なかったのですが、少しずつ木製バットの感覚にも慣れてきて自分の納得のいく打撃ができるようになってきました。しかしオフシーズンに入ると当然実戦練習はできなくなってしまうので、いい感覚でシーズンを終え、その感覚を残しておけるようにバットを振っていこうと思います。

オフシーズンはもちろんプライベートも充実させたいですが、来シーズンからは上のリーグで戦っていくということを忘れずに過ごしていこうと思います。引き続き応援よろしくお願いします。

35 佐々木 太郎 ささき たろう

岐阜県 帝京大可児高校 1年



まずは、夏の富山での合宿、そして秋のリーグ戦、さらに2部入れ替え戦まで、本当にお疲れ様でした。夏の

合宿では3泊4日という長いようで短い濃密な日々を過ごし、野球のスキルアップはもちろん、朝から晩まで同じ時間を共有することで、仲間との関係がより深く強いものになったと感じています。練習ではバットを振り込み、ノックを何度もこなし、その積み重ねが自信へとつながりました。

合宿中の対外試合では金沢大学と北陸大学と対戦し、チーム全体のまとまりや勢いを実感できる内容でした。この経験は、秋季リーグに向けた大きな手応えとなりました。自分自身も、バッティングフォームや意識の持ち方を先輩方や同級生から学ぶことができ、技術面だけでなく精神面でも成長できたと感じています。

そして迎えた秋のリーグ戦では、見事に全勝という素晴らしい結果で終わることができました。どんな相手にも負けずに勝ちきることは簡単ではなく、この成績はチームにとって非常に誇らしいものだと思います。自分もベンチに入り、代打として出場する機会をいただき、大きな緊張と同時にやりがいを感じました。先輩たちと同じ舞台上に立てたことは貴重な経験であり、今後必ず活かしていきたいと強く思いました。

入れ替え戦では名古屋産業大学との試合において先に2勝を挙げ、念願の2部昇格を決めました。秋季リーグ、そして入れ替え戦で必死に戦う先輩たちの姿を見て、自分ももっと力をつけ、チームに貢献できる存在になりたいという思いが一層強まりました。

これから冬に入り、春からは2部でのリーグ戦が始まります。2部の大学は3部とは雰囲気もレベルも大きく違うと思います。その環境に対応し勝ちきるためには、この冬の期間の過ごし方がとても重要です。寒さによってボールを使った練習の機会は減ってしまうかもしれませんが、身体を動かすことはできます。衰えるのではなく、むしろステップアップできるよう、自分たちで工夫しながら取り組んでいきたいです。

そして春のリーグ戦では、2部という新しい舞台で自分がスタメンとして出場し、チームにしっかり貢献できる選手になることが目標です。これからも野球部で過ごす時間を大切にし、一日一日を無駄にしないよう努力していきたいと思います。

41 加藤 健心 かとう けんしん

愛知県 愛知高校 1年



秋のリーグ戦、本当にお疲れ様でした。長い間チームの目標として掲げてきた2部昇格をついに達成でき、光栄に思います。昇格直後は実感が湧かない日々が続いていましたが、この1ヶ月でようやく来春のリーグ戦に向けた覚悟が固まりました。

昇格までの道のりは、決して順風満帆ではありませんでした。リーグ戦4戦目の大同大学戦では、7回終了時点でピハインドを背負い、勢いのある相手打線に押される苦しい展開でした。しかし、8回に先輩方2人の本塁打で逆転することができ、逆境でも最後まで粘り強く戦うことの大切さを改めて学んだ試合でした。

6戦目の名古屋工業大学戦では、先輩方の勝利への執念を強く感じました。守備では再三の好守と必死の継投でピンチを何度も切り抜け、緊迫したスコアレスの9回には、ヘッドスライディングで内野安打をもぎ取り、それ

が決勝点となりました。「この先輩方と絶対に2部昇格を決めたい」と心から思った一戦でした。

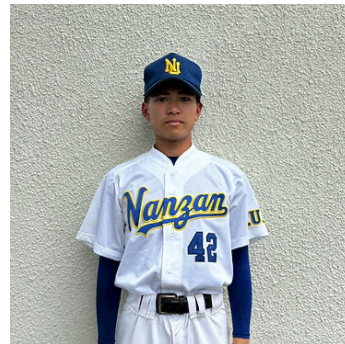
そして、リーグ優勝を果たして臨んだ入れ替え戦では、2試合とも自分たちの力を存分に発揮することができました。1戦目は自慢の打力で大勝し、2戦目は最大4点差を追いついての逆転勝利と、まさに南山らしさが詰まった内容でした。特に2戦目は、7回まで1年生投手陣でつないでチームに貢献でき、切磋琢磨してきた同学年で勝利に関われたことが本当に嬉しかったです。これからも互いに高め合い、学年としての力をより強くしていきたいです。

さて、来春からは3部より走攻守すべてのレベルが上がる2部リーグでの戦いが始まります。特有の緊張感やスピード感に飲まれることなく、堂々とプレーすることが求められます。まずは「自分たちは2部のチームである」という自覚を持って、練習やオープン戦に臨みたいと思います。また、オフシーズンは2部の打者に通用する力と技術を磨く期間として、トレーニングに励むつもりです。自分の力がどれほど通用するのか、とても楽しみです。

先輩方が見つないでくださった2部リーグでのチャンスを存分に楽しみ、そして決して3部に戻ることなく、最後まで戦い抜きたいと思います。

42 齋藤 旺介 さいとう おうすけ

愛知県 刈谷高校 1年



秋季リーグ戦等シーズン後半戦、お疲れ様でした。はじめに、リーグ戦の運営等にご尽力いただいた皆様、ご家族の皆様、OB・OGの方々に心より感謝申し上げます。これからも南山大学硬式野球部の活動へのご理解とご支援の程、よろしくお願い致します。

秋季リーグ戦では優勝し入替戦に挑んだ結果、2連勝で2部リーグ昇格を決めることができました。長い歴史のある南山大学硬式野球部で結果を残し、チームに貢献できたことを誇らしく思っております。ただ、いい結果で終われたとしても来シーズン戦う相手は2部リーグのチームなので一筋縄ではいきません。今シーズンで見えた課題をチーム全員で認識し、来シーズンにむけて万全な準備をしていき、後悔のない闘い方ができたと言えるシーズンにします。

私は1回生という立場でありながら、様々な舞台を経験させて頂いたことに非常に感謝の気持ちでいっぱいです。特に入れ替え戦での名古屋産業大学様との試合では、2部リーグに所属しているチームの技術の高さを体感しつつ、自分の力を量ることができました。第2戦は今シーズンで最も反省の残る試合でした。四球と自身の失策で苦しみ、自らの未熟さを痛感する悔しい試合となりました。これは大事な試合という意識をしながら力を発揮する、精神力が試される場面でそれができなかった結果です。それにもかかわらず、仲間に使われたことで勝利を取ることができたので、自分の中で来シーズンは自分が助ける番だ、という強い思いが湧いてきました。その決意をここに表明し来シーズンにむけて適切な

準備をしていきます。

最後になりますが、多大なるご支援と温かい声援は、我々選手にとって大きな励みとなっています。雨の中球場に足を運んでくださる方や審判員の方々など、関係者の皆様に支えられていることに日々感謝しております。皆様の期待に応えられるよう、日々の練習から精進し、活動成果や試合結果で示すために全力で頑張りますので、今後とも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

43 市川陽登 いちかわはると

愛知県 栄徳高校 1年



今季の秋のリーグ戦と入れ替え戦を振り返ると、チーム全体として多くの収穫と同時に課題が明確になったシーズンだったと感じる。まず、秋のリーグ戦では、各選手が夏のトレーニング成果を発揮し、試合運びの安定感や連携面で一定の成長が見られた。とくに、試合序盤から主導権を握る展開が増え、攻守の切り替えの速さや集中力の持続といった部分は春や夏と比べても確実に向上していた。一方で、勝負どころでの判断の遅れや、終盤にかけての運動量の落ち込みなど、細かな綻びが結果に直結する場面もあり、チームとしての“あと一步”の詰め甘さが浮き彫りになったのも事実である。しかしリー

グ戦ではほぼ無敗で勝ち上がるなど3部で圧倒的な勝利を掴むことができた。

入れ替え戦については、通常のリーグ戦とは異なる緊張感のなかでプレーしなければならず、精神的なタフさが問われる試合となった。チーム全体は最後まで粘り強く戦い抜き、準備してきた戦術を実行しようとする姿勢は強く感じられた。特に打者の先輩方が根気強くせめて地道に点を入れることができたおかげで投手に余裕を作ることができた。しかし、プレッシャーがかかった状況下では、判断や動きに迷いが生まれる場面も見られ、精神面の強度や勝負経験の差が結果に影響した部分も否めない。こうした経験は悔しさが残る一方で、2部リーグに上がることができたのはこれまでにない喜びだ。この経験は今後の成長に向けて大きな財産になるとも感じている。

自分自身について振り返ると、秋のリーグ戦ではコンディションの維持や試合への意識づけにおいて以前より進歩した一方、肩の怪我でチームに貢献できていなかった。自分の持ち味を十分に発揮できなかった。技術面だけでなく、どんな状況でも怪我をしないことの必要性を痛感したシーズンだった。

春リーグに向けては、この経験が無駄にせず、個人としてもチームとしてもさらにレベルアップする覚悟で臨みたい。具体的には、課題となったフィジカル面の強化、そしてプレッシャーのかかる場面で自分を信じてプレーできるメンタルの構築に重点を置きたい。春リーグでは“勝ち切る力”を身につけた姿を示し、今回味わった悔しさを結果で晴らすことを目標に、日々の練習から全力で取り組んでいくつもりです。

46 野呂 天祐 のろ てんゆう

愛知県 名城大学附属高校 1年



秋季リーグお疲れ様でした。春季リーグ戦、新人戦、上南戦、そして秋季リーグ戦まで、多くの試合を経験し、学びの多い一年となりました。春季リーグ戦では3部リーグを優勝し、大きな成果を残すことができました。しかし、その後の入れ替え戦では名古屋産業大学を相手に1勝2敗で惜しくも2部昇格を逃し、勝ちきる力や試合運びの差を痛感しました。新人戦や上南戦でも悔しい結果が続き、守備の精度や集中力の継続といった課題が浮き彫りになりました。

私は高校まで野球を続け、大学では個人競技に挑戦するつもりでしたが、野球への思いを捨てきれず、5月に野球部へ入部しました。途中からの参加にも関わらず、先輩方や同級生が温かく迎えてくださり、初めて試合を観戦した際のチーム全体の前向きな姿勢に強く心を動かされました。限られた出場機会の中で三振という悔しい結果も経験しましたが、その悔しさが自分を成長させる原動力となりました。

そして今年、私たちは春の悔しさを胸に、チーム全員で「2部昇格」を目標に取り組んできました。その結果、秋の入れ替え戦では再び名古屋産業大学と対戦し、2戦2勝で念願の2部昇格を果たすことができました。努力してきたことが形となり、チームで掴んだ昇格は本当に嬉しく、野球部の一員として関わられたことに誇りを感じ

ています。しかし、ここがゴールではありません。3・4年生が抜ける来年は、戦力的に厳しい部分があるのも事実です。その中で自分がどれだけ力になれるかが問われます。12月と1月は全体練習がありませんが、時間を無駄にせず、自主練習で自分にできることに取り組んでいきたいと思います。まずは肩の怪我をしっかりと治し、春季リーグではチームが2部に残留できるよう準備を進めていきます。

最後に、日頃から私たちを支えてくださっている横江さんをはじめとするスタッフの皆様、応援して下さるOB・OGの皆様、そして共に戦ってきた部員の仲間たちに心より感謝申し上げます。2部で戦う来季、チームの力となるよう、一日一日を大切に努力していきます。

71 杉山晃一朗 すぎやまこういちろう

愛知県 江南高校 1年



春のリーグ戦、新人戦、上南戦、そして秋季リーグとお疲れ様でした。まずは、春季リーグでは三部で優勝をした一方で、二部との入れ替え戦では名古屋産業大学さんとの戦いの結果最終的には負けてしまい、悔しい思いをした反面、秋季リーグでは春季リーグと同様、三部優勝

から再び挑んだ形となった名古屋産業大学さんとの入れ替え戦では、激戦の結果、一勝で迎えた第二戦では延長線までもつれ込み最後は見事さよなら勝利という結果をおさめ、全員で勝ちとり、念願の二部昇格を果たしたことをとても喜ばしいことだと感じています。その中で、自分自身は久しぶりの野球ということもあり、ブランクを含めて苦戦した一年だったと感じています。特に、春のリーグ戦からは大学野球でのフィジカル面や技術面でのレベルの高さを見せつけられ、自分自身の野球の考え方についていろいろ考えさせられたと痛感しました。リーグ戦などでは出番がない中で、自分がチームで求められている役割についても大きく考えさせられ、レベルが高い大学野球の中で何ができるのかを考える毎日でした。高校とは違い、より芯でとらえなければならない木製バットでは練習でやみくもに一球一球の球を打つのではなくどこでとらえると飛びやすくなるのか、そのためにどのようなフォームから打つとよいのかなどに関して、野球を一から考えさせられるものだと感じました。また、守備面でもから一つ一つの動きに関してどのような形で入ることが必要とされているのかなどの打球判断やエラーを起こさせないようにするための状況判断などに関して改めて考えていくことが必要だと実感しました。そのような考えの反面、自分はやり続けることが大切でもあると考えます。特に、普段の練習での取り組み方日ごろの筋トレをさぼらないことなど日々の生活を一分一秒を身にしみて感じることで、二部昇格を果たした今、自分にできる精いっぱいのことを果たし少しでも今後の野球部に貢献できるように日々精進していきたいと思っています。

53 杉山奏太 すぎやま かなた

愛知県 栄徳 高校1年



この秋のリーグ戦では、チーム全員が粘り強く競い合い、最後まで集中を切らさずに戦い抜いたことで、優勝という大きな成果を手にすることができました。どの試合でも、一人ひとりが自分の役割を果たし、流れが傾きかけた場面では、誰かが必ず踏ん張ってくれました。その積み重ねが最終的に実を結んだのだと実感しています。また、二部・三部の入れ替え戦では独特の緊張感の中、決して簡単ではない試合をしっかりと勝ち切り、念願だった二部昇格を達成しました。これは、日々の努力が“偶然ではなく必然”として結実した、非常に象徴的な瞬間だったと思います。

一方で、自分自身の秋を振り返ると、胸を張れるようなシーズンではありませんでした。練習に十分に参加できなかったことで、チームが結果を残していく中で、自分はその流れに貢献できていないという不甲斐なさや劣等感を強く覚えました。自分のポジションには、非常に高い壁が存在していて、その“壁の厚み”を肌で感じさせられた秋でもありました。現実として今の実力では届いていない部分があり、その厳しさを突きつけられたことは事実です。ただ、それを理解できたことで、逆にもっと

上手くなりたいという気持ちがこれまで以上に明確になり、自分の弱さと真正面から向き合う覚悟も固まりました。

二部の舞台は、間違いなくこれまで以上に競争も激しく、求められるレベルも高くなります。その中で、自分がどれだけ存在感を発揮できるのか、そうしたことを主体的に考えながら取り組む必要があると感じています。この秋に味わった悔しさを、ただの後悔として終わらせるのではなく、成長の糧に変えていくことが今の自分に求められていることだと思います。練習への姿勢や準備の質を一つひとつ見直し、積み重ねるべきことを丁寧に積み上げて、今の自分に立ち足る壁を乗り越えていきたいです。

チームが新たなステージへ進む今、自分もその歩みに取り残されることなく、むしろそこにしっかり食らいつけるように気持ちを引き締めています。来季こそは、胸を張って「チームの力になれた」と言えるよう、日々の努力を怠らず、自分自身の限界を少しずつ押し広げていきたいと思っています。

63 小林 知暉 こばやし ともき

愛知県 松蔭高校 1年



秋リーグ、入れ替え戦お疲れ様でした。また秋で引退される3,4年生の先輩方、本当にお疲れ様でした。先輩方の技術の高さ、ここ1番での集中力、そして全力で野球を楽しむ姿を間近で見て、大きな刺激を受けました。秋のリーグ戦では、全勝で優勝を果たすことができました。そして2部との入れ替え戦では、前回の入れ替え戦で敗れた名古屋産業大学さんに2勝0敗で勝利し、念願の2部昇格を果たしました。春の悔しさを忘れず、日頃の練習から入れ替え戦を意識したことが結果に繋がったと思います。夏合宿でも、猛暑の中、声を出し合い、明るくメリハリのある姿勢で練習に取り組み、とても充実した夏だったと思います。個人としては、リーグ戦の出場はなく、練習試合のみの出場でした。しかし1年生同士で試合運営のサポートを行い、野球部の一員として先輩方を陰から支えることができました。プレー面ではバッティングと守備で大きな課題が残りました。木製バットになり、芯が小さくなったことで、力のない打球が増えてしまうことを実感しました。そこでインコースの捌き方、甘い球を確実に捉える技術、低めの変化球にバットが止まる技術が必要だと感じ、日々意識して練習してきました。またバットの軌道だけでなく、スイングスピードの重要性を強く感じ、体づくりの必要性も痛感しました。来季からは2部での戦いになります。相手投手のストレートや変化球のキレ、スピード、力強さはさらに上がると考えています。力負けしない体を作るために、ウェイトトレーニングを計画的に行い、理想のスイングに近づけるよう努力していきたいです。守備では特に球際の弱さが課題であり、体勢が崩れた際に、目線や体がぶれてしまうため、体幹を鍛え、球際に踏ん張れる選手を目指します。人数は少なくなりますが、その分一人一人にチャンスがあると思います。先輩方が果たしてくれた2部昇格を無駄にせず、チームの勝利に貢献できる選手となるよう、日々努力していきたいです。

66 鶴田 健人 つるた けんと
愛知県 安城学園高校 1年



秋季リーグお疲れ様でした。

秋季リーグではチームで目標にしていた2部リーグ昇格を達成することができました。

秋季リーグも、春季リーグ同様、試合に出る1年生もいるなか自分はスタンドからの応援となり、悔しい思いをしました。新チームにもなり、さらに試合に出たいという気持ちが大きくなりました。

2部リーグ昇格にあたり、必然的に対戦相手のレベルもあがり、今よりさらに個々の能力が求められるとおもいます。いまの自分の課題はバッティングにあると考えています。特に打席の中で強いスイングをすることができていないので、2部リーグの球速に対応するためにもスイングスピードの向上に努めていきたいと考えています。そのためにこの冬でジムを利用しながら筋トレを重ねていきたいと考えています。

自分は守備には自信がありますが、その中でも同じポジションの先輩にかなう守備範囲がなくそこも自分の課題だと考えています。その弱点をカバーするためにアジリティ系のトレーニングも重ね、俊敏性をつけていきたいと思います。また一歩目の速さを磨くことで守備範囲の狭さをカバーしていきたいと考えています。

まずは試合に出ている1年生に追いつくために自分の課題をもっと見つけ、修正できるようにしていきたいです。

部活としての練習機会はあまり多くなく、1日1日の練習がとても大切になります。なので、その少ない練習で自分の実力をアピールできるように自主的にトレーニングを行い、少ないチャンスをものにできるようにしたいです。

また、自分は将来高校教師になり、野球部の顧問として、野球の指導をしたいという目標があります。指導する立場では特に、選手をリードする能力が求められます。しかしいまの自分にはその能力はありません。今は野球の能力でチームを引っ張れる実力はないので、まずは準備や片付けで他の1年生に声をかけたり、自分から率先して行動することで些細なところからチームを引っ張れる能力をつけていきたいと考えています。

春になると新1年生が入ってきてさらにポジション争いが激しくなると思うので1年生に負けないように気合を入れていきたいです。

70 宗野 圭佑 むねの けいすけ
愛知県 小牧南 高校1年



秋季リーグ戦並びにリーグ入れ替え戦、お疲れ様でした。お忙しい中リーグ戦から入れ替え戦最終日まで現地に足を運んでくださったり、寄付金の贈与などOB,OG,及び学校関係者の方々、多方面による厚いご支援いただきありがとうございます。入学後、春季リーグからこの南山大学硬式野球部の一員として活動させていただいていることをとても光栄に思っております。チームとしては、2期連続の3部リーグ優勝、秋季リーグ入れ替え戦勝利、2部昇格といった誇らしい成績を残すことができ、最高の形でシーズンを終えることができました。リーグ戦期間中の試合を振り返れば、直近まで2部で戦っていた名古屋工業大学や春季リーグ我々と同率1位であった愛知淑徳大学といった難敵たちとの競った展開での試合で勝利を収めるといったヒリヒリする場面もありました。自分自身の経験として秋季リーグ戦の対大同大学戦ではベンチに入れてもらい最前線で試合に出場されている先輩方のすぐ傍で同じような空気感を味わうことができました。入れ替え戦に関しては、春季は初戦、序盤から点を重ねることができ自分たちが試合の主導権を握り快勝することができましたが、その後の2, 3戦目を相手投手に苦戦し負けてしまい3部残留という形になりました。秋季は春季の反省を生かし相手投手並びに対策が必要な要注意選手を頭に入れ試合に臨み1, 2戦をストレートで2勝することができ念願の2部昇格を果たすことができました。自分自身は春季、秋季のどちらでも実際にフィールドでプレーができたわけではないですが、先輩方の試合に臨む姿勢やプレーを肉眼で見ることができ、自身の今後の収穫になるものを得ることができたと思います。また、冬季からシーズンインまで約2か月あり、気温が低くケガをしやすい季節ですがウエイトトレーニング及びアジリティのトレーニングなどを通じて2部リーグ所属のチームのメンバーの一人であることを自覚し、さらなるレベルアップに努めていきたいと思っております。最後に、OB,OG,及び学校関係者の方々これからも南山大学硬式野球部のご支援のほどよろしくお願いたします。

75 野津 僚介 のづりょうすけ

愛知県 愛知高校 1年



秋季リーグ戦、本当にお疲れ様でした。今季は3部リーグを全勝で駆け抜け、さらに入れ替え戦でも堂々とした戦いぶりを見せ、念願であった2部リーグ昇格を実現することができました。ここまで長い期間、「2部昇格」という明確な目標に向けてチーム全員が同じ方向を向き、練習を積み重ねてきました。その努力が結果として形になり、目標を達成できたことを心から誇りに思いますし、多くの苦勞が報われた瞬間だったと強く感じています。しかし、昇格は決してゴールではなく、むしろここから本当の挑戦が始まります。2部リーグにはこれまで以上に実力のあるチームが揃っており、厳しい試合が続くことは間違いありません。

だからこそ、日々の練習に対する姿勢もこれまで以上に高い意識を持ち、技術面だけでなく戦術理解や状況判断の質をさらに向上させる必要があります。特に強豪チームを相手にした際、どのように試合を組み立て、どのタイミングで勝負を仕掛けるのかといった戦い方を考えながらプレーすることが求められます。チームとしての戦略理解を深めることはもちろん、一人ひとりが状況を読んで動ける力を磨いていかなければなりません。

個人としては、まず2部リーグのスピードやフィジカルにしっかり対応できるよう、冬の期間に基礎となる体づくりに力を入れて取り組みたいと考えています。筋力強化はもちろん重要ですが、それ以上に試合を通して高いパフォーマンスを保つための体力強化が欠かせません。2部リーグでは3部より試合数が増え、1試合ごとの強度も高くなることを想定すると、スタミナは非常に大きな武器になります。そのため、この冬は特に持久力向上を中心に据え、長時間の試合でも質を落とさず戦い抜けるコンディションを作り上げていきたいと考えています。昇格によって環境は大きく変わりますが、その変化を前向きに受け止め、自分の成長にもつなげながらチームの力になれるよう努力していきたいです。

90 藤田 大輝 ふじた たいき
三重県 宇治山田高校1年



南山大学に春から入学すると同時に、野球部に入部させてもらい数々の経験をさせてもらいました。特に印象に残ったことは24年ぶりの2部昇格についてです。春リーグに、私は一年生なのに登板の機会をもらい試合に出場させてもらいましたが、その後肘の故障で思うよう

に野球ができずにチームにも迷惑をかけていました。しかし、2部昇格に向けて必死に努力する先輩方や支えてくれた同級生がいて、なんとか私も復帰しようと日々トレーニングに取り組みました。本当は、試合に出たくて、試合に出てる選手や同級生たちを見て羨ましく思っていた自分がいました。しかし、そんな時でも胸の中で最後は、自分が2部昇格を決めるマウンドに立つんだと強い気持ちを抱いていました。そして、さまざまな練習試合で成長したり、上南戦を通じてメンバーとの絆を深めたりして、あとは自分が結果を出すだけだと意気込み続けました。そしてついに、秋リーグの優勝決定戦で念願の復帰登板を果たしました。結果もしっかりと無失点で抑えチームの勝利にも貢献できたと感じています。チームとしても入替戦への切符を手に入れることもでき、とても嬉しかったです。そして入替戦当日相手は春リーグで惜しくも惜敗をした名古屋産業大学でした。第1戦目は南山の打線が爆発し22対4と幸先よく初戦を勝利することができました。2部昇格に王手をかけこの流れのまま2戦目に挑みましたが、前日と違い打線は相手ピッチャーに抑えられ6回までに、4対1とビハインドの展開となっていました。しかし、選手は誰1人として諦めておらず、投手陣でも絶対勝ちに行くんだという気持ちでした。そんな6回から私は登板させてもらい、2回を無失点に凌がなんとか、投手リーダーの森上先輩に繋ぐことができました。その時森上さんは、「最後は僕たちの代は僕が最後締めると」力強く告げ、マウンドに向かわれました。本当に心強く頼もしい先輩に恵まれたのだと改めて思いました。そしてチームはビハインドでも南山らしく明るい野球で、流れを南山サイドに呼び込み4対5と逆転勝利をし、見事24年ぶりとなる2部昇格を成し遂げました。一年生の自分からしても本当に嬉しく、南山大学野球部の歴史を動かすことができたと誇りに思っています。先輩たちと野球ができた経験を踏まえ2部リーグでも目標を持って野球に取り組んでいきたいです。

マネージャー 一年 羽生暖花 はぶ のはな
愛知県 名古屋西



春から夏にかけて、南山大学硬式野球部の一員として過ごしてきて、あっという間に半年が過ぎました。入部した頃はできることが少なくて不安もありましたが、先輩方に丁寧に教えてもらいながら、少しずつマネージャーとして成長できたと感じています。特にスコアを書けるようになったことは大きな一歩でした。秋季リーグ戦では他大学のスコアも担当し、自分の大学の試合が終わっても残って作業を続けました。大変なこともありましたが、できることが増えていくのが嬉しくて、チームに貢献できているという実感が湧きました。

チームは「やるときはやる」雰囲気があり、試合では大きな声が出ていて、一体感があります。仲が良く、お互いを理解しているからこそ、ここぞという場面でナイスプレーが生まれると思います。見ていて楽しい野球をしてくれる選手を心から尊敬しています。

そして、何より先輩マネや部員の先輩方の存在がとても心強いです。寄り添って支えてくれる先輩マネと野球を楽しそうにのびのびとプレーしている先輩選手。本当にかっこよくて、この部活に入ってよかったと感じる一番の理由です。

2部リーグへの昇格が決まり、これから部の仕事が増えたり、さらに複雑になったりするかもしれないけれど、一つひとつの仕事に責任感を持ち、丁寧に最後までやり

遂げたいです。また、アナウンスやスコアの面でもパワーアップし、選手と同じようにチームの指揮を支えていきたいです。

これからは、2部リーグで戦う力をキープし続けられるよう、全力でサポートしていきます。先輩マネが留学でいない分、私たちが中心となって頑張ります。まだまだ未熟ですが、これからも学びながら成長し、チームの力になれるよう取り組んでいきます。

マネージャー 一年 石田桃子 いしだももこ
愛知県 桜台



秋季リーグ戦お疲れさまでした。日頃より横江監督をはじめ、OB・OGの皆さま、父兄の方々、関係者の皆さまからの温かいご支援、ご声援に心より感謝申し上げます。

秋季リーグ戦では、接戦となる試合が多く、厳しい展開が何度もありましたが、選手たちが最後まで粘り強く戦う姿に大きな感動をもらいました。二部リーグ昇格に向けて一生懸命活動していた姿を見ていた分、二部リーグ昇格を果たすことができ、本当に嬉しかったです。また、試合にはたくさんの方が駆けつけてくださり、改めて多くの方に応援していただいていること、またその応援のありがたさを実感しました。

マネージャーとして活動を続ける中で、選手にどのような声をかけるべきか迷ったり、慣れない仕事に戸惑った

りすることも少なくありませんでした。特に帳簿の管理や部費の回収を思うように進めることができず、自分の力不足に不甲斐ない思いをすることもありました。それでも、先輩マネージャーや選手、同期のマネージャーのおかげで、少しずつ自分の役割がわかり、春と比べてマネージャーとしてできることが増えてきたように感じています。

二部リーグに昇格したことで、これからはより厳しい環境の中で、これまで以上に多くの仕事を任されることになると思います。まだ未熟な部分はありますが、ひとつひとつの仕事に責任を持ち、選手が練習に集中できるような環境づくりに力を尽くしたいです。冬は活動が減ってしまうため、少し寂しさもありますが、その間もマネージャーとしての仕事をきちんとこなし、次のシーズンに向けて成長する時間にしたいと考えています。

秋季リーグ戦を終え、新チームとしての活動が始まりました。これからもチームの一員として責任を持ち、できることを増やしていきたいと思います。そのためにも自分がチームのためにできることを常に考え、頼りにしてもらえそうなマネージャーになりたいです。

二部リーグ昇格後も変わらぬご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます

打撃成績 規定打席数 13打席												
	打率	打席	打数	得点	安打	打点	犠打	犠飛	四死球	盗塁	三振	残塁
今福	0.2381	27	21	1	5	3	0	1	5	2	1	9
齋藤	0.2143	17	14	0	3	4	0	0	2	2	2	5
小野	0.1538	18	13	1	2	0	0	0	4	0	2	4
花井	0.3636	15	11	3	4	0	0	0	4	0	0	4
辻	0.25	20	16	4	4	3	0	0	4	0	0	2
蛭川	0.2	13	10	2	2	0	0	0	0	0	4	3
殿内	0.1	13	10	1	1	5	0	2	0	0	6	1

投手成績 規定投球回数 10回													
	防御率	投球回数	打者	打数	安打	犠打	犠飛	四球	死球	奪三振	暴投	失点	自責点
田島	1.8	10	42	24	5	0	0	3	1	3	0	3	2
齋藤	2.25	12	60	48	14	0	0	8	1	12	0	6	3

打撃成績 規定打席数 3打席												
	打率	打席	打数	得点	安打	打点	犠打	犠飛	四死球	盗塁	三振	残塁
海老	0.464	36	28	13	13	3	0	0	8	14	2	5
小野	0.684	26	19	10	13	10	0	0	7	1	0	6
今福	0.514	44	35	14	18	10	0	2	8	5	1	8
小西	0.166	32	24	7	4	1	0	0	8	2	1	5
漆谷	0.5	20	14	3	12	4	0	3	3	0	1	4
辻	0.571	41	35	9	20	6	0	1	5	3	4	7
花井	0.866	38	30	11	26	13	1	2	5	0	1	8
齋藤	0.4	37	30	7	12	9	0	2	5	2	3	7
林	0.92	37	25	11	23	8	0	1	11	7	9	8
西塚	0.44	30	25	6	11	6	0	1	5	0	6	6

投手成績 規定投球回数 2回													
	防御率	投球回数	打者	打数	安打	犠打	犠飛	四球	死球	奪三振	暴投	失点	自責点
齋藤	4	9	46	36	9	0	1	7	2	3	0	1	4
田島	0.75	12	63	47	10	1	2	11	2	7	0	6	1
森上	0	8	33	30	4	2	0	1	0	7	0	0	0
加藤	0	15	62	51	11	1	1	7	1	7	0	3	0
木村	0	8	36	30	8	0	0	3	3	9	0	3	0

秋オープン戦打率ランキング

1位花井 2位辻 3位今福

防御率ランキング

1位田島 2位齋藤旺介

秋リーグ戦打率ランキング

1位林 2位花井 3位小野

防御率ランキング同率 1位 森上 木村 加藤

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
		深谷 浩大	
		佐崎 歩	
	マ	三上 紗奈	女性委員
	マ	神谷 彩歌	
令07	将	宇野 敬樹	
		大林 駿介	
		園井 飛悠吾	
		田中 颯一郎	
		柴 蒼輝	
		古庄 勇斗	
		片田 柁	
		小澤 奏太	
	マ	岡本 歩乃佳	

歴代野球部長先生名簿			
監督		柴垣	
部長		成沢 理平	S27~29
部長		小林 知生	S29~36
監督		中島 国次郎	S29㊦
監督		松井 徳三	S31㊦
監督		伊藤 真光	S32㊦
監督		クリップ・フェアチャイルド	S34㊦
監督		ハジメ 神父	S35㊦
部長・監督		町田 俊昭	S37㊦
部長・監督		森 茂也	S39㊦
部長・監督		八嶋 師勝	S44㊦47+50
部長		鎌田 一美	S48㊦
部長		花井 敏	S51㊦
部長		沢木 勝茂	S54㊦
部長		成生 達彦	S57㊦
部長		中矢 俊博	H10-11
監督		木村 友浩	H10㊦
部長		西岡 淳	H12/43㊦
監督		横江 光義	H24㊦

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業		幹	氏名	役職
	故人		渡邊 重治	
昭38			油 幸生	
			勘解由 茂幸	
			竹内 三輝夫	
			田中 晴治	
			長谷川 齊	
		将	平林 和憲	
	故人		牧野 雅樹	
		松原 立亜	学年担当	
昭39	故人		井上 和夫	
			大橋 忠三	
			近藤 征宏	
	故人		宗宮 孝二	
			藤井 亘	
		将	布施 勝	
		三輪 隆介	相談役	
昭40			市江 富士夫	学年担当
	故人		近藤 光哉	
	故人		志水 弘明	
	所在不明		藤井 匠	
			松岡 隆春	
		将	和田 堅一	
昭41		将	井上 正幸	学年担当
	故人		木戸 雄一郎	
			鈴木 武志	
	所在不明		森 清泰	
昭42			浅井 高一	
			伊藤 正徳	
		務	内田 寿彦	
		将	中島 元	学年担当
	故人		水谷 多嘉夫	
			水野 和近	
	故人		望月 國年	
昭43		務	神谷 征二	
			白木 俊雄	
			鈴木 良二	
		将	森本 伉	相談役/会計監査
昭44			小川 辰夫	
			木全 康裕	
	故人	将	久野 正男	
			高木 邦彦	
			竹内 義和	
			徳永 襄	
			三井 隆一	学年担当
	所在不明		山内 孜	
			山田 浩美	
			山田 勲	
	所在不明		山田 重信	
			山本 哲也	
		務	渡辺 誠典	
昭45			小川 良彦	
	所在不明	務	河村 清	
			橋村 好人	
		将	早川 和久	相談役
		光島 穂	相談役	
昭46			各務 秀次	
		将	佐藤 隆男	学年担当
	故人		渋谷 哲也	
	故人		根本 英夫	
	所在不明	務	野崎 幸男	
	所在不明		長谷川 伸幸	

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業		幹	氏名	役職	
			藤川 友典		
昭47	故人	将	宇佐美 和市		
	故人		越智 正生		
			小林 実		
			西田 晴紀		
	所在不明		林 静夫		
	故人	務	渡辺 政信	学年担当	
昭48		将	木村 芳夫	学年担当	
		務	鎌本 正雄		
昭49			天野 達男		
			稲垣 良太		
			井上 孝一		
			尾崎 和洋		
		マ	尾崎 栄子		
			小林 史典		
		将	篠田 利光	学年担当	
昭50			柴田 準治	学年担当	
		将	鈴木 直明		
	所在不明		野口 克美		
			和田 宗起		
昭51		将	森戸 謙二		
		務	山口 幸彦	学年担当	
昭52			大塚 真一		
		将	原 悟晃	学年担当	
			伊藤 隆友		
			岡本 金鏡		
昭53		務	石原 嘉明		
		将	甲村 巖	学年担当	
			豊田 健伸		
			服部 誠夫		
昭54		務	小澤 勝	学年担当	
	故人		森 俊明		
		将	森 英雄		
昭55		将	岩田 仁志	相談役	
			串田 神明		
			小林 雅昭		
			汐瀨 宗隆		
			野田 照実		
		マ	長谷川和香代	相談役/ 女性部長	
			服部 弘敏		
			平松 恒雄		
昭56		将	石田 真一	学年担当	
			糸川 和男		
	所在不明	マ	上野 敬子		
			鷹田 弘行		
			尾関 政彦		
			須戸 幸寿		
			永田 喜久		
			藤栄 啓介		
昭57	所在不明	務	浅井 健治		
			石川 浩		
			内山 博英		
		将	上村 修市	学年担当	
			栗木 久直		
		務	橋 明彦		
			浜島 剛		
		佐藤 喜一郎			

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
昭58		佐藤 直幸	
	所在不明	上野 浩	
	所在不明	マ 宇佐美ゆき子	
	所在不明	大島 久	
		務 黒釜 直樹	学年担当
		酒井 学	
		桜井 純平	
	所在不明	鶴田 辰也	
		藤吉 斎	
	古川 高志		
	将 山川 誠		
昭59	所在不明	久野 晃市	
		マ 小島 由喜枝	
		小林 正孝	
		杉浦 裕秋	
		務 堀井 剛	
		松尾 高志	
		山崎 英次	
		将 山田 誠	幹事
	所在不明	山守 正記	
昭60		伊藤 武志	
		大池 祥吾	
		大橋 恵一	会長/事務局長/会報担当
		金本 朗成	
		島田 和典	
		将 新谷 福男	相談役
	所在不明	マ 藤枝 奈保子	
	マ 綿井 とし恵		
昭61		上原 晃	
		大矢 英貴	
		神谷 昌治	
		桑原 浩彰	副会長/中間層担当
	所在不明	河野 誠	
		将 佐藤 宏昭	
	松尾 理恵	女性委員	
昭62		秋葉 寛	副会長/中間層担当
		マ 秋葉 奈緒美	理事/女性副部長
		柿下 浩幸	
		マ 川嶋 紀美	
		小出 秀忠	
		将 空 英明	
	故人	松尾 英二	
所在不明	山下 厚		
昭63		大河内 一夫	
		河島 英行	
		久野 鉄史	
	所在不明	斎藤 憲正	
		鈴木 正良	
		マ 徳田 深穂	
		将 平松 利邦	幹事
	所在不明	前澤 完一	
		益山 真一	
		森 崇史	
		山田 博文	
	伊藤 栄治		
平01		田中 亨	
		南野 晴彦	学年担当
		水野 浩一	
	所在不明	将 宮川 和之	
平02		市川 智之	
		近藤 和	

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
	マ	佐藤 美保子	
	所在不明	将 徳田 征司	学年担当
	マ	長谷川 敦子	
		松岡 均	
平03		下永吉 純一	
		鶴田 毅	
	マ	鶴見 清華	学年担当/女性委員
		花木 康夫	
	将	横井 太一	
平04		渡辺 淳	
		神谷 充洋	学年担当
		河合 健吾	
		藤岡 貞雄	
		水谷 泉	
	所在不明	森本 昌和	
平05	将	江山 明	
		塚田 祐史	
		角田 佳英	
	所在不明	新浪 啓隆	
	所在不明	松波 宏隆	
		水本 博嗣	学年担当
		山口 真一	
		山中 大樹	
平06	将	藤井 維人	
	所在不明	笹尾 守仁	
	将	阿部 賢一	
		石田 耕造	
		伊奈 敏弥	
	所在不明	務 加藤 英彦	学年担当
		河内 建亮	
	マ	鈴木 佳代	
		鈴木 健一	
		田口 浩一	
平07		長谷川 義	
		原 紀乃	
		今井 雅彦	
		江川 正晃	
	務	奥出 朝紀	
	所在不明	マ 神谷 美香	
平08	所在不明	兵藤 琢也	
	将	山本 一久	学年担当
	務	岩田 広重	
	マ	岩田 由起子	
	マ	大村 昇与	
		酒井 敦吾	
	マ	竹田 理恵	
平09	将	小田 良一	学年担当
		松長 則幸	
		阿部 浩和	
		大村 弘司	
		木下 裕貴	
	所在不明	齋田 哲也	
		杉浦 恒裕	
	マ	田中 貴美	
	所在不明	将 堤田 智樹	学年担当
		日比野 恭一	
平10		村山 大我	
	所在不明	山田 卓司	
	所在不明	近藤 倫弘	
		太田 豊	
	所在不明	マ 岡本 舞	

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
		加藤 靖二	
		木村 友浩	理事/若年層&現役担当
		後藤 智徳	
		田中 勇介	
	マ	橋本 真由美	
		古田 洋介	
	将	浅田 淳一	
平11	所在不明	将 高橋 英男	
	所在不明	佐々木 俊夫	
	所在不明	マ 中井 綾子	
		長尾 寛之	
	マ	中野 絵夢	
		長谷川 裕昭	
		服部 洋	幹事
		深谷 昌秀	
		星野 誠	
平12		神藤 貴康	
	所在不明	高嶋 良	
		竹内 裕二	
	マ	竹内 芳絵	女性委員
	将	寺島 弘人	学年担当
		山崎 剛	
平13		稲垣 雅一	
	将	伊夫伎 学	幹事
		長谷川 司郎	
	マ	杉山 真規子	女性委員
		横江 光義	理事/監督
平14	マ	村井 史子	女性委員
	務	谷口 剛士	幹事
	所在不明	将 登坂 俊憲	
平15	務	浅井 崇博	
	所在不明	金澤 賢一	
	将	近藤 友樹	理事/若年層担当
		杉野 敬昭	
		高橋 祐介	
		中山 剛	
	マ	天野 ゆみ子	女性委員
平16		鏑山 悟史	
		内田 敦規	
		太田 大海	
	マ	横田 麻衣子	理事/女性副部長 /若年層女性担当
		前畑 俊夫	
	所在不明	務 松永 仁志	
	将	横田 智成	理事/若年層担当
平17	将	渡邊 高章	幹事
	務	谷本 貴規	委員
平18		秋山 晋太郎	
		阿部 健志	
		池場 広明	
	務	内山 耕	委員
		片山 壮二	
	マ	北岡 寛子	
	所在不明	中村 良	
	将	平井 和昂	幹事
	マ	広金 聖美	女性委員
		村田 俊一郎	
平19		岩田 光将	
	所在不明	河野 洋典	

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
	所在不明	太田 裕二	
		大堀 匠平	
	将	松永 泰典	幹事
	マ	山口 英美花	理事/女性副部長 /若年層女性担当
		山田 容三	
		山村 圭一	
	務	和田 直樹	委員
平20	マ	菊池 麻衣子	
	務	加藤 丈博	委員
		清水 健吾	
	将	白石 直大	幹事
		野村 耕二郎	
	マ	原田 彩乃	
平21		松永 卓也	
	マ	龜山 直美	女性委員
	所在不明	飯田 翔	
		上野 由貴	
	務	大口 友樹	委員
		久保 和音	
	将	小寺 貴久	幹事
平22	マ	谷 香織	女性委員
		西口 直輝	
		船橋 徹	
	所在不明	大澤 正幸	
		木村 翔人	
	マ	瀬藤 祐梨	女性委員
	務	瀧 勇士	委員
平23	マ	田口 亞純	
		長谷川 泰史	
		龜山 雄太	
		服部 啓太	
	将	前川 卓哉	理事/若年層担当
		大崎 敏三	
	マ	粕谷 優衣	
		加藤 康仁	
		黒川 祐樹	
		近藤 崇史	
		高塚 俊直	
	所在不明	田口 修平	
	マ	西岡 佑奈	
平24		長田 幸樹	
	将	西山 貴陽	幹事
	マ	橋本 純奈	女性委員
		山本 圭悟	
	務	渡邊 真也	委員
	将	富田 大嗣	幹事
		多田 修平	
		森 一憲	
		永松 大嗣	
	務	土谷 剛	委員
平25	マ	高木 一憲	委員
		長尾 香菜	女性委員
		茶谷 一徳	
	所在不明	将 浅野 郁己	幹事
		田内 貴大	
		加納 宗明	
	所在不明	務 町田 潤	委員
		上田 大地	
所在不明		松村 幸輝	
所在不明		竹内 恭平	

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
		鈴木 博皓	
		加藤 哲	
	所在不明	吉岡 利展	
		金沢 崇太	
		佳久 耀	
	所在不明	マ 二村 沙耶	女性委員
平26		マ 長谷川 奈実	
	務	大島 啓徳	委員
		岡川 量哉	
		笠松 拓馬	
		佐藤 諒明	
	所在不明	将 孫 榮優	幹事
		田原 亮佑	
		西林 佑次朗	
	所在不明	野村 和貴	
		星野 由貴	
平27		マ 垣見 友美	女性委員
		高木 愛加	
	所在不明	石藤 陽一	
		太田 鴻介	
		尾崎 圭佑	
		小島 久育	
		梶尾 一太	
		将 清水 大志	幹事
		務 出口 敦嗣	委員
	所在不明	戸田 将斗	
		古川 陽大	
		水谷 健人	
	所在不明	森 建人	
平28		マ 高橋 照美	女性委員
		安藤 健吾	
	所在不明	池田 健次	
		務 伊藤 洋祐	委員
		小倉 卓也	
		亀嶋 勇介	
	所在不明	杉江 駿介	
		鈴木 智仁	
	所在不明	立花 聖人	
		竹内 雅貴	
平29		将 宮本 聖也	幹事
	所在不明	マ 藤居 美帆	女性委員
	所在不明	今泉 純哉	
		石野 大希	
	所在不明	小日向 優人	
		吉田 有希	
		宮地 裕也	
		成瀬 拓哉	
	所在不明	寺西 一樹	
		中村 圭吾	
平30		将 山崎 智輝	理事/若年層担当
		高橋 啓聡	
		宮田 一朗	
	所在不明	永田 友李	女性委員
		菊田 真央	
		将 南 徳宏	学年担当
		澤田 耕輔	
		務 安藤 駿	
	平松 拓也		
	戸谷 辰徳		
	浜本 龍輝		
	マ 林 りか		

南友会名簿 卒業年度順

令和5年7月末現在

卒業	幹	氏名	役職
平31	マ	小野寺 香帆	女性委員
		石黒 航季	
		山口 賢人	
	所在不明	吉川 雄貴	
		岡本 秀之	
	将務	柳原 慎之介 雪山 大地 大塚 仁	学年担当
令02	将務	成瀬 弘樹	理事/OB職開催担当
		筒井 樹	
		松本 悠希	
		川並 織仁	
		柴山 友宏	
		服部 華之	
		四熊 俊紀	
		八木 宣久	
		鈴木 啓仁	
	マ	神谷 美咲	女性委員
令03	将務	梶野 駿太郎	学年担当
		石川 航平	
	務	永見 拓也	
		児玉 智哉	
		原 慎弥	
		飯吉 泰暉	
		大善 誠人	
		新田 眞	
		本村 眞一	
		三輪 大貴	
	所在不明	山口 宗泰	
		鈴木 篤司	
		中野 大成	
		坪井 太吉	
	マ	今村 和香	女性委員
令04	将務	畑 祐輔	学年担当
		天野 椋太	
		小林 丈	
		木下 泰樹	
		袴田 将孝	
		長田 啓斗	
		宮本 拓	
	務	西村 大河	
		曾我 亮介	
	マ	武藤 理沙	女性委員
令05	将務	田之岡 幸祐	学年担当
		近藤 陽南太	
		藤谷 典寿	
	務	森下 翔都	
		倉知 良樹	
		守田 俊輔	
		西崎 健人	
マ	濱田 美香	女性委員	
令06		片山 皓太	
		小野 裕心	
	将務	川人 祐太	学年担当
		谷口 雄太	
		近藤 翔太	
		武馬 佑	
		水谷 魁磨	
		谷 知樹	
		原科 拓磨	

2025役員組織表及び会員数

卒業	役職	氏名	役割分担
昭39	相談役	三輪 隆介	
昭43	相談役/会計監査	森本 侑	
昭45	相談役	早川 和久	
昭45	相談役	光島 稔	
昭55	相談役	岩田 仁志	
昭55	相談役	長谷川和香代	女性部長
昭60	相談役	新谷 福男	
昭60	会長	大橋 恵一	総務担当事務局長/会報編集担当
昭61	副会長	桑原 浩彰	中間層担当
昭62	副会長	秋葉 覚	中間層担当
昭62	理事	秋葉 奈緒美	女性副部長/中間層女性会員担当
平10	理事	木村 友浩	若年層会員&現役担当
平13	理事/監督	横江 光義	監督/若年層会員&現役担当
平15	理事	近藤 友樹	若年層会員担当
平16	理事	横田 智成	若年層会員担当
平16	理事	横田 麻衣子	会計兼任/女性副部長/若年層女性会員担当
平19	理事	山口 美梨花	女性副部長/若年層女性会員担当
平22	理事	前川 卓哉	若年層担当
平29	理事	山崎 智輝	若年層担当
令02	理事/会計	成瀬 弘樹	若年層/OB戦開催担当
	部長	西岡 淳	
	主将	花井 慧汰	
	副主将兼主務	西塚 制覇	
	マネージャー	齋藤 希	

令和7年7月末現在

卒業	役職	氏名	卒業	役職	氏名	人数	故人	所在判明数		所在不明数		04 会費	05 会費	06 会費
								男性	女性	男性	女性			
			昭24	学年担当	清水 亨	6	4	1		1				
			昭25	学年担当		5	2	2		1				
			昭26	学年担当	藤井 達男	4	3	0		1				
			昭28	学年担当	廣田 敏	4	1	3						
			昭29	学年担当		4	3	1						
			昭30	学年担当		9	6	3						
			昭31	学年担当		3	2	1						
			昭32	学年担当		4	2	0		2				
			昭33	学年担当		3		2		1				
昭35	幹事	山田 太満彦	昭34	学年担当	山田 太満彦	10	3	6		1		3	3	2
			昭35	学年担当	川上 隆三	3	2	1						
			昭36	学年担当	内田 喜章	3		3						
			昭37	学年担当		4	4	0						
昭39	相談役	三輪 隆介	昭38	学年担当	松原 立亜	8	1	7				1	1	
			昭39	相談役	三輪 隆介	7	2	5				1	1	1
			昭40	学年担当	市江 富士夫	6	2	3		1				
			昭41	学年担当	井上 正幸	4	1	2		1				
			昭42	学年担当	中島 元	7	2	5				1	1	1
昭43	相談役	森本 侑	昭43	相談役	森本 侑	4		4				2	2	2
			昭44	学年担当	三井 隆一	13	1	10		2				2

卒業	役職	氏名	卒業	役職	氏名	人数	故人	所在判明数		所在不明数		04 会費	05 会費	06 会費	
								男性	女性	男性	女性				
平20	幹事	白石 直大	平20	学年担当	白石 直大	7		5	2			1	1	1	
			平20	委員	加藤 文博										
			平20	女性委員	富山 直美										
平21	幹事	小寺 貴久	平21	学年担当	小寺 貴久	8		6	1	1					
			平21	委員	大口 友樹										
			平21	女性委員	谷 香織										
平22	理事	前川 卓哉	平22	理事	前川 卓哉	9		6	2	1		1	1		
			平22	委員	瀧 勇士										
			平22	女性委員	巖瀬 祐梨										
平23	幹事	西山 貴陽	平23	学年担当	西山 貴陽	13		10	2		1		1	1	
			平23	委員	渡邊 真也										
			平23	女性委員	橋本 純奈										
平24	幹事	富田 大嗣	平24	学年担当	富田 大嗣	7		6	1						
			平24	委員	高木 一憲										
			平24	女性委員	長尾 春菜										
平25	幹事	浅野 郁己	平25	学年担当	浅野 郁己	15		8	1	5	1				
			平25	委員	町田 潤										
			平25	女性委員	長谷川 奈実										
平26	幹事	孫 榮優	平26	学年担当	孫 榮優	11		7	2	2					
			平26	委員	大島 啓徳										
			平26	女性委員	垣見 友美										
平27	幹事	清水 大志	平27	学年担当	清水 大志	12		8	1	3					
			平27	委員	出口 敦嗣										
			平27	女性委員	橋 照美										
平28	幹事	宮本 聖也	平28	学年担当	宮本 聖也	11		7		3	1				
			平28	委員	伊藤 洋祐										
			平28	女性委員	藤居 美帆										
平29	理事	山崎 智輝	平29	理事	山崎 智輝	12		8	1	3		1	1		
			平29	女性委員	永田 友李										
平30	幹事	南 徳宏	平30	学年担当	南 徳宏	10		8	2						
			平30	女性委員	小野寺香帆										
平31	幹事	榊原 慎之介	平31	学年担当	榊原 慎之介	7		6		1					
令02	理事 若年層担当	成瀬 弘樹	令02	学年担当	成瀬 弘樹	10		9	1			2	3	1	
			令02	女性委員	神谷 美咲										
令03	幹事	梶野 駿太郎	令03	学年担当	梶野 駿太郎	15		13	1	1		1	1		
			令03	女性委員	今村 和香										
令04	幹事	畑 祐輔	令04	学年担当	畑 祐輔	10		9	1			1	2		
			令04	女性委員	武藤 理沙										
令05	幹事	田之岡 幸祐	令05	学年担当	田之岡 幸祐	8		7	1				1	1	
			令05	女性委員	濱田 美香										
令06	幹事	川人 祐太	令06	学年担当	川人 祐太	13		11	2						
			令06	女性委員	三上 紗奈										
令07	幹事	宇野 敏樹	令07	学年担当	宇野 敏樹	8		7	1						
			令07	女性委員	岡本 歩乃佳										
小計						553	48	384	48	65	8	67	72	61	

会費納入分布 (但し、令和7年3月末時点の状況です)

70才以上(～S51)	12/82=14.6%
60才以上(～S61)	26/59=44.1%
50才以上(～H8)	8/62=12.9%
40才以上(～H18)	9/58=15.5%
30才以上(～H28)	4/83=4.8%
22才以上(～R6)	2/80=2.5%
(R7卒業は除く)	61/424=14.4%

合計	故人	所在判明数		所在不明数	
		男性	女性	男性	女性
	48	377	47	65	8
	48	424		73	
48	497				
545					

祝2部昇格

 **NetRICOH**  **kawnet**
www.netrichoh.com 事務機通販は当社におまかせ下さい

OA機器・スチール家具・事務用品 有限会社オフィスハヤカワ 052-794-2400
昭和45年卒業 早川 和久

発行協力

南山大学硬式野球部 OB 会 南友会

NANZAN BLUE SOX

早川和久・大橋恵一・成瀬弘樹

南友会事務局

住所変更などのご連絡は下記までお願いします。

E-mail: keichi.ohashi0316@gmail.com



NANZAN BLUE SOX

<https://www.nanzanbaseball0809.com/>